



Title	Hokkaido University Natural History Museum 所蔵ネズミ科標本の採集情報
Author(s)	加藤, 克
Description	この資料はサイト「札幌博物館研究」 http://www.fsc.hokudai.ac.jp/mk_hunhm/index.html からもダウンロード可能です。 http://www.fsc.hokudai.ac.jp/mk_hunhm/index.html
Citation	札幌博物館研究会誌, 2021, 1-91
Issue Date	2021-03-29
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/80877
Type	journal article
File Information	HUNHM_magazine_2021_01_91.pdf



Hokkaido University Natural History Museum 所蔵ネズミ科標本の採集情報

加藤 克*

* 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園・博物館 Botanic Garden & Museum (HUNHM), Field Science Center for Northern Biosphere, Hokkaido University, 060-0003, Sapporo, Japan

はじめに

Hokkaido University Natural History Museum (HUNHM) は 1877 年に開拓使札幌仮博物場として設立され、1884 年の札幌農学校移管以降、北海道大学の大学博物館として活動してきた⁽¹⁾。起源が北海道開拓促進とその成果発信を目的とする博物館であったことから、明治初期に開催された博覧会に関係する産業・歴史資料や展示用の絵画資料なども所蔵されているが、札幌農学校移管以降に北海道大学や HUNHM を中心として進められた研究の成果である動物学標本、考古学資料、民族学資料などを含む総合博物館として位置づけられてきた。なかでも、19 世紀末以降、代々の博物館長を北海道大学の農学部旧動物学教室⁽²⁾の教授が務めていたこともあり、研究資源としての動物学標本が充実していることが特徴である。

動物学標本のうち、鳥類分野については「ブラキストン線」の発見に用いられた T.W. ブラキストン採集標本をはじめとする所蔵標本目録が複数刊行され (Yamashina et al. 1932; Yamashina & Mukasa 1934; Yamashina & Ikeda 1935; 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2004; 加藤 2018)、また 19 世紀末から 20 世紀前半にかけては所属教官であった村田庄次郎による報告や山階芳麿らによる研究利用 (村田 1900a; 山階 1930 など) などによって広く知られてきた。しかしながら、哺乳類分野については絶滅したエゾオオカミや人喰いグマなど個別の標本については注目されてきたものの、研究資源として、あるいはコレクションとして認知されることが少なかった。この理由として、明治から大正期の標本採集の中心的存在だった村田が、内国勧業博覧会における鳥獣剥製師としての経歴 (関ら 1990; 沖野 2000) から鳥類のみに関心を持っていたわけではなかったと考えられるものの、発表した論文 (村田 1900a, 1900b, 1901a, 1901b, 1902; 八田・村田 1905) はすべて鳥類を対象とするものであること、樺太における動物調査報告 (村田 1914) も記載の中心は鳥類となっており、より関心を持って調査・収集・管理していたためであることは想定される。

HUNHM における動物学標本の収集が鳥類に偏っていたことは、その標本点数からもうかがうことができる。1884 年の札幌農学校移管時は鳥類標本 402 点に対し哺乳類標本 66 点 (86:14)、1890 年ごろに整備された台帳の掲載点数では鳥類標本 1,175 点に対し哺乳類標本 119 点 (91:9)、1910 年ごろの標本台帳の分類別の標本番号に基づけば鳥類標本 2,925 点に対し哺乳類標本 182 点 (94:6) と年を経るにしたがって鳥類標本の比率が高まっていたことが把握される。また、1910 年ごろにはブラキストン標本約 1,300 点 (加藤 2012a)、台湾産鳥類標本約 500 点 (加藤ら 2010)、ニューヨークのアメリカ自然史博物館との交換で入手されたアメリカ大陸産鳥類標本約 570 点 (加藤・市川 2004) のほか、村田による樺太動物調査の成果としての約 500 点 (加藤 2012b) など大規模なコレクションが加わり、鳥類標本の充実がさらに進められていた。

一方、HUNHM における哺乳類標本の収集は順調には進んでいなかった。20 世紀初頭に館長であった八田三郎はシカやクマについての調査 (八田 1911, 1933 など) を実施し、アジア各地のシカ類の角を収集していた形跡はあるものの、本来はヤツメウナギを研究対象としていたため、大規模な哺乳類標本の収集は行っていなかった。八田の後任である犬飼哲夫は当初は発生学を専門としていたが、のちにタイリクヤチネズミ (エゾヤチネズミ) による森林被害調査とイタチの導入による被害対策、また北海道内各地のヒグマ頭骨標本を収集して研究を行っていた (犬飼 1949; Inukai & Mukasa 1943 など)。これらの多くは分類学的研究と異なり、当時の研究室の名称でもあった応用動物学研究として進められていたため、標本の蓄積を目的としたものではなかった。また、ネズミを主対象とした応用動物学研究は太田嘉四夫ら動物学教室の構成員によって推進されていたこともあり、その研究で得られた標本は HUNHM に蓄積されることはなく、逆に HUNHM の所蔵標本が動物学教室に持ち出されるようなこともあった。

(1) 時代によって博物館の名称が異なるため、本稿において組織名を示す場合は HUNHM として表記を統一する。

(2) 教室・研究室の名称も時代によって異なるが、本稿では動物学教室として表記を統一する。

20 世紀半ばの HUNHM には動物学教室出身の芳賀良一（在職期間 1949-1958 年）が助手として在職していた。芳賀が関与したと考えられる哺乳類標本は HUNHM に残されているが、在職期間が短期間であること、また在職期間中の研究は応用動物学研究と南極観測のための調査に偏っていたこともあり、この時期の収集標本は多いとはいえない。芳賀の後任である阿部永（在職期間 1961-1969）は食虫類を主対象にしつつ小型哺乳類全般の分類研究などを行っていたことから、優れたコレクションを構築していた。ただし、その目的は HUNHM のコレクションの蓄積、充実ではなく自身の研究のための収集であったことから、1969 年に阿部が動物学教室の助教授として異動した際に標本も個人所蔵標本として移動することになった。

以上のような歴史的背景から、HUNHM の哺乳類標本は点数が少なく、注目されるようなコレクションも構築されなかった。また、哺乳類研究とその成果の蓄積が HUNHM ではなく動物学教室で行われていたため、研究利用者からの関心も教室所蔵標本や阿部の個人コレクションに寄せられ、結果として HUNHM に所蔵されている標本が活用されなかったといえる。しかし、1997 年に北海道大学を退官した阿部永から約 9,000 点の小型哺乳類標本のコレクションの寄贈を受け、また 2002 年の農学部改修工事に伴い教室の標本室が維持できなくなり、その所蔵標本の大部分が HUNHM に移管されることになった。また、理学部に保管されていた動物学標本のうち、小型哺乳類と鳥類標本も 2010 年に HUNHM に移管され、北海道大学で実施されていた小型哺乳類を対象とした研究の証拠標本が集約されることになり、これらを大学における研究資源、博物館標本として再整備し、一層の活用を図るための体制整備が急務となった。

これらのうち、阿部コレクションについては阿部によって整備された情報に基づいて目録として刊行した（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2013）。一方、動物学教室標本については、ヒグマ頭骨標本の整理結果を報告している（高谷ら 2010; 加藤ら 2011）が、その報告にみるように、標本から採集情報が欠落していたり混乱している。これは、これらの標本が博物館標本として採集、整備されることを想定せず、応用研究の材料として、あるいは個人研究の材料として扱われ、情報を適切に付与したり、残そうとしなかった、あるいはその必要性を認めなかったためであると考えられる。この傾向は、動物学教室標本の大部分を占めるネズミ科などほかの分類群でも同様であって、標本整理を進めてゆく中でも、不完全な形で付属する情報が信頼に足るものであるかどうか悩ましい部分がある。また、研究の証拠標本として保存・管理することが大学博物館の活動としての核であるが、その標本がいかなる研究の材料として採集されたものであるかすら不明なものが多い。HUNHM に博物館標本として所蔵されてきたものも、鳥類標本の管理史の解明（加藤ら 2009 など）の中で示してきたように、たびたびの標本台帳改変による標本情報の混乱が散見される。これらのことから、現状のままで情報の発信を行うことは、不十分な情報提供にとどまるだけでなく、誤った情報を提供し、研究活動を混乱させるおそれすらあり、情報を精査する必要があることが認められた。

このような状況の中、2018 年以降断続的に阿部からフィールドノートや写真・フィルムが寄贈された。フィールドノートには、阿部本人の研究記録だけでなく太田や芳賀の調査に協力していた際の情報が記載されており、標本情報の精査に利用できる可能性が見出された。また、これらの資料とともに報告書や論文も多数寄贈された。これらも阿部個人の成果だけでなく、動物学教室としての活動記録が含まれており、標本情報の再整備に有益であると考えられた。

これを機に、HUNHM にまとめられた北海道大学の小型哺乳類標本の悉皆調査を実施し、付属ラベルや注記情報の収集、整理を行うこと、それらの情報と対比するために、阿部からの寄贈資料だけでなく、博物館の旧台帳や八田三郎、犬飼哲夫の残した手帳やノート、報告書などのアーカイブと照合して標本情報を検討することを通じて、研究資源としての標本価値向上を図ること、利用促進のための情報公開の基礎となる標本情報を精査・整備するプロジェクトを遂行することとした。本稿は、その第一報として、ネズミ科標本を対象とした調査結果を報告するものである。

1. 方法及び用語等の定義

1-1. 検討対象と手法

本稿の対象標本は、HUNHM が所蔵するネズミ科標本である。現行の標本台帳は 1961 年ごろに阿部永の主導により運用が開始されたもので、所蔵するすべての分野の標本・資料が登録されている。登録にあたっては、これ以前に断続的に利用されていた台帳類の番号などを考慮せず、新しい資料番号を順次付与したものであり、その配列は受入れなどの歴史を反映していない。

本稿における検討で用いる標本群について紹介しておく。2002 年に農学部旧動物学教室標本室から移管されたものは【47085】～【47444】、【47546】～【48021】、【48792】～【49994】の番号を持つが、登録作業中に別の経緯で受け入れた標本類もこの範囲には含まれており、すべてが動物学教室由来というわけではない（以下【 】で括った数字は HUNHM における標本番号を示す）。また、【48022】～【48050】の標本は、過去に動物学教室で保管されていたものであるが、小林恒明の異動に伴い京都大学に移動していた標本群であり、2003 年に HUNHM に移管された。なお、本稿で触れるように、小林とともに移動した標本の一部は現在も京都大学総合博物館（KUZ）で保管されている。これらについても将来的に HUNHM に移管する方向で協議中である。阿部コレクションは阿部個人の標本番号に 50000 を加えた【50001】～【58901】として登録している。

これらの標本に付属する情報は、HUNHM 旧蔵標本については収集以降に付与された標本ラベルに記載されたものと各年代に作成されていた台帳の記載になる。動物学教室標本などの研究室由来標本については、2002 年の標本移管時に、標本が保管されていた箱や封筒の注記、標本に直接注記された情報や付属していた紙片などの情報に基づいて、HUNHM スタッフの市川秀雄が

整理し、登録した情報に基づく。

上述したように、対象標本は標本情報が欠落していたり、不十分なものが多い。このため、目録形式で所蔵標本の情報を公開する前に情報の精査を行い、その結果を示す必要がある。一度欠落した情報を復元したり、仮に登録情報が誤りであったとしても、一旦標本情報とした情報を修正するにあたっては、その追加・修正がいかなる根拠に基づくものであるのかを示して記録を残すこと、またその修正行為が誤っていた場合に再検証できるようにしておくことが、さらなる情報の混乱を発生させないことにつながるからである。

標本情報の精査にあたっては、情報の復元、追加、修正に関わる基本情報が得やすいと考えられる公表論文や報告の引用標本との照合を第一段階の処理として実施する。これは、大学博物館に標本が所蔵される第一の目的である、「研究の証拠標本」としての位置づけを確認するためである。また、多くの標本においては十分な情報復元が不可能であるが、論文や報告との照合によって、どのような研究者によって採集された標本、どのような研究テーマにつながる標本が HUNHM に所蔵されているのかを概観されることで、コレクションの傾向をつかむことができるという利点も期待される。

以上から、本稿では論文や報告ごとに関連すると考えられる標本を示した上で、各標本が抱える課題を検討してゆくこととする。ただし、1 点の標本が複数の論文で紹介されていたり、一編の論文で複数の採集地域の採集標本が言及されている場合もあるので、必ずしも論文ごとの検討にはならないことを断っておく。

それぞれの標本について言及する場合には、学名や標本の状態は本文中ではなく、各章末に一覧表として掲げ、本文中では必要最低限の表記を行う。また、検討によってこれまでの台帳情報に追加、修正があった部分などについては、章末目録において修正点を示し、本稿による改変の提案であることを明示する。なお、HUNHM では標本の登録名称を亜種名ではなく種名で統一して管理する方向で整理を進めているが、本稿では亜種名で言及されることが大部分である。混乱を避けるため、本文中では亜種名で表記することとし、章末の一覧表においては種名で表記することにした。

1-2. 用語の定義 旧台帳及びラベル

HUNHM の標本情報を検討するにあたっては、付属する標本ラベルの特徴や各年代に作成されていた台帳が有益である。これまでに明らかになっている過去の台帳の特徴やラベルの利用年代などを整理するとともに、以降の記述の煩雑さを避けるために本稿における名称をここで定義しておく。台帳及びラベルの利用年代の推定に関する詳細については加藤（2008, 2012b）、加藤ら（2009, 2010, 2012, 2014）を参照されたい。

〔旧台帳 1 及び旧台帳 2〕〔類別番号〕

本稿で旧台帳 1 と呼ぶ台帳は後世に「札幌農学校所属博物館標本採集日記」と名付けられた台帳である（図 1, 加藤 2002, 2003, 2006, 2007, 2011）。台帳として利用されていた時期は、記載されている標本情報から 1886 年ごろから 1910 年ごろまでと考えられるが、この台帳は複雑な成立経緯を経ている。

1877 年の開拓使による札幌博物場設立以降、HUNHM では標本番号に基づく管理は行われていなかった。1882 年の開拓使の廃止に伴い農商務省の管理下に入った段階で、田中芳男の指導によって管理体制が整備され（関 1991）、類別番号と呼ばれる資料分類ごとの管理番号が与えられた。旧台帳 1 は田中によって運用が開始された標本管理体制を継承した類別番号で 1886 年以降の受入れ標本を登録している。ただし、1890 年ごろにはこの標本管理体制が停滞し、番号が付与されなくなっていた。これを整理するために作成されたのが旧台帳 2 である（加藤 2008; 加藤ら 2010）。

旧台帳 2（図 2）は 1890 年ごろに所蔵されていたすべての資料に対し、分類ごとの管理番号を改めて付与するために作成された。旧台帳 2 は管理番号の再整理のためだけに作成されたもので、整理が終了した段階でその役目を終え、それ以降は旧台帳 1 に新しい管理番号を追記する形で標本登録が行われた。このため、旧台帳 1 には新旧 2 種類の管理番号が混在していることに注意が必要である。その後 1910 年ごろまで受入れ標本の登録作業が旧台帳 1 で行われるが、1900 年ごろから類別番号の記載が行われなくなり、現存している当該期の標本も旧台帳 1 にその記載が確認されないなど、標本管理に再び混乱が生じて運用が終了することになる。なお、旧台帳 1 は 10 年単位の年次記載の混乱などが確認され、登録作業に日々用いられていたのではなく、一括して何らかのソースから転記されたものである可能性も考えられる（加藤ら 2010）。この点からも旧台帳 1 の取り扱いには注意が必要である。

〔旧台帳 3〕〔朱番号・印番号〕

本稿で旧台帳 3 と呼ぶ台帳は、台帳に記載されている管理番号が 1930 年代前半に刊行された目録（Yamashina & Mukasa 1934; Yamashina & Ikeda 1935）に利用されていることから、それ以前には運用が始まっていた標本管理に用いられた台帳である。旧台帳 3 には鳥類と哺乳類の標本が記載されている。また、台帳の内容がカードに転記され、いろは順にカードケースに保管されており、分類管理に用いられていた。台帳とカードの内容は基本的に同一であるが、カードが欠落している場合などがある。ここでは、台帳とカードを一連のものとして扱い、両者から得られる情報を旧台帳 3 のものとする。

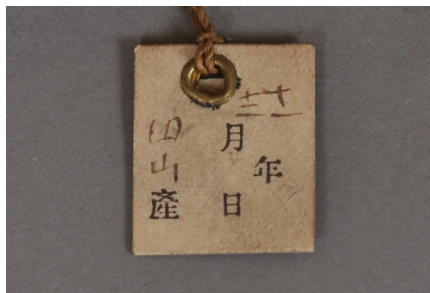
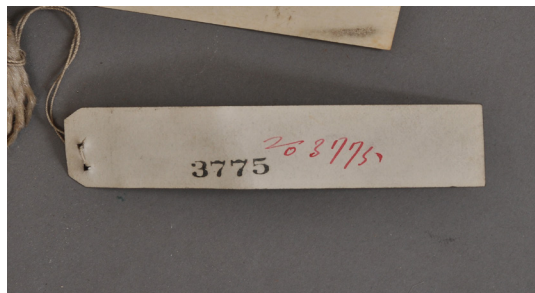
この標本管理においては標本との照合は、特定のラベルではなく、それまでに付属していたラベルに朱書きによる番号（朱番

採集年月日	受入年月日	符号	番号	品名	名	地	名	原	由
10. 3.		鳥	691	ムラサキカニ	♀	石狩、札中尾		村田庄次郎採集	
10. 3.		鳥	692	キバニリ	♂	石狩、札中尾		"	
10. 3.		鳥	693	エナガ		"		"	
10. 3.		哺乳	84	ムササビ		"		"	
10. 3.		鳥	694	エナガ	♂	雁来村		"	
10. 6.		鳥	695	キバニリ	♂	札中尾		"	
10. 7.		鳥	696	マハリ		"		"	

図 1. 旧台帳 1

番号	品名	名	地	年月日	採集人
69	とびのきバ				岡部方幾寄稿
84	かねづみ	新島	石狩国札中尾	15-	
85	"	"	"		本校ヨリ受
88	鶺鴒	"	札中尾郡岡山村	17-4-1	
87	かねづみ	栗原	札中尾郡岡山村	12-8-10	
88	"	"	札中尾	17-4-1	
89	"	"	"	17-4-7	
90	"	"	"	"	
91	"	"	"	"	本校ヨリ受
92	おさび	新島	"	14-5	
93	"	"	"	19-4-14	

図 2. 旧台帳 2



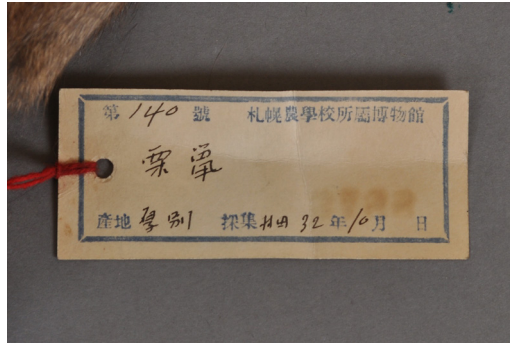
(左) 図 3. 朱番号と印番号
(右) 図 4. ラベル 1

号と定義)とそれと同じ番号がスタンプ(印番号と定義)されており、これに対応させることができる(図3)(加藤ら2012)。

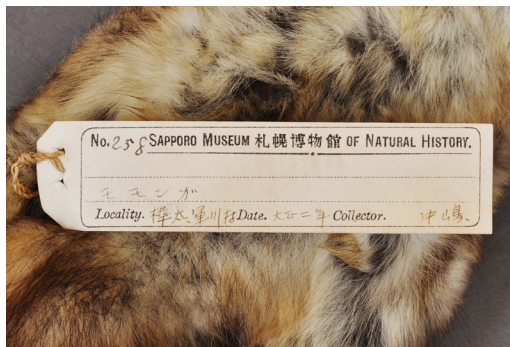
[ラベル 1]

本稿でラベル1と呼ぶラベルは図4に示すものである。表面に「年月日 産」と印字され、採集情報が記載できるようになっている。裏面は白紙であるが、種名や管理番号などが記載されていることがある。このラベルは、1877年のHUNHM設立以降1891年前後の採集標本に多く確認されること、農商務省時代に運用が始まった番号と推測されるもの(加藤2019)が記載されていることから、最も古い標本管理体制から旧台帳1の初期に利用されていたラベルと位置付けられる。ただし、旧台帳2による整理に伴い、ラベル1の多くは取り外された可能性があること、残っているものでも裏面の記載が抹消されたり、別のラベルが貼られていることもあり、当時の標本管理体制をうかがい知る材料は乏しい。

なお、残部再利用で1910年以降の採集標本にもラベル1は付属しているため、単純にこのラベルが付属しているという理由から古い標本であるとは断言できないことに注意が必要である。



(左) 図 5. ラベル 2
(右) 図 6. ラベル 3



(左) 図 7. ラベル 4
(右) 図 8. ラベル 5

[ラベル 2]

本稿でラベル 2 と呼ぶラベルは図 5 に示すものである。表面に「第 140 号 札幌農学校所属博物館」と印字されている。このラベルは旧台帳 2 による整理に伴ってラベル 1 を更新する形で用いられたもので、1900 年ごろまで利用されていた。アイヌ民具資料など紐でラベルを付与することができないものについては、貼り付けるタイプの赤枠ラベルに番号が記載されている（加藤 2004, 2008）が、動物標本ではラベル 2 に種名や採集情報が記載されている（加藤ら 2014）。

[ラベル 3]

本稿でラベル 3 と呼ぶラベルは図 6 に示すものである。このラベルはラベル 2 の後継として用いられたもので、1900 年代前半から 1910 年ごろまでの採集標本に多く確認される（加藤ら 2014）。なお、動物標本に付属するラベル 3 はほとんど青枠であるが、まれに赤枠、黒枠で同形式のラベルも存在する。当時の管理者は分野ごとに使い分けていた可能性もあるが、必ずしも厳密なルールは見いだせないので、本稿では色を区別せずこの様式のラベルをラベル 3 と定義する。

[ラベル 4・ラベル 5]

本稿でラベル 4 と呼ぶラベルは図 7 に示す「札幌博物館」の印字があるものである。ラベル 3 に印刷されていた「札幌農学校」は、1907 年に東北帝国大学農科大学に改称し、1918 年に北海道帝国大学となった。ラベル 3 は 1912 年ごろまで利用されていたが、学校名の変更に伴って利用が減少してゆく（加藤ら 2014）。1910 年に刊行された HUNHM の展示品案内は『札幌博物館案内』（村田 1910）という名称であり、「東北帝国大学」の名称を利用することを避けていたものと思われ、ラベル 3 はこれに対応する形で利用されていたと考えられる。ただし、1910 年代半ばまではダルマ型をした無地のラベル 5（図 8）や、ラベル 3 を切断したラベルなどが用いられる傾向があり、ラベル 4 の利用開始時期は 1920 年前後になるのではないかと推測される。ラベル 4 は 1940 年代以降も利用されており（加藤ら 2014）、相当数が準備されていたものと推測される。

この他、1940 年代以降に利用されるようになったラベルや、現行の標本台帳運用とともに利用されるようになったラベル、農学部の実験室で利用されていたラベルなど様々な種類のラベルがあるが、本稿では言及頻度の高い上記 5 種類について名称を与えておくこととする。

2. 村田庄次郎による樺太動物調査報告（1910 年・1912 年）

『樺太動物調査報告』（村田 1914）は、HUNHM の助教授であった村田庄次郎が 1910 年及び 1912 年の二度にわたって実施した樺太の動物調査の結果をまとめたものである。この調査では 130 種の鳥類と 17 種の哺乳類について報告されており、調査で採集された鳥類標本については加藤（2012b）が検討、紹介している。

村田が報告した 17 種の哺乳類にはネズミ科の動物についての言及はなく、調査対象としていなかったのか、採集できなかったかのように思われるが、HUNHM 所蔵標本からこの調査の際に採集されたと考えられるものが確認された。以下、これらの標本が村田の採集によるものであるのかどうかについて検証してゆく。

- ・ドブネズミ【48032】（樺太逢坂, 1910 年 7 月 13 日, 村田, 七郎鼠）
- ・ドブネズミ【07869】（樺太, 1910 年 7 月 13 日, 村田, 七郎鼠）
- ・ドブネズミ【07830】（樺太中野, 1910 年 7 月 15 日, 村田, 熊鼠）
- ・クマネズミ【07834】（雄, 樺太中野, 1910 年 7 月 15 日, 村田, 熊鼠）

これらの標本には、ラベル 3 に採集者である村田庄次郎の名前が記載されていること、付属する採集情報が村田（1914）の調査旅程とも矛盾しないことから、1910 年の第 1 回樺太動物調査で採集された標本であることが確認される。ただし、【07869】は現行標本台帳では「樺太」のみとするが、付属ラベルには「樺太逢坂」の採集地情報があり、追記しておく必要がある。なお、村田によって「熊鼠」と同定された【07830】と【07834】は次章で触れる Tokuda（1932）によっていずれもドブネズミと同定されたが、【07834】については付属する頭骨の形状によってクマネズミとして再同定された歴史を経ていることで、現状の扱いとなっている。

加藤（2012b）が鳥類標本を対象に明らかにしたように、1912 年の第 2 回調査の際には特徴のないラベルで標本が管理されていた。この標本ラベルには、月日と採集地のみが鉛筆で記載されており、採集年次や採集者名の記載がない。このため、採集情報が適切に現行標本台帳に登録されていない事例が散見された。これを踏まえて、哺乳類標本のラベルを調査した結果、以下の標本に同じラベルが確認された。

- ・タイリクヤチネズミ【08436】（雄, 8 月 16 日）

標本台帳では採集情報は「8 月 16 日」のみであるが、ラベルに「カシボ, 8.16, 地鼠, ♂, 98」とある（図 9）ことから、村田の調査旅程に基づき「1912 年 8 月 16 日, 樺太樫保」という採集情報と村田による樺太動物調査の採集標本であることを追記することができる。

- ・ハントウアカネズミ【08309】（樺太北名好, 9 月 15 日）

ラベルには「北名好, 9.19, ■■, 167」とあり、現行標本台帳の「9 月 15 日」は誤りである。ラベルの採集地と採集日は村田の 1912 年の調査旅程と合致することから、正しい採集年次と村田による採集標本であることを追記することができる。

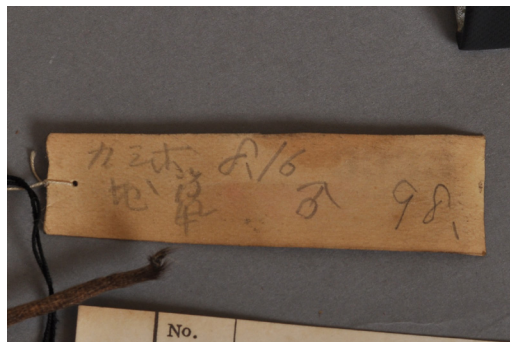


図 9. 【08436】付属の樺太動物調査ラベル

- ・ドブネズミ【07826】（雌, 札幌, 28 年 9 月, 寶沢）

標本台帳には「札幌」という採集地情報に加え、備考情報として「寶沢, 採集日 28.9」の情報が記載されている。この標本には、現行の標本番号を記した HUNHM のラベルの他に、2 枚のラベルが付属している。1 枚は上記 2 点の標本と同様の樺太動物調査標本に付属する特徴のないラベルで「寶沢, 9.2., ♀, 118」とある。もう 1 枚はラベル 4 で「ネズミ, 10, 札幌, 28.9」の記載がある。備考情報の「寶沢」を除くと標本台帳ではラベル 4 の情報を正しいものとみていることになる。ここで、このラベル 4 の裏面を確認すると「3580」の印番号があるが、朱番号は確認できない。「3580」の朱番号を持つ標本を探索すると、ドブネズミ【07865】に「343, 札幌, 28.9」という記載とともに「3580」の朱番号のあるラベルが確認される。ここから、【07826】に付属する「札幌」の採集情報を持つラベル 4（印番号 3580）は、もともと【07865】に付属していたものと判断される。この結果を踏まえ、【07826】の採集情報は「樺太寶沢, 1912 年 9 月 2 日」であること、村田の樺太動物調査の採集標本であると判断するべきである。

なお、村田の調査旅程では当該採集日は「真縫久春内間山道採集」となっており、「寶沢」という採集地名は報告書では用いられていないが、久春内から真縫に抜ける道沿いに「寶沢」の地名が存在することから採用することに矛盾はない。

後述するように、Tokuda（1932）では 1910 年の採集標本を引用しているが、1912 年の採集標本については触れるところがない。鳥類標本においても 1912 年の採集標本を対象とした場合は情報の混乱が生じており（加藤 2012b）、取り扱いに注意が必要な標本群である。

2. 村田庄次郎による樺太動物調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08436	1	male	-	0000.08.16	-	-	
			→ [樺太樫保]	→ [1912.08.16]	→ [村田庄次郎]	98	

<i>Apodemus peninsulae</i>		ハントウアカネズミ：Korean Field Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08309	3	-	樺太北名好	0000.09.15	-	-	
				→ [1912.09.19]	→ [村田庄次郎]	167	

<i>Rattus norvegicus</i>		ドブネズミ：Brown Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07830	1	-	樺太中野	1910.07.15	村田	-	
					→ [村田庄次郎]		
HUNHM07826	1	female	札幌	1895.09.00	-	-	
			→ [樺太寶澤]	→ [1912.09.02]	→ [村田庄次郎]	118	ラベル混入あり
HUNHM07869	1	-	樺太	1910.07.13	村田	-	
			→ 樺太逢坂		→ [村田庄次郎]		
HUNHM48032	1	-	樺太逢坂	1910.07.13	村田→ [村田庄次郎]	-	

<i>Rattus rattus</i>		クマネズミ：Roof Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07834	3	male	樺太中野	1910.07.15	村田→ [村田庄次郎]	-	

status 欄は 1: Skin, 2: Skull, 3: Skin & Skull, 4: Fluid を示す

標本データのうち、現行標本台帳の情報を修正、更新する際は → として表記する。標本ラベルに記載があり、単なる登録漏れの場合はその情報を記載し、本稿による検討結果に基づくものは [] で括弧で表記する

3. 徳田御稔による HUNHM 所蔵標本目録 (1932 年)

3-1. 徳田目録とチシマヤチネズミ記載標本について

「A list of the specimens of Muridae from Northern Japan kept in the University Museum of Natural History in Sapporo with a description of a new subspecies」(Tokuda 1932) は、1931 年まで北海道帝国大学の動物学教室の学生で、刊行当時は京都帝国大学に在籍していた徳田御稔が HUNHM のネズミ科標本を対象にまとめたもので、20 世紀以前において公表された HUNHM の唯一の哺乳類標本目録である。この目録では、新亜種 *Clethrionomys rufocanus kurilensis* (チシマヤチネズミ) の記載とともに、表 1 に示した 8 種 82 点の標本が HUNHM に所蔵されていたことが紹介されている。

徳田は、表 1 に示したように各種の標本総点数とそれぞれの採集地、採集年次を記載したうえで、いくつかの標本についてのみ番号と採集地、計測値などを提示しているが、この書き分けがどのような意味を持つのか明示していない。また、標本点数と採集情報の件数とが合致しない場合がある。これは、同じ採集情報の標本が複数あるのか、データの無い標本も対象としていたのかなど、徳田が利用した標本の全容を把握するためには検討しなければならない点がある。

これらに加え、この目録では種ごとに番号が与えられており、固有の標本番号などが示されていないため、現存標本と対応させる材料にも不足している。徳田の目録と同時期に複数刊行された鳥類標本目録 (Yamashina & Mukasa 1934; Yamashina & Ikeda 1935) では、朱番号・印番号を用いて標本を示していた。この標本番号は、現存標本で 19 世紀採集標本と認められるにもかかわらず付属していない標本が多数確認されるので、1932 年時点においてすべての標本を登録した完全なものではなかった可能性があり、徳田は利用できなかったとも考えられるが、その理由についても改めて確認する必要がある。

目録掲載標本と現存標本との照合に用いる材料が現時点で不足しているため、まず徳田が示した標本情報に該当する標本を直接探索することとする。

・ *Clethrionomys rufocanus kurilensis* (チシマヤチネズミ)

チシマヤチネズミは Tokuda (1932) の記載後、黒田 (1933) によりタイリクヤチネズミの亜成獣に基づくものとして否定された。

徳田の記載によれば、この標本は「Subadult female」の剥製と頭骨で、1928 年 5 月 12 日に「Paramushir Island of the Kuriles」で採集されたものである。計測値は「HB:103, T:33, HF:17, E:13」となっている。この標本情報に該当する HUNHM 所蔵標本は、タイリクヤチネズミ【07037】(雌, クリル諸島ナサウキパラムシル (50Feet), 1928 年 5 月 12 日) である。付属するラベルのうち、無地のラベルには「*Clethrionomys rufocanus kurilensis* subsp. Tokuda」とある。もう一枚のラベルには「No.2, 12.May.1928, Nasauki, Paramushiru Kuril ISL 50feet, ♀」とあり、裏面には「HB: 103, T: 33, HF: 17, E: 13, 25grams, 41, 2 [朱書]」の計測値などがあり、いずれも徳田の記載と合致することから、この標本がチシマヤチネズミ記載に用いられた模式標本であることに疑いはない。ただし、標本には頭骨が付属せず、徳田が引用した頭骨の写真と合致するものについて HUNHM に所蔵されている全標本を確認したが見出すことはできなかった。

標本に採集者情報の記載がないため、徳田も採集者は記載されていないとしている。しかし、計測値が記載されたラベルの特徴と文字の特徴から、著名な採集人折居彪二郎によって採集された標本であることは確実である。苫小牧市中央図書館に所蔵されている折居のフィールドノート⁽³⁾の 1928 年 5 月 12 日の項では、採集地を「Nasauki Paramushiru Kuril Island」とし、採集番号「No.2」、採集種番号「SPNo.2」(朱書で記載されており、ラベルの朱書きの「2」に対応する)の標本は「♀, アームル谷地鼠, 50F」、「HB103, TL33, F17, ER13, Skull gl 齢 [ママ, 歯] 列上 6m, gw14.5, 六匁五分」、「色彩眼先ヨリ頬脇等ハ灰褐色ニテ、額上ヨリ尾迄ハ一様ナル Hazel 色ニヤヤ黄色オ帯フ、尾ノ表面ハ体側ト同様ニテ灰褐色オ帯ジ、下面ハ尾端オ除キ鰓 [ママ, 脇] ヨリ腹 [ママ, 腹] 部同様ノ灰色ニテ尾ノ先端ハ房状ニテ褐色オ帯ブ。肢足ノ胛 [ママ, 甲] ハ灰色ノ密毛ニテ覆ハレ、掌 [ノートでは月偏] ノミ裸出ス。褥 [ノートでは月偏, 妊娠個体の意カ] ナリ」とある。標本番号、採集情報の合致に加え、徳田が利用した頭骨は破損していたことが引用写真から確認され、頭骨の「gl」を計測できなかったことなどすべてが合致し、この点からも【07037】が折居の採集標本であることは間違いない。

なお、フィールドノートによればこの調査旅行で折居は 64 点の哺乳類標本を採集している。このうち、黒田 (1933) が記載した食虫類の模式標本ほか 43 点は山階鳥類研究所に保管されている。HUNHM にはツンドラハタネズミ【69395】(折居が幌筵谷地 (野地) 鼠としたもの) とオコジョ【43330】が保存されている。

3-2. その他の目録掲載標本の探索

チシマヤチネズミ以外の目録掲載標本においても記載情報と標本を照合することで照合することは可能である。例えば、ヒメネズミ【08311】(定山溪, 1914 年) のラベルにある計測値「丈: 8.4, 尾: 9.3, 趾: 2.0, 耳: 1.2」は目録のヒメネズミ 2 号標本に合致し、ハツカネズミ【08282】(札幌, 1908 年 12 月 24 日) のラベルの計測値「丈: 79, 尾: 65, 趾: 15, 耳: 12」は目録のハツカネズミ 7 号標本に合致する。このように現存標本の採集情報と計測値が徳田の目録と合致するものが確認されるが、目録で計測値を含む

(3) 『千嶋採集ノート (哺乳類)』, 資料番号 1040270074

表 1 Tokuda (1932) が示した標本情報

2. <i>Clethrionomys rufocanus bedfordiae</i>							
16 点 Sapporo (1890, 1911, 1914) , Sibetu (?) , Hakodate (1907) , Kunebetu (1907)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
8	Hakodate	?	121	56	20.5	15	skin
9	Sapporo	f	115	52	-	14	skin
10	Kunebetu	m	104	48	19.5	14.5	skin
3. <i>Clethrionomys amurensis mikado</i>							
3 点 Sapporo (1888, 1914) , Hakodate (1908)							
Measurements:uncertain							
4. <i>Apodemus speciosus ainu</i>							
6 点 Isarikawa (1908) , Kunashiri (1907) , Titose (1882) , Sibetu (?)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
2	Kunasiri (Kurile)	f	99	95	24.5	14	skin
5. <i>Apodemus geisha hokkaidi</i>							
9 点 Zenibako (1907) , Zyozankei (1914) , Garugawa (1907) , Hakodate (1907, 1908, 1909) , Yunokawa (1918)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
1	Zenibako	?	85	76	-	-	skin and skull
2	Zyozankei	m	84	91	20	12	skin and skull
7	Yunokawa	f	78	85	19.5	13	skin
8	Hakodate	m	82	87	19.5	13	skin
6. <i>Apodemus speciosus giliacus</i>							
1 点 Sakhalin (1908)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
1	Sakhalin	?	92	82	20	11	Skin and skull
7. <i>Rattus norvegicus norvegicus</i>							
29 点 Sapporo (1884, 1893, 1895, 1907, 1908, 1909, 1910, 1914) , Toyohara (1908) , Osaka (Sakhalin 1910)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
9	Sapporo	f	-	150	20	-	skin
10	Sapporo	f	187	177	35	20	skin and skull
15	Toyohara (Sakhalin)	?	148	116	33	14	skin
24	Sapporo	m	190	170	-	15	skin
8. <i>Mus molossinus yesonis</i>							
17 点 Sapporo (1907, 1908, 1914, 1915) , Ishikari (1907)							
Measurements:							
No.	Locality	Sex	HB	T	HF	Ear	Remarks
7	Sapporo	?	79	65	15	12	skin
11	Sapporo	?	50	51	16	9	skin and skull
9. <i>Mus wagneri</i> var. <i>albula</i>							
1 点 Sapporo (1885)							
Measurements:uncertain							

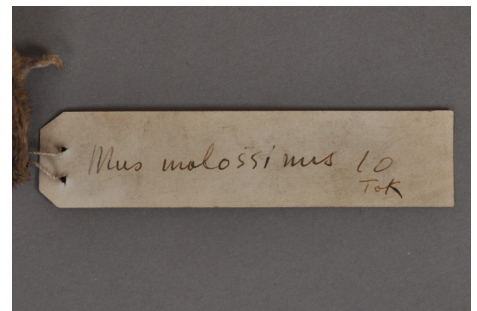


図 10. 【08282】付属の「Tok」他記載

情報が掲載されている標本点数は 12 点のみである。上述したように、この目録では標本番号などの情報が用いられておらず厳密な照合が困難であるため、何らかの形で徳田が引用した標本であることを確認する必要がある。

ここで、例として示したヒメネズミ【08311】とハツカネズミ【08282】に付属するラベルを確認すると、図 10 に示したように学名と数字、「Tok」の記載がある。この記載がある標本を抽出して一覧にしたものが表 2 である。抽出できた標本点数は目録掲載の標本点数とほぼ合致し、この記載が徳田が利用した証拠であると推測される。しかし、学名はあるものの「Tok」の記載がない標本や、ラベルが脱落し、関係のない標本に付属している可能性がある事例、目録の採集年次と標本の採集年次とが合致しない事例、上記ヒメネズミ【08311】は目録の 2 号標本であるのに対してラベルの数字は 5 であり、ハツカネズミ【08282】は目録の 7 号標本であるのに対してラベルの数字は 10 であるなど、問題が多数確認されるので、種別、標本別に検討することとする。

3-3. エゾヤチネズミ

徳田の目録上では 1932 年時点の HUNHM には 16 点のエゾヤチネズミが所蔵されていた。「Tok」の記載とともにある番号では、1 から 16 が確認される (表 2-a) が、10 と 12 をあわせて持つ標本があること、14 が欠番であること、16 の番号を持つ標本には別にミカドネズミの 1 の記載があるラベルが付属しており、混乱がみられる。また、記載をもたない標本のうち 8 点について検討の余地がある。以下、共通の特徴がある標本をまとめつつ、番号順に確認してゆくこととしたい。

(1) エゾヤチネズミ 【08427】 (採集情報なし)

この標本には徳田による 1 の番号がある。付属するラベルには「不明」とのみあり、採集情報は付属していない。徳田は北日本産のネズミ科目録であることを表題としており、後述するように、採集年次が目録刊行以前のものであっても、採集地情報が欠落しているものは掲載していない傾向があり、アーカイブを利用しても採集地情報を把握できないものはこの標本のみであることから、徳田が掲載したものであるかは検討の余地がある。

ラベルの混入がなく、徳田が利用した標本であることを前提とするならば、この標本の採集年次の下限は目録刊行年である 1932 年になる。

(2) エゾヤチネズミ 【49472】 (雌, 札幌, 1907 年 9 月 30 日)

この標本には 2 の番号がある。付属するラベルには「丈: 115, 尾: 52, 耳: 14」の計測値があり、これは目録の 9 号の標本の情報に合致する。ただし、目録に掲載されている札幌産標本の採集年次は 1890 年、1911 年、1914 年であり、ラベルに明記されている「40 [明治 40=1907] .9.30」と合致しない点に問題がある。

(3) エゾヤチネズミ 【08445】 (札幌, 27 年 5 月 17 日)

この標本には 3 の番号がある。付属するラベル 2 には「121 号, ネズミ, 札幌, 27-5-17」(図 11) とある。ラベル 2 が札幌農学校時代に利用されていたものであることから、採集日の「27」は明治 27=1894 年と判断されるが、これは目録掲載の札幌産標本の採集年次と合致していない。

ここで、ラベル 2 の「121 号」記載を利用して標本情報を確認しておく。ラベル 2 は旧台帳 2 による標本管理混乱にあたって付与されたラベルである。旧台帳 2 によって行われた標本の再整理によって哺乳類標本は 119 点が登録されており、末尾にあたる標本番号 119 の「あかくま 児 骨格」は 1892 年 11 月 15 日に購入されたという記録がある。エゾヤチネズミ 【08445】 は旧台帳 2 の標本番号 121 であるため旧台帳 2 に記載はない。ここで旧台帳 1 の哺乳類標本の 121 号前後の情報を抽出したものが表 3 である。哺乳類標本の登録件数が少なく、ほとんどが鳥類標本の登録にもちいられていたためか、整理を終えたはずの 119 以降でも哺乳類標本の記載には混乱が生じており、121 の番号もないが、配列からの推測と情報が合致することから配列番号 1015 の「鼠, 石狩円山村, 27.5.17」の情報を持つ標本が 【08445】 に該当するものと判断される。ここから、標本の採集年次に問題はなく、徳田の記述に誤りがある可能性が高い。

なお、現在付属するラベルと旧台帳 3 では採集地を「札幌」とするのみで、旧台帳 1 の「札幌円山」とは合致しない。本稿ではこの点について参考情報として付記するにとどめる。

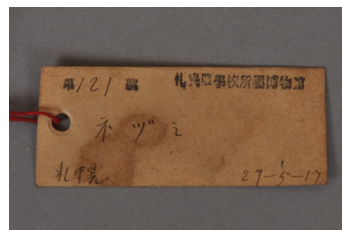


図 11. 【08445】 付属のラベル 2

(4) エゾヤチネズミ 【08428】 (函館 700Feet, 1907 年 7 月 17 日)

この標本には 4 の番号がある。ラベルには「HB:121, TL:56, HF:20.5, EAR:15」の計測値があり、目録の 8 号標本に合致する。このラベルはチシマヤチネズミ 【07037】 に付属していたものと同一であり、この標本には「H.O. (= Hyojiro Orii)」の採集者名もあることから、折居の採集標本である。

(5) エゾヤチネズミ 【08434】 (札幌, 採集年次なし)

(11) エゾヤチネズミ 【08443】 (札幌, 採集年次なし)

(15) エゾヤチネズミ 【08438】 (札幌, 採集年次なし)

この標本には 5、11、15 の番号があるが、【08438】を除き「Tok」の記載がない。ラベルには「札幌」とのみあり、採集年次の記載はない。目録の記載方法に従えば、標本に採集年次の記載がないものについては「Sapporo (?)」と年次不明であることが示されるべきであるが、目録の札幌産の記載にはない。ここでは目録の記載方法に揺らぎがあることを認め、これらを目録掲載標本と評価し、採集年次の下限を目録刊行年である 1932 年としておく。

表 2 ラベルに徳田の学名と番号記載がある標本と 1932 年以前の採集標本

朱・印番号欄の《 》は朱・印番号のあるもの、() は朱番号のみ、〈 〉は印番号のみを示す
計測値はラベルに計測値の記載があることを示す
目録番号は表 1 の番号に対応する標本であることを示す

表 2-a エゾヤチネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1	Clethrionomys bedfordi	有	【08427】	エゾヤチネズミ	-	-	《3608》	-	-
2	Cl. bed.	有	【49472】	エゾヤチネズミ	札幌	1907 年 9 月 30 日	《3596》	有	9
3	Clethrionomys bedfordi	有	【08445】	エゾヤチネズミ	札幌	27 年 5 月 17 日	《3589》	-	-
4	Cl. bed.	有	【08428】	エゾヤチネズミ	函館	1907 年 7 月 17 日	《3612》	有	8
5	Cl. bed.	-	【08434】	エゾヤチネズミ	札幌	-	《3597》	-	-
6	Clethrionomys bedfordi	有	【08440】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	《3614》	-	-
7	Clethrionomys bedfordi	有	【08444】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	《3592》	-	-
8	Clethrionomys bedfordi	有	【06821】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	《3591》	-	-
9	Clethrionomys bedfordi	有	【08431】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	《3590》	-	-
11	Cl. bed.	-	【08443】	エゾヤチネズミ	札幌	-	《3606》	-	-
10/12 (1)	Clethrionomys bedfordi	有	【08437】	エゾヤチネズミ	札幌	-	《3602》, 〈3599〉	-	-
13	Clethrionomys bedfordi	有	【08433】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	《3605》	-	-
15	Clethrionomys bedfordi	有	【08438】	エゾヤチネズミ	札幌	-	《3702》	-	-
16 (2)	Clethrionomys bedfordi	有	【08441】	エゾヤチネズミ	札幌	1888 年 8 月 25 日	〈3700〉, 《3588》	-	-
a	-	-	【08439】	エゾヤチネズミ	士別	-	(3599)	-	-
b	-	-	【08343】	エゾヤチネズミ	札幌	-	(3700)	-	-
c	-	-	【08435】	エゾヤチネズミ	函館久根別	1907 年 10 月 26 日	-	有	10
d	Cl. bed.	-	【08442】	エゾヤチネズミ	札幌北大第一農場	1911 年 5 月 10 日	《3611》	-	-
e	-	-	【49490】	エゾヤチネズミ	札幌	1907 年 9 月 8 日	《3699》	-	-
f	-	-	【08426】	エゾヤチネズミ	-	1908 年	〈3593〉	-	-
g	-	-	【08345】	エゾヤチネズミ	札幌	1908 年 4 月 24 日	-	-	-
h	-	-	【69416】	エゾヤチネズミ	函館久根別	1908 年 12 月 3 日	-	-	-

(1) 10 のラベル学名は Clethrionomys bedfordi、〈3599〉、12 のラベル学名は Cl. bed.、《3602》

(2) ミカドネズミ 1 《3588》も付属、16 のラベルは 〈3700〉

表 2-b ミカドネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1 (3)	Clethrionomys mikadoi	有	【08441】	エゾヤチネズミ	札幌	1888 年 8 月 25 日	《3588》, 〈3700〉	無	-
3	Cl. mikadoi	-	【08432】	ミカドネズミ	函館付近	1908 年	《3610》	無	-
a	-	-	【08017】	ミカドネズミ	礼文島	1908 年 9 月 27 日 (受入)	《3615》	-	-

(3) エゾヤチネズミ 16 〈3700〉も付属

表 2-c アカネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1	Ap. sp. ainu	有	【48031】	アカネズミ	漁川上流	9/7/31	《3652》	-	-
2	Ap. sp. ainu	有	【08329】	アカネズミ	漁川上流	3 年 7 月 9 日	《3650》	-	-
3	Ap. sp. ainu	有	【08328】	アカネズミ	士別	-	《3649》	-	-
5	Ap. sp. ainu	有	【08316】	アカネズミ	石狩軽川原野	1908 年 3 月 10 日	《3651》	-	-
6	Ap. sp. ainu	有	【08327】	アカネズミ	国後乳呑路	1907 年 10 月 7 日	《3657》	有	2
a (4)	-	-	【49241】	アカネズミ	漁川上流 / 定山溪	9/7/3 / 5.IX.3	《3648》	-	-
b	-	-	【43329】	アカネズミ	函館 600feet	1907 年 7 月 27 日	-	有	-

(4) ラベル A に漁川上流、9/7/3、《3648》、ラベル B に定山溪 5.IX.3

表 2-d ヒメネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1	Ap. geisha hokkaidi	有	【07035】	ヒメネズミ	函館湯の川	1908 年 11 月 8 日	《3656》	有	7
3	Ap. geisha hokkaidi	有	【08307】	ヒメネズミ	函館	1907 年 7 月 27 日	《3692》	-	-
4	Ap. geisha hokkaidi	有	【08300】	ハントウアカネズミ	軽川	1910 年 10 月 23 日	《3654》	-	-
5	Ap. geisha hokkaidi	有	【08311】	ヒメネズミ	定山溪	3 年 4 月 5 日	《3655》	有	2
6	Ap. geisha hokkaidi	有	【08312】	ヒメネズミ	函館	1908 年	《3687》	-	-
7	Ap. geisha hokkaidi	有	【08314】	ヒメネズミ	-	-	《3689》	-	-
8	Ap. geisha hokkaidi	有	【08313】	ヒメネズミ	函館地方	1908 年	《3694》	-	-
9	Ap. geisha hokkaidi	有	【08306】	ヒメネズミ	銭函山	1930 年 2 月 23 日	-	有	1
10	Ap. geisha hokkaidi	有	【08309】	ハントウアカネズミ	樺太北名好	9 月 15 日	《3330》	-	-
a			【49138】	ヒメネズミ	漁川上流	5.XII.3	-	-	-

表 2-e ハントウアカネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1	<i>Ap. sp. giliacus</i>	有	【08317】	ハントウアカネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月	《3661》	有	1

表 2-f ドブネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
2 (5)	<i>R.norvegicus</i>	有	【07875】	ドブネズミ	札幌	1908 年 1 月 5 日	《3575》	-	-
3 (6)	<i>R.norvegicus</i>	有	【07793】	ドブネズミ	札幌	1884 年	(3568)	-	-
4	<i>R.norvegicus</i>	有	【07873】	ドブネズミ	札幌	1915 年 1 月 2 日	《3571》	-	-
5	<i>R.norvegicus</i>	有	【07831】	ドブネズミ	札幌	40 年 12 月	《3582》	-	-
6	<i>R.norvegicus</i>	有	【07042】	ドブネズミ	札幌丘珠	1907 年 12 月	《3581》	-	-
8 (7)	<i>R.norvegicus</i>	有	【07832】	ドブネズミ	札幌	43 年 10 月	《3583》	-	-
9	<i>R.norvegicus</i>	有	【07851】	ドブネズミ	札幌	-	《3586》	-	-
10 (8)	<i>R.norvegicus</i>	有	【07865】	ドブネズミ	札幌	-	(3580)	-	-
11	<i>R.norvegicus</i>	有	【07863】	ドブネズミ	札幌	-	《3585》	-	-
12	<i>R.norvegicus</i>	有	【07866】	ドブネズミ	札幌	-	《3578》	-	-
13	<i>R.norvegicus</i>	有	【07828】	ドブネズミ	札幌	1914 年 11 月 11 日	《3577》	-	-
14	<i>R.norvegicus</i>	有	【07824】	ドブネズミ	札幌	42 年 3 月 20 日	《3624》	有	9
15	<i>R.norvegicus</i>	有	【07874】	ドブネズミ	石狩札幌	42 年 3 月 20 日	《3625》	-	-
16	<i>R.norvegicus</i>	有	【07833】	クマネズミ	札幌	1909 年 7 月 4 日	《3628》	有	10
17	<i>R.norvegicus</i>	有	【07829】	ドブネズミ	札幌	1909 年 3 月 25 日	《3629》	-	-
18	<i>R.norvegicus</i>	有	【07835】	ドブネズミ	イザリ村字檜二葉	1914 年 9 月 20 日	《3632》	-	-
19	<i>R.norvegicus</i>	有	【07872】	ドブネズミ	札幌博物館内	1914 年 11 月 9 日	《3633》	-	-
20	<i>R.norvegicus</i>	有	【07836】	ドブネズミ	札幌	42 年 10 月 24 日	《3576》	-	-
21	<i>R.norvegicus</i>	有	【07827】	ドブネズミ	札幌	1907 年 9 月 19 日	《3642》	-	-
22	<i>R.norvegicus</i>	-	【07825】	ドブネズミ	伊座里村字檜二葉	1914 年 9 月 15 日	《3630》	-	-
23	<i>R.norvegicus</i>	有	【07868】	ドブネズミ	伊座里村字檜二葉	1914 年 9 月 15 日	《3631》	-	-
24	<i>R.norvegicus</i>	有	【07871】	ドブネズミ	樺太	1908 年 11 月	《3616》	-	-
25	<i>R.norvegicus</i>	有	【48032】	ドブネズミ	樺太逢坂	1910 年 7 月 13 日	《3621》	-	-
26	<i>R.norvegicus</i>	有	【07867】	ドブネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月	《3620》	有	15
27	<i>R.norvegicus</i>	-	【07834】	クマネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日	《3641》	-	-
28	<i>R.norvegicus</i>	有	【07830】	ドブネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日	《3640》	-	-
29	<i>R.norvegicus</i>	有	【07869】	ドブネズミ	樺太	1910 年 7 月 13 日	《3634》	-	-
a		-	【07790】	ドブネズミ	札幌	15 年 2 月	-	-	-
b		-	【07791】	ドブネズミ	札幌	16 年 6 月	-	-	-
c		-	【49863】	ドブネズミ	札幌	1944 年 7 月 16 日	《3690》	-	-
d		-	【07877】	ドブネズミ	札幌	1898 年 4 月 5 日	-	-	-
e		-	【49862】	ドブネズミ	札幌	1908 年 3 月	《3647》	-	-
f		-	【07043】	ドブネズミ	札幌	1909 年 3 月 25 日	-	-	-
g		-	【48040】	ドブネズミ	札幌	1910 年 10 月	《3584》	-	-
h		-	【48038】	ドブネズミ	長崎	1910 年 10 月	(3584)	-	-
i		-	【07826】	ドブネズミ	札幌 [寶沢]	28. 9	《3327》, 《3580》	-	-
j		-	【49861】	ドブネズミ	樺太中野	1907 年 9 月 19 日	《3643》	-	-
k		-	【48041】	ドブネズミ	-	1881 年 5 月 18 日	《3617》	有	-
l		-	【48045】	ドブネズミ	-	1885 年 1 月 2 日	《3627》	有	-
m		-	【48034】	ドブネズミ	-	1885 年 2 月 4 日	《3626》	-	-
n		-	【48042】	ドブネズミ	-	1907 年 12 月 19 日	《3619》	有	-
o			【07792】	クマネズミ	札幌	1908 年 11 月 13 日	《3568》	有	-
p			【07045】	クマネズミ	札幌	1908 年 11 月 23 日	-	有	-

(5) 番号 2 は 1 を修正

(6) 番号 3 は 2 を修正

(7) 別のラベルは札幌を抹消して長崎市

(8) 28.9 の日付あり

表 2-g ハツカネズミ

番号	記載学名	Tok		台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
1	<i>Mus molossinus</i>	有	【08277】	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 8 日	《3671》	-	-
2	<i>Mus molossinus</i>	有	【08290】	ハツカネズミ	札幌	-	(3679)	-	-
3	<i>Mus molossinus</i>	有	【08281】	ハツカネズミ	札幌	-	《3674》	-	-
4	<i>Mus molossinus</i>	有	【08285】	ハツカネズミ	札幌	-	《3696》	-	-
5	<i>Mus molossinus</i>	有	【08287】	ハツカネズミ	札幌	-	《3685》	-	-
6	<i>Mus molossinus</i>	有	【08283】	ハツカネズミ	札幌	-	《3677》	-	-
8	<i>Mus molossinus</i>	有	【07041】	ハツカネズミ	札幌	1907 年 9 月 8 日	《3669》	有	-
9	<i>Mus molossinus</i>	-	【08279】	ハツカネズミ	札幌	1915 年 12 月	《3691》	-	-
10	<i>Mus molossinus</i>	有	【08282】	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 24 日	《3667》	有	7

12 (9)	Mus molossinus	有	【08286】	ハツカネズミ	札幌博物館内	1914 年 11 月 25 日	《3697》	-	-
14	Mus molossinus	-	【08292】	ハツカネズミ	札幌	-	《3682》	-	-
15	Mus molossinus	有	【08284】	ハツカネズミ	-	-	《3664》	-	-
16	Mus molossinus	有	【08278】	ハツカネズミ	札幌	1915 年 12 月	《3658》	-	-
17	Mus molossinus	有	【08280】	ハツカネズミ	札幌	1914 年 2 月 1 日	《3704》	-	-
a	-	-	【08289】	ハツカネズミ	札幌	1907 年 10 月 20 日	-	有	11
b	-	-	【08288】	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	(3676)	-	-
c	-	-	【08293】	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	-	-	-
d	-	-	【49787】	ハツカネズミ	-	6 年 12 月 12 日	-	-	-
e	-	-	【49793】	ハツカネズミ	-	1917 年 12 月 13 日	(3670)	-	-
f	-	-	【49794】	ハツカネズミ	-	1917 年 12 月 13 日	《3683》	-	-

(9) ラベルの採集地は「円山」抹消

表 2-f Mus wagneri var. albula (ナンキンネズミ)

番号	記載学名	Tok	台帳種名	台帳採集地	台帳採集日	朱・印番号	計測値	目録番号
a	-	-	【08291】 ハツカネズミ [ナンキンネズミ]	札幌	1885 年 8 月 22 日	-	-	-

表 3 旧台帳 1 の哺乳類類別番号 121 前後の標本情報

配列番号は、旧台帳 1 掲載標本に順に与えた通し番号
 類別番号は、旧台帳 1 に記載されている標本番号
 採集年次は西暦に変換して表記している

配列 番号	類別 番号	品名	産地	採集年次	原由
806	-	海狸骨格	千島	1902 年 2 月 26 日	購入
911	119	アカクマ骨格	石狩札幌	1892 年 11 月 25 日	村田庄次郎採集
1005	-	免頭骨	石狩	1894 年 3 月 19 日	購入
1015	-	鼠	石狩円山村	1894 年 5 月 17 日	
1019	-	地鼠	石狩	1894 年 5 月 20 日	
1079	-	トビ足骨		1894 年 10 月 3 日	
1169	123	鯨胎児	後志高嶋	1895 年 4 月	高嶋村寺田磯吉氏寄贈
1172	124	カハホリ	石狩札幌	1895 年 8 月	
1451	125	ハツカネズミ	石狩札幌	1896 年 12 月 5 日	五十嵐栄吉氏採集
1457	126	熊	石狩白石村	-	白石村渋谷永貞外三名寄付

(6) エゾヤチネズミ 【08440】 (札幌円山, 1914 年 11 月 25 日)

(7) エゾヤチネズミ 【08444】 (札幌円山, 1914 年 11 月 25 日)

(8) エゾヤチネズミ 【06821】 (札幌円山, 1914 年 11 月 25 日)

(9) エゾヤチネズミ 【08431】 (雌, 札幌円山, 1914 年 11 月 25 日)

(13) エゾヤチネズミ 【08433】 (札幌円山, 1914 年 11 月 25 日)

この標本にはそれぞれ 6、7、8、9、13 の番号がある。共通して付属するラベル 5 には「ヤマネズミ, 円山, 大正三年 [=1914] 十一月廿五日, 林学富本」とあり、目録の記載と矛盾しない。「林学富本」は採集者と考えられるが、現時点で詳細は不明である。

(10・12) エゾヤチネズミ 【08437】 (札幌, 採集年次なし)

(a) エゾヤチネズミ 【08439】 (士別, 採集年次なし)

【08437】には、HUNHM の標本番号が記載されているラベルの他に 2 枚のラベルが付属している。1 枚はラベル 4 で表面には記載がなく、裏面に学名と「Tok」、10 の番号がある。もう一枚のラベルはおそらくラベル 3 を切断したもので、そこには「札幌, 331」と学名、「Tok」、12 の番号があり、二つの番号が付属している。前者には「3599」の印番号、後者には「3602」の朱番号・印番号がある。旧台帳 3 に対応する朱番号と印番号はセットになって記載されていることがほとんどであることから、「3599」の朱番号を持つ標本を探索すると、(a) 【08439】が確認される。この標本には特徴のないラベルに「士別, 330」と「3599」の朱番号がある。ここから、【08437】に付属するラベル 4 は本来【08439】に付属していたものであると考えられる。標本情報も徳田が採集地として示した「Sibetu (?)」と合致し、かつ徳田の学名と番号記載のあるエゾヤチネズミには士別産の標本が認められないことから、【08439】は徳田が目録に掲載した標本であり、徳田の記載による番号 10 が本来付属していたものと判断される。この 2 点は採集年次不明であるが、採集年次の下限として 1932 年を与えられる。

(16) ミカドネズミ (エゾヤチネズミ) 【08441】 (札幌, 21 年 8 月 25 日)

(b) エゾヤチネズミ 【08343】 (札幌, 採集年次なし)

【08441】には、ラベル 2 とラベル 4 が付属し、前者には「86 号, ネズミ, 札幌, 廿一年八月廿五日」、裏面にミカドネズミの学名と 1 の番号、「Tok」の記載、「3588」の朱番号・印番号がある (図 12)。後者の表面には記載がなく、裏面にエゾヤチネズミの学名と 16、「Tok」の記載と「3700」の印番号がある。



図 12. 【08441】付属の 2 種の番号

【08343】には (5)、(11)、(15)、(a) と同じ特徴のないラベルに「356, 札幌」と「3700」の朱番号がある。ここから、【08441】に付属する 16 の番号があるラベル 4 は本来【08343】

に付属していたものであり、徳田がエゾヤチネズミの 16 として認識していた標本であること、また、【08441】は徳田によってミカドネズミの 1 として認識していた標本であると判断される。【08441】は古い本剥製であり、状態があまりよくないことから正確な同定が難しい標本である。これまで HUNHM ではエゾヤチネズミとして管理してきたが、本稿では徳田の分類に従ってミカドネズミとして扱う。旧台帳 2 の「86 号」標本は「いゑねづみ? , 石狩札幌, 21-8-25」という情報が記載されており、ラベル 2 の記載と合致する。

【08343】に付属するラベルにある数字は、(10・12) 【08437】、及び (a) 【08439】と同様に 1900 年前後に旧台帳 1 の運用が停滞していた時期に利用されていた台帳番号と推測されることから、採集年次の下限を 1932 年とすることに矛盾はない。

(c) エゾヤチネズミ 【08435】 (雄、函館久根別, 1907 年 10 月 26 日)

目録で計測値が示されている 10 号の標本は【08435】に該当する。標本に付属する折居のラベルに「No.186, 26.Oct.1907, Kunebetsu N. W. of Hakodate Japan, H.O., ♂」とあり裏面に「HB:104, TL:48, HF:19.5, EAR:14.5」の計測値があり、いずれも目録の記載と合致する。徳田の番号のうち 14 が欠番であることから、過去のいずれかの段階で学名、14 の番号と「Tok」の記載のあるラベルが欠落した可能性が高い。この標本には朱番号・印番号は付属しない。

(d) エゾヤチネズミ 【08442】 (雌, 札幌, 1911 年 5 月 10 日)

徳田の目録においてエゾヤチネズミは 16 点存在していたことになっている。ここまでに目録に該当すると考えられる 16 点の標本を確認してきたが、目録に掲載されている 1890 年及び 1911 年の札幌産の標本を見出すことができなかった。目録に誤りがある可能性もあるが、【08442】が 1911 年に札幌で採集されたものであることから、ここで確認しておきたい。

【08442】には「札幌第一農場, 明治四四 [=1911] 年五月十日, ♀」と「3611」の朱番号を持つ明治末期に利用されていたラベルと、表面に「Evotomys mikado Thos」というミカドネズミの学名の記載、裏面に「3611」の印番号と「Cl. bed.」の鉛筆書きがあるラベル 4 が付属する。この「Cl. bed.」は明らかに徳田によるものであって、目録の札幌産 1911 年標本の情報とも合致する。しかし、これを含めることで標本点数は 17 点となり、目録と矛盾することになる。(1) 【08427】には採集地情報がないことから、最終的に【08427】を削除したのかもしれないが、現時点で明確にはならない。

標本情報やラベルの混乱など多数の問題が確認されたが、徳田が目録で紹介した 16 点のエゾヤチネズミを現存標本と照合することができた。しかしながら、HUNHM には目録が刊行された 1932 年以前に採集されたエゾヤチネズミは他にも存在する。

(e) ~ (h) として示した標本はいずれも 1932 年以前の採集情報を持つ標本であり、目録に掲載されてよいものである。(e) は、HUNHM から動物学教室に持ち出されていたものであり、徳田が利用した時期には博物館の所蔵標本ではなくなっていた可能性もあるが、(2) 【49472】も教室に保管されていたものであることから強く主張することは難しい。なぜ (e) ~ (h) が目録に掲載されていないのかは明らかにならないが、村田が樺太で採集したタイリクヤチネズミ 【08436】の情報が引き継がれず、徳田が利用できなかったことも含め、当時の哺乳類標本管理体制の不備を示しているのかもしれない。

なお、(h) 【69416】は折居の採集標本であり、「44」の採集番号がある。未同定のネズミ頭骨 【32834】には折居のラベルに「No.44」の番号が記載されており、同一個体の剥製と頭骨である可能性がある。この場合、採集情報が全く付属しない 【32834】に 【69416】の採集情報を追加することができる。

3-4. ミカドネズミ

目録上では、3 点のミカドネズミが HUNHM に所蔵されていた。「Tok」の記載とともにある番号では 2 が欠けている (表 2-b)。

(1) ミカドネズミ (エゾヤチネズミ) 【08441】 (札幌, 21 年 8 月 25 日)

徳田による 1 の番号を持つこの標本については、タイリクヤチネズミの検討で触れた。ラベルの混乱の問題はあるが、目録の 1888 年札幌産の標本の記載と矛盾はない。

(3) ミカドネズミ【08432】(雌, 函館付近, 1908 年)

この標本には 3 の番号がある。特徴のないラベルには「No.38, 函館附近, ♀, 受入 42.4.28, 四十一年度採集」の記載があり、目録の 1908 年函館採集の標本の記載と矛盾しない。なお、「3610」の朱番号・印番号から照合できる台帳 3 には「1908 年 4 月 3 日」という採集日情報があるが、その根拠は不明である。

ラベルの文字の特徴と、1909 年 4 月 28 日に受入れられたという情報のある標本はいずれも折居採集であることから、この標本の採集者も折居と判断される。なお、除肉が不十分で同定が行われていないネズミ頭骨【11687】には「No.38, H.O.」のラベルが付属する。採集者と番号の合致のみで同一個体と判断することは躊躇されるものの、参考として紹介しておく。

(a) ミカドネズミ【08017】(宗谷礼文島, 1908 年 9 月 27 日受入, アルビノ)

この標本は目録刊行の 1932 年以前には HUNHM に受入れられており、朱番号・印番号も付属している。アルビノ個体であるためか目録には掲載されていない。

目録では 1914 年に札幌で採集された標本があることになっている。この標本が徳田によって 2 の番号を付与されたものと推測されるが、上記 3 点以外に 1932 年以前の採集情報を持つ標本及び朱番号・印番号をもつミカドネズミ標本は確認できない。

3-5. アカネズミ

目録上では 6 点のアカネズミ標本が確認される。徳田の学名記載のある標本は 5 点確認され、「Tok」の記載とともにある番号では 4 が欠番となっている (表 2-c)。

(1) アカネズミ【48031】(雄, 漁川上流, 9/7/31)

(2) アカネズミ【08329】(漁川上流, 3 年 7 月 9 日)

(a) アカネズミ【49241】(雌, 漁川上流 or 定山溪, 9/7/3 or 5.IX.3)

漁川上流で採集された【48031】には 1、【08329】には 2 の番号記載がある。目録では漁川採集標本の採集年次は 1908 年となっているが、いずれも対応していない。この点について検討することとしたい。

【48031】のラベル 4 には「アカネズミ, ♂, 漁川上流, 9/7/31, カマダ」(図 13) という記載と裏面に「3652」の朱番号・印番号がある。「3652」の番号を用いて旧台帳 3 の情報を確認すると、採集年次は「大正 9 [=1920].7.30」となっている。図にみるように「9/7/31」の「1」がつぶれているので、旧台帳 3 では「30」と読んでいたことがわかる。一方、【08329】のラベル 5 には「赤鼠, 鎌田」「漁川上流, 9 XII 3」(図 14) の記載があるが、現行標本台帳では「3 年 7 月 9 日」と判断しており、ラベルの採集月記載と齟齬があること、【48031】と異なり冒頭の「9」を採集年ではなく、採集日と判断している。【08329】には「3650」の朱番号・印番号があり、対応する旧台帳 3 には採集年次の記載がないが、【48031】の採集日と考え合わせるならば、【08329】の採集年次は「3 年」ではなく「9 年」と判断してよいようにも思われる。ただし、旧台帳 3 では採集年と日を誤って入れ替えている事例が多く確認されること (加藤ら 2012)、採集者の「カマダ (鎌田)」による採集標本の多くは 1900 年から 1917 年ごろに採集されたものであることから、慎重に取り扱う必要がある。

後述するドブネズミにおいては、カマダによる漁村周辺の採集標本には「大正 3 年」と明記されている。また、(a)【49241】は、「アカネズミ, ♀, 漁川上流, 9/7/3」というラベル 4 と「定山溪, 5.IX.3」というラベル 5 が付属し、どちらの情報を採用するべきかの判断ができない標本である。しかしながら、「漁川上流」採集とするラベル 4 に「9/7/3」という採集日があることから、【48031】の「9/7/31 (30)」は本来「9/7/3」であった可能性がある。また、【08329】のラベル 5 の「9 XII 3」という採集日の記載はヒメネズミ【49138】にも確認され、【49241】の「定山溪」採集とするラベル 5 と後述するヒメネズミ【08311】には「5.IX.3」という記載があるが、いずれも「X」は【08329】と同様に「V」が上下反転したように見える。ヒメネズミ【08311】には同時期に付与されたと考えられるラベル 3 が付属し、ここには「三年四月五日」の記載がある。ここから、ローマ数字で月を表記していた人物は「V」を反転させる癖を有していたと考えられるため、【08329】、【49138】の「9 XII 3」は「9 VII 3」であり、(1)、(2)、(a) はすべて「[大正] 3 年 7 月 9 日」の採集標本である可能性が高い。しかし、目録の漁川標本の採集年である 1908 年とは合致しないため、問題は残る。

なお、【48031】に付属するラベル 4 には「丈: 20.2, 尾: 13.2, 趾: 20.6, 耳: 1.7」という計測値の記載があるが、この数値はアカネズミとしては大きすぎるため、徳田は表記しなかったものと考えられる。

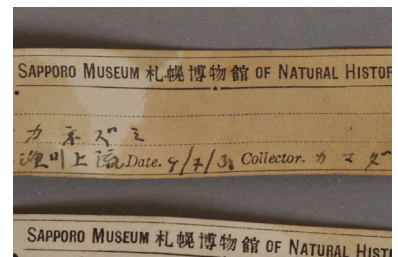


図 13. 【48031】付属のラベル 4 の日付



図 14. 【08329】付属のラベル 5 の日付

(3) アカネズミ【08328】(上川郡士別, 採集年次なし)

この標本には3の番号がある。採集地の士別と採集年次がないことは、目録の記載と合致する。ここから、この標本の採集年次の下限を1932年とすることができる。

(5) アカネズミ【08316】(雄, 石狩軽川原野, 1908年3月10日)

この標本には5の番号がある。目録には軽川採集標本の記載がなく合致しない。理由は定かではないが、目録の漁川標本の採集年次が1908年であり、上述したように現存する漁川標本の採集年次が1914年となっていることから、徳田の整理、記述に混乱があった可能性が考えられる。なお、この標本は過去にヒメネズミと同定されていたことが付属ラベルから確認される。

(6) アカネズミ【08327】(雌, 千島国後乳呑路, 1907年10月7日)

この標本には6の番号がある。当初ヒメネズミと同定されていたことが付属するラベル4から推測されるが、徳田によってアカネズミと再同定されたようである。付属する折居のラベルに「No.77 1/2, 7.Oct.1907, Chinominoji in Kunashiri Kuril Japan, H.O., ♀」とあり、裏面に「HB: 99, T: 95, HF: 24.5, EAR: 15」の計測値が記載されており、採集地及び雌個体であることとあわせ、目録の2号標本の情報と合致する。なお、除肉されておらず、一部潰れている状態のネズミ頭骨【11745】に「No.77 1/2, H.O.」の記載があるラベルが付属している。同一個体である可能性があるが、目録の2号標本は「skin」とされており、1932年ごろにはすでに分離していたものと考えられる。

(b) アカネズミ【43329】(雄, 函館600feet, 1907年7月27日)

この標本には徳田による学名や番号の記載がない。ラベルに「No.136, 27th.July.1907, ♂, Hakodate Hokkaido Japan 600feet, H.O.」の記載があり、折居の採集標本であることが確認される。過去にヒメネズミと同定されていたようであるが、現在はアカネズミとして管理されている。未同定のネズミ頭骨【32835】に折居による「No.136」のラベルが付属している。これも同一個体の標本であると推測される。

この標本は、採集年次から目録に掲載されてしかるべきものであるが、目録では函館産のアカネズミは記載されていない。目録に記載されている1882年の千歳産標本が確認できず、旧台帳2で「83」の番号が与えられた1882年9月千歳郡島松村採集アカネズミの存在が確認されることから、現存しないこの標本に徳田の番号4が付属していたものと考えられ、徳田が【43329】を利用していなかったことは間違いない。

3-6. ヒメネズミ

目録では9点のヒメネズミ標本が所蔵されていたことになるが、ラベルの番号としては10まで存在し、現存標本は9点確認された。「Tok」の記載とともにある番号では2が欠けている(表2-d)。

(1) ヒメネズミ【07035】(雌, 函館湯の川, 1908年11月8日)

この標本には1の番号がある。ラベルに「No.18, 8th.Nov.1908, Yunokawa 5miles east of Hakodate, 受入 42.4.28」、「HB: 78, T: 85, HF: 19.5, E: 43」の記載がある。これは目録の7号に合致する。この標本には採集者情報が付属していないが、折居の採集標本である。

(3) ヒメネズミ【08307】(函館, 1907年7月27日)

この標本には3の番号がある。ラベルに「27.July.1907, Hakodate Hokkaido Japan, H.O.」、「Micromus geisha hokkaido, 北海道産褐色野鼠」とあり、折居の採集標本である。他の折居採集標本と異なり採集番号や計測値の情報が欠落しているが、目録の標本情報と矛盾はない。なお、付属する印番号「3692」から旧台帳3を参照すると「フクシヨクノネズミ」とのみあり採集情報の記載がない。標本名の「フクシヨク」は「褐」を「福」と誤読したものと判断されるため、ラベルの混乱などがあるわけではなく、旧台帳3が情報を転記しなかったに過ぎない。

(4) ハントウアカネズミ【08300】(石狩軽川, 1910年10月23日, 村田)

1972年3月8日に小林恒明によってハントウアカネズミと再同定されたという追記があるこの標本には、徳田による「Ap. geisha hokkaidi」の学名と4の番号がある。ラベルには「23.10.43」の採集年次があり、採集者である村田庄次郎の在職時期から1910年10月23日の採集であることは間違いないが、目録における軽川産の標本年次は1907年となっており、合致しない。また、「3654」の印番号から旧台帳3を参照すると、採集年次を「明23.10.13」と年と日を誤認かつ「13」を「43」と誤読しており、注意が必要である。

(5) ヒメネズミ【08311】(雄, 定山溪, 3年4月5日, 鎌田)

アカネズミの採集日の検討で利用したこの標本には5の番号がある。「野鼠、定山溪、5.IX [IV] .3」というラベル5と「定山溪、鎌田、三年四月五日、♂、HB: 84, T: 93, HF: 20, E: 12」のラベル3が付属している。この計測値情報は目録の2号標本に該当し、目録の採集地、採集年とも矛盾しない。

(6) ヒメネズミ【08312】(雄, 1908年, 函館地方)

この標本には6の番号がある。特徴のないラベルに「受入 42.4.28, 四十一年, 函館地方, ♂」とあり、目録の函館産1908年と矛盾しない。過去にハツカネズミと同定されていたことがラベルから確認される。なお、この標本は受入れ年次から折居採集と推測される。

(7) ヒメネズミ【08314】(採集情報なし)

この標本には7の番号があるが、採集情報が記載されたラベルは付属しない。ハツカネズミの学名が記載されているラベル3の印番号「3689」に基づいて旧台帳3を参照しても採集地、採集年次の情報は確認できない。しかし、旧台帳3と対応する標本カードの「3689」には採集年次として「明治42 [=1909] .4.28」という記載がある。これがいずれかの段階で標本に付属していたラベルに基づくものであるとすれば、「明治42年4月28日」は折居の標本受入れ日と合致することから、折居の採集標本として扱うことができるかもしれない。ただし、1909年は受入れ日に過ぎず、採集年次として評価することには注意が必要である。

目録には、8号標本として計測値が記載された函館産標本がある。現在これに該当する標本を見いだせていないが、ここまでみてきたように折居採集標本には函館産で計測値が記載された標本が多く含まれているので、この標本が目録の8号にあたるのかもしれない。しかし、目録では8号標本は「skin」のみとするのに対し、【08314】には頭骨が付属する。情報の欠落もあり、積極的に評価することは難しい。

(8) ヒメネズミ【08313】(雄, 函館地方, 1908年)

この標本には8の番号がある。特徴のないラベルに「函館附近, ♂, 1908., 受入 42.4.28」の記載があり、目録の採集地、採集年と矛盾しない。受入れ日から折居採集標本と推測されるが、旧台帳3では受入れ日を採集日としており、注意が必要である。

(9) ヒメネズミ【08306】(銭函山, 1930年2月23日, 犬飼哲夫)

この標本には9の番号がある。目録の採集地と採集年は目録の記載と矛盾はなく、目録の1号標本に該当する。ただし、ラベルに「尾85m, 体76m」とあるが、目録では「HB:85, T:76」と入れ替えてある。これは、ヒメネズミの頭胴長と尾長としてはラベルの記載は不適切であるため、徳田が修正したものと考えられる。

(10) ハントウアカネズミ【08309】(樺太北名好, 9月15日)

現在ハントウアカネズミとして管理しているこの標本には10の番号がある。この標本は前章で触れた村田の樺太動物調査で採集されたもので「北名好, 9.19」のラベルが付属している。ラベルにある「3330」の印番号から旧台帳3を参照すると、「ネズミ」とのみあり採集地、採集年次の情報が記載されていない。徳田はヒメネズミとして同定したものの、採集地が不明であることから北日本産のネズミ科標本を対象とする目録からは除外し、所蔵点数を9点としたものと推測される。

3-7. ハントウアカネズミ

目録では、樺太産の1号標本のハントウアカネズミ1体のみがHUNHMに保存されていたことになる。

(1) ハントウアカネズミ【08317】(樺太豊原, 1908年11月, 菅野省三)

この標本には1の番号があり、記載されている計測値も目録の1号標本と合致する。徳田はドブネズミでは「豊原」の採集地名を採用しているが、この標本については「Saghalin」とのみ記載している点がやや疑問である。採集者の菅野省三は札幌農学校卒業後に樺太庁の農事試験場長などを歴任した人物である。

3-8. ドブネズミ

目録では 29 点のドブネズミが所蔵されていたことになっている。ラベルの番号としては、1、7 が欠番となっているが、1～3 には修正などの処理があり、若干の混乱がみられる（表 2-f）。

(2) ドブネズミ 【07875】（雄，札幌，1908 年 1 月 5 日）

この標本の徳田によるラベル記載は、1 を修正して 2 となっている。採集地と採集年次の組み合わせは目録と矛盾しない。なお、印番号「3575」による台帳 3 との照合では、採集情報に問題はないが、標本名が「キネズミ」となっている。この名称は本来キタリス（エゾリス）に利用されるべきものであるが、この問題については旧台帳 3 掲載ネズミ科標本全体の問題でもあるので、後述する。

(3) ドブネズミ 【07793】（札幌，1884 年）

(o) クマネズミ 【07792】（雄，札幌，41 年 11 月 13 日）

【07793】に付属するラベルの記載は、2 を修正して 3 としている。【07793】にはラベル 1 が付属し、「十七年 月 日 札幌産」と裏面に旧台帳 1 の前半の管理番号にあたると推測される「39」と「3568」の朱番号がある。印番号「3568」は(o)クマネズミ【07792】に付属するラベル 3 に確認され、旧台帳 3 の「3568」は標本名「キネズミ」であるが【07793】の採集情報と合致しており、【07792】の印番号のあるラベルは【07793】に付属していたものとみられる。

なお、後述するように旧台帳 2 においてドブネズミは「いえねづみ」と表記されていた（表 5）。旧台帳 2 において 1884 年採集の「いえねづみ」は 81 号標本のみであるが、この番号をもつドブネズミは確認できないことから、【07793】がこれに該当する可能性がある。明確な根拠は不足するものの、この推定が妥当であるならば【07793】の採集日は旧台帳 2 の記載から「1884 年 4 月 7 日」となる。

(4) ドブネズミ 【07873】（雄，札幌，1915 年 1 月 2 日）

標本には 4 の番号がある。目録には 1915 年に採集された札幌産の標本の記載はなく、混乱が生じている。ラベルには明確に「大 4 [= 大正 4=1915] .1.2」とあり、旧台帳 3 においても 1915 年採集となっていることから、標本情報には混乱はなく、徳田の記載に問題があると考えられる。

(5) ドブネズミ 【07831】（札幌，40 年 12 月）

(6) ドブネズミ 【07042】（札幌，1907 年 12 月）

前者に 5、後者に 6 の番号があり、【07831】の「40 年」は明治 40 年と評価できることから、目録の採集地と採集年次の組み合わせと矛盾しない。なお、【07042】については現行標本台帳及び旧台帳 3 とともに採集地を「札幌」のみとするが、ラベルに「丘珠」という記載があり、より詳細な情報を利用できる。

(8) ドブネズミ 【07832】（札幌，43 年 10 月）

標本には 8 の番号がある。採集情報が記載されたラベル 3 とラベル 4 が付属しており、ラベル 3 には「七郎鼠，札幌，40 [=1907].10.」を抹消して「長崎市，43 [=1910].10.」及び朱番号「3583」があり、ラベル 4 には「シチロウネズミ，札幌，43.10.」及び印番号「3583」がある。ラベルの前後関係としては前者の方が古く、後者が修正前の「札幌」と修正後の「43.10.」を転記していることに矛盾がある。目録では 1907 年及び 1910 年の札幌産標本の記載はあるが、修正された「長崎市」の情報とあわせ、慎重な取り扱いが必要な標本である。

(9) ドブネズミ 【07851】（札幌，採集年次なし）

(11) ドブネズミ 【07863】（札幌，採集年次なし）

(12) ドブネズミ 【07866】（札幌，採集年次なし）

【07851】には 9 の番号、【07863】には 11 の番号、【07866】には 12 の番号がある。朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 の情報はいずれも「札幌産、採集年次なし」である。目録の記載ルールに基づけば「Sapporo (?)」とあるべき標本であるが、目録の記載方法の揺らぎとして評価しておく。これらの採集年次の下限を 1932 年とすることが可能である。

(10) ドブネズミ 【07865】（札幌，採集年次なし）

標本には 10 の番号がある。朱番号「3580」のあるラベル 3 には「343，札幌，28.9.」の記載があり、現行標本台帳では登録していないが、「28 [=1895] 年 9 月」の採集情報を追記することができる。印番号は前章でふれた樺太動物調査採集のドブネズミ【07826】に誤って付属しているもので、この標本の採集情報の記載がある。目録の 1895 年の札幌産標本の記載と矛盾しない。

(13) ドブネズミ【07828】(札幌, 1914 年 11 月 11 日)

標本には 13 の番号がある。目録の 1914 年札幌産の記載と矛盾しないが、標本に付属する「3577」の朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 には、採集地、採集年次とも記載がない。「3577」が記載されたラベルに「No.6, 11/XI/1914, 札幌, Coll. Y.T., 人家にて」とあるにもかかわらず、台帳に記載がないことは管理の不十分さを示唆している。

(14) ドブネズミ【07824】(雌, 札幌, 42.3.20)

標本には 14 の番号がある。ラベル 4 に「尾: 15, 趾: 20cm」という記載があり、これは目録の 9 号標本及び 1909 年の札幌産標本に該当する。

(15) ドブネズミ【07874】(雄, 石狩札幌, 42.3.20)

標本には 15 の番号がある。標本ラベルには「全長: 19, 尾: 17 1/2, 耳: 1 1/2, 趾: 03 1/2」の計測値の記載がある。目録の 24 号標本は尾長が「170」であること、後足長の記載がないため、完全な合致とはいえないが、おそらくはこの標本に該当するものと推測される。

(16) クマネズミ【07833】(雌, 札幌, 1909 年 7 月 4 日, 村田)

標本には 16 の番号がある。ラベルには「クマネズミ?」という記載があり、朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 でもクマネズミと同定され、現在の標本台帳に引き継がれている。付属する頭骨を検討した結果、徳田の同定通りドブネズミとすることが妥当だと判断された。「体長: 187, 尾: 177, 後足: 35, 耳殻: 20」の計測値があり、これは目録の 10 号標本に該当する。

(17) ドブネズミ【07829】(雄, 札幌, 42 年 3 月 25 日)

標本には 17 の番号があり、目録の 1909 年札幌産の情報と矛盾しない。

(18) ドブネズミ【07835】(雄, 札幌イザリ村檜二葉, 1914 年 9 月 20 日)

標本には 18 の番号があり、ラベルには「ヤマネズミ, ♂, 札幌イザ林, 大 3.9.20」、裏面に「札幌郡伊座里村檜二葉」、「3632」の朱番号・印番号がある。旧台帳 3 では採集地を「札幌」としている点に相違がある。目録の 1914 年札幌産の記載とは矛盾はないが、正確にはアカネズミの採集年次の検討で触れた現在の恵庭市に位置する「漁村」の採集標本である。

(19) ドブネズミ【07872】(雄, 札幌博物館内, 1914 年 11 月 9 日)

標本には 19 の番号と「3633」の朱番号・印番号があり、旧台帳 3 の記載とも合致する。目録の 1914 年札幌産の記載とも矛盾しない。

(20) ドブネズミ【07836】(札幌, 42. 10. 24)

標本には 20 の番号がある。ラベル 4 にはドブネズミの学名「*Mus norvegicus*」と「クマネズミ」の和名、「♂, 札幌, 42/10/24」の記載がある。付属する朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 ではクマネズミとして登録されているが、付属する頭骨から徳田の同定通り現行標本台帳でもドブネズミとして登録されている。なお、現行標本台帳では雄個体である情報が漏れており、追記する必要がある。目録の 1909 年札幌産標本の記載と矛盾しない。

(21) ドブネズミ【07827】(雌, 札幌, 1907 年 9 月 19 日)

標本には 21 の番号がある。ラベルの朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 では「♀, 明治 40 [=1907] .9.19」とのみあり、採集地の情報が欠落している。ラベルには「体: 153, 尾: 169, 耳: 17」の計測値があるが、これは目録に記載されている計測値のいずれとも合致しない。1907 年札幌産の標本記載とは矛盾しないが、やや不審である。

(22) ドブネズミ【07825】(雄, 札幌郡伊座里村字檜二葉, 1914 年 9 月 15 日)

(23) ドブネズミ【07868】(雌, 札幌郡伊座里村字檜二葉, 1914 年 9 月 15 日)

【07825】には 22 の番号があるが「Tok」の記載はない。【07868】には「Tok」とともに 23 の番号がある。なお、ラベルの裏面に記載されていることが大部分の徳田の学名、番号、「Tok」の記載とは別に、表面に同じ筆跡で番号のみが記載されている標本がドブネズミでは散見される。表面の番号は裏面の番号とほぼ合致するが、裏面番号 (22) 【07825】の表面は「28」、(23) 【07868】の表面は「26」とあり合致しない、後述する (24) 【07871】では表面「18」、(26) 【07867】では表面「19」(図 15) とあり、これらも合致しない。これは、おそらく標本を確認しながら表面の番号を付与していたが、樺太産の標本を末尾にまとめるため、最終的に裏面の記載を書き直したのと考えられる。



図 15. 【07867】にある「19」

この2点の朱番号・印番号に対応する旧台帳3の採集年次は「大正 3.1.15」となっており、誤記がある。目録の1914年札幌産の記載とは矛盾はないが、(18)【07835】と同じく正確には現在の恵庭の標本になる。

(24) ドブネズミ【07871】(樺太, 1908年11月)

標本には24の番号がある。目録には樺太産の採集地として豊原と逢坂が挙げられているが、樺太のみの標本は記載されておらず、不審である。現行標本台帳では採集者「菅野氏 [=菅野省三]」の情報が欠落しており、追記する必要がある。

(25) ドブネズミ【48032】(樺太逢坂, 1910年7月13日, 村田)

標本には25の番号がある。目録の1910年樺太逢坂産の記載と矛盾はない。

(26) ドブネズミ【07867】(樺太豊原, 1908年11月)

標本には26の番号がある。付属情報も目録の1908年豊原産の記載と矛盾しない。ラベルの採集者名は判読しがたいが、(24)【07871】と同じ菅野省三採集標本と考えられる。「丈:14.8, 頭3.6, 耳:1.4, 尾11.6, 趾:3.3」の計測値があり、これは目録の15号標本に該当する。

(27) クマネズミ【07834】(雄, 樺太中野, 1910年7月15日, 村田)

(28) ドブネズミ【07830】(樺太中野, 1910年7月15日, 村田)

標本には27および28の番号があるが【07830】には「Tok」の記載はない。採集者村田によって「熊鼠」と同定された【07834】は徳田によってドブネズミと同定されているが、現在は付属する頭骨からクマネズミとして管理している。【07830】も村田による「熊鼠」の記載があるが、頭骨が付属していないこともあり、現時点ではドブネズミとして管理している。この2点の標本は1910年の樺太動物調査の採集標本であり、ラベル3に「樺太中野, 43年 [=1910] 7月15日」と明記されているにもかかわらず目録には対応するものがない。徳田は樺太産のドブネズミを意図して末尾にまとめていることから、この標本を対象から除外していたとは考えづらく、目録の記載に不備があるものと考えられる。

(29) ドブネズミ【07869】(樺太, 1910年7月13日, 村田)

標本には29の番号がある。現行標本台帳及び旧台帳3では採集地「樺太」のみであるが、前章で確認した採集者村田の調査旅程及びラベルに明記されている「逢坂」の情報により採集情報を追記する必要がある。目録の1910年樺太逢坂産の記載と矛盾しない。

徳田による番号をもつドブネズミ標本は以上のものである。目録の10号標本が確認できないこと、目録の採集地及び採集年次で示されている情報と合致しない例が多数確認された。一方で、確認した標本以外に、1932年以前にHUNHMに所蔵されていたことが想定される標本も多数存在する。この他、目録ではクマネズミについて触れられていないが、これらについても確認、紹介しておく。

(a) ドブネズミ【07790】(札幌, 15年2月)

この標本には朱番号・印番号がないが、旧台帳2に対応するラベル2に「85 號, ネズミ, 札幌, 十五年二月」とある。旧台帳2にも当該標本に合致する記載があるので、この標本は明治15 [=1882] 年2月に採集、HUNHMで管理されてきた標本であることは間違いない。本剥製でもあり、1932年当時に展示されていたなどの理由で徳田が利用できなかった可能性がある。

(b) ドブネズミ【07791】(札幌, 16年6月)

この標本にも朱番号・印番号を持つラベルは付属していない。ラベル2に「82 號, ネズミ, 札幌, 十■年六月」とあり、判読しがたい年次について現行標本台帳では「十六年」と読んでいる。しかし、旧台帳2の82号では「15 [=1882] 年6月」とあり、ラベル2は旧台帳2の整備とともに付与されていることから、この標本の採集年次は「1882年6月」と評価するべきである。この標本も目録に掲載されてしかるべきものであるが、これも本剥製であり、何らかの理由で掲載から漏れたものと考えられる。

(c) ドブネズミ【49863】(雄, 札幌, 1944年7月16日)

この標本のラベル4には、「No.48, Rattus norvegicus, young, 札幌, 村田, 昭 19.7.16」、裏面に計測値と「3690」の朱番号・印番号がある。ラベルの「昭」の字が明らかに修正されていること、村田の名前、印番号の存在から、この標本は昭和19 [=1944] 年の採集標本ではないと考えられる。旧台帳3の「3690」は「ダネズミ, 札幌, 明治 19.7.17」とあり、種名がトガリネズミに用

いられることの多い「ヂネズミ」であること、採集年月は【49863】に該当するものの日付が「17日」であることにやや問題があるが、【49863】の採集年次は1944年ではなく、1886 [= 明治19] 年であることは間違いない。この標本も目録に掲載されておかしくないが、目録には対応する情報はない。

(d) ドブネズミ【07877】(札幌, 1898年4月5日)

この標本のラベル3には「133」を修正した「134 號」と「家鼠, 札幌, 村田, 31年4月5日」の記載があり、朱番号・印番号は付属していない。旧台帳1の「134」の情報はラベルの情報と合致しており、徳田の利用以前から所蔵標本であったことは間違いない。旧台帳3には1898年4月5日の採集標本は登録されておらず、何らかの理由で1930年ごろは標本として管理されていなかった可能性が高いことから、徳田も利用できなかったものと推測される。

(e) ドブネズミ【49862】(札幌, 1908年3月)

この標本には「3647」の朱番号・印番号があり、台帳3の記載も付属ラベルの採集情報と合致する。付属するラベル3の断片にはエゾヤチネズミの検討で触れた1900年代初頭の標本に特徴的にみられる「347」の番号がある。エゾヤチネズミではこの番号を持つ標本が目録に掲載されているにもかかわらず、徳田がこの標本を利用しなかった理由は判然としない。

(f) ドブネズミ【07043】(札幌, 1909年3月25日)

この標本にはラベル2が付属するが、利用年代、記載方法が全く異なるため、後年に残部を利用したものと考えられる。旧台帳のいずれにもこの標本の記載はないが、採集情報として問題はない。徳田がこの標本を利用しなかった理由は判然としない。現行標本台帳ではラベルにある「雌」の情報が欠落しており、補記する必要がある。

(g) ドブネズミ【48040】(札幌, 1910年10月)

(h) ドブネズミ【48038】(長崎市, 1910年10月)

【48040】に付属するラベル4には「シチロウネズミ, 札幌, 43.10.」の記載と「3584」の印番号、【48038】に付属するラベル3の断片には「35 ■, 七郎鼠, 43.10. [40. ■を修正], 長崎市」の記載と「3584」の朱番号がある。旧台帳3の「3584」は採集地の記載はなく、採集日はどちらの標本にも該当する「明治43年10月」となっている。(8)【07832】の採集地が札幌を修正して長崎市としてあったこととあわせ、慎重に検討する必要があるが、現時点でこの混乱の理由は判然としない。

(i) ドブネズミ【07826】(雌, 札幌, 28年9月, 寛沢)

前章で検討したように、この標本は1912年9月2日に樺太寛沢で採集された標本である。付属する「札幌, 28.9」の記載に基づけば、目録の1895年札幌産の標本に該当させられる可能性もあるが、徳田による同定の記載がないこと、1895年札幌産の標本として(10)【07865】があることから、徳田が利用しなかったか、あるいは情報の混乱があるため掲載しなかったものと考えられる。

(j) ドブネズミ【49861】(雌, 1907年9月19日)

この標本に付属するラベル4には、学名と「♀, 明治40.9.19」の記載とともに抹消された「樺太中野, 43.7.15」の採集情報、「3643」の朱番号・印番号がある。旧台帳3の「3643」は「ネズミ」とのみあり、採集情報は記載されていない。旧台帳3の「3640」と「3641」(上述した【07834】と【07830】に対応)が樺太の採集情報(ただし抹消してある)を持ち、「3642」が採集地は欠くものの採集日は【49861】と同じ「明治40.9.19」である。台帳3の記載にも問題があるが、なぜこのようなラベルの情報修正が行われたのか、その理由を推測することも難しい。慎重に取り扱うべき標本情報である。

(k) ドブネズミ【48041】(1881年5月18日)

(l) ドブネズミ【48045】(1885年1月2日)

(m) ドブネズミ【48034】(1885年2月4日)

(n) ドブネズミ【48042】(1907年12月19日)

これらはいずれも目録刊行前の採集年次を持つ標本であるが、採集地情報が付属していないため、目録の対象とならなかったものと考えられる。ただし、注意しておく必要がある点として、(k) ~ (m)の1880年代の標本は旧台帳2に掲載されているべきものであるにもかかわらず、確認することができない。付属するラベルの特徴も、1880年代のHUNHM採集標本とは異なることから、古い標本が後世に寄贈されたか、採集情報に混乱がある可能性も念頭において利用する必要があるものである。

(o) クマネズミ【07792】(雄, 札幌, 1908 年 11 月 13 日)

【07792】に付属するラベルのうち「3568」の印番号と徳田の標本番号と推測される「3」の記載があるラベル 4 は、上述したように (3)【07793】に付属していたものである。ラベル 3 には「133 號, クマ鼠, 札幌, ♂, 41.11.13」とある。旧台帳 1 の「133 號」標本は 1898 年 4 月 5 日採集標本であり合致しないが、1910 年前後の採集標本には旧台帳 1 とは異なる番号が利用されるようになっており、管理が混乱しつつあった時期の標本と考えられる。徳田が利用しなかった理由は判然としない。

(p) クマネズミ【07045】(幼, 札幌, 1908 年 11 月 23 日)

標本ラベルにはクマネズミを示す「*Mus rattus*」の学名とドブネズミを示す「しちらうねずみ」という和名が併記されている。若齢個体であり明確に同定することが困難であり、現時点ではクマネズミとして管理している。この標本も徳田が利用しなかった理由は判然としない。

3-9. ハツカネズミ

目録では 17 点のハツカネズミが所蔵されていた。徳田の学名と番号記載がある標本を抽出した結果、7、11、13 が欠番となっている (表 2-g)。

(1) ハツカネズミ【08277】(雄, 札幌, 1908 年 12 月 8 日, 村田)

標本には 1 の番号がある。目録の 1908 年札幌産の記載と矛盾はない。

(2) ハツカネズミ【08290】(札幌, 採集年次なし)

(4) ハツカネズミ【08285】(札幌, 採集年次なし)

(6) ハツカネズミ【08283】(札幌, 採集年次なし)

(14) ハツカネズミ【08292】(札幌, 採集年次なし)

この 4 点の標本には、それぞれ 2、4、6、14 の番号がある。付属する朱番号・印番号 (【08290】は印番号欠) に基づく旧台帳 3 の情報も札幌とのみあり、採集年次の記載はない。【08285】はラベル 2 の断片、その他はラベル 3 の断片にそれぞれ「376」、「390」、「398」、「391」の番号があることから、1900 年から 1910 年ごろの採集標本ではないかと推測される。

(5) ハツカネズミ【08287】(札幌, 採集年次なし)

標本には 5 の番号がある。ラベル 3 の断片に「375」の番号があり、上述した採集年次不明の札幌産標本と同様の特徴を有する標本である。ただし、「3685」の朱番号・印番号に基づく旧台帳 3 の情報では「大 3.7.5」という採集年次の情報が得られる。目録には 1914 年の札幌産の標本の記載があるため、これに該当するようにも思われるが、ラベルの特徴から 1914 年ごろの採集標本とは考えづらいこと、(9)、(12) のように 1914 年採集標本は別に確認されることから、旧台帳 3 の記載に問題があるとも考えられ、判断が難しい。

(3) ハツカネズミ【08281】(札幌, 採集年次なし)

標本には 3 の番号がある。旧台帳 3 にも採集年次の記載はない。この標本にはラベル 3 が付属し「22 號」の番号があるが、これは旧台帳 2 の番号ではなく、旧台帳 1 が混乱し始めた 1900 年代初頭に付与された仮番号である。

これらの採集年次不明の札幌産標本については、目録の記載として「Sapporo (?)」が妥当だが、採集年次が判明している札幌産の他の標本が存在していることから、徳田はあえて記載しなかったものと推測される。いずれも 1900 年から 1910 年ごろの採集標本と推測されるが、本稿では採集年次の下限として目録刊行の 1932 年以前という情報を追記するにとどめる。

(8) ハツカネズミ【07041】(雄, 石狩札幌, 1907 年 9 月 8 日, 村田)

標本には 8 の番号がある。ラベルには「石狩札幌, 明治 40 年 9 月 18 日, ムラタ, ♂」とあり、「丈:132, 尾:63, 頭:25, 耳:11」の計測値もあるが、目録にはこの計測値を持つ標本の情報はない。ラベルの「丈」は頭胴長ではなく尾を含む全長だと考えられるが、徳田は頭胴長と理解し、ハツカネズミとしては外れ値であることから記載しなかったのかもしれないが判然としない。目録には 1907 年の札幌産と石狩産の記載があるが、現存する徳田の学名・番号のある標本の中には同年の石狩産の標本を見出すことができないので、徳田はこの標本を石狩産としたのかもしれない。

(9) ハツカネズミ【08279】(雌, 札幌, 1915 年 12 月)

標本には 9 の番号がある。目録の 1915 年札幌産の情報と矛盾しない。

(10) ハツカネズミ【08282】(札幌, 1908 年 12 月 24 日)

標本には 10 の番号がある。ラベル 3 に「28 号」とあり、(3)【08281】と類似する。ラベルには「丈:79, 尾:65, 頭:20, 耳:12, 趾:15」の計測値があり、これは目録の 7 号標本の計測値と合致する。目録の 1908 年札幌産標本の情報とも矛盾しない。

(12) ハツカネズミ【08286】(札幌博物館内, 1914 年 11 月 25 日)

標本には 12 の番号がある。ラベル 5 の採集地は「円山」を抹消して「博物館内」としてあり、旧台帳 3 においても「博物館内」となっている。ラベル 5 はエゾヤチネズミで触れた富本による円山採集標本で利用されていたものと共通で、採集日も同日である。富本採集標本に付与するために作製したラベルを誤って付与し、採集地を変更したとも考えられるが、その場合採集日の情報も誤っている可能性がないとはいえない。現状は付属ラベルの情報に基づき管理している。

(15) ハツカネズミ【08284】(採集地, 採集年次なし)

標本には 15 の番号がある。採集地情報の記載がないため、目録の掲載基準である北日本産ネズミ科標本とは位置づけられないが、徳田が番号を与えた理由は以下の 2 点にあると考えられる。第 1 点として、徳田の学名・番号が記載されているラベルの表面には「*Micromys geisha hokkaidi* Thos」とあり、北海道産のヒメネズミとして管理されてきたと徳田が判断した可能性、第 2 点として、ラベルの「3664」の朱番号・印番号に基づけば、旧台帳 3 の「ネズミ, 雄, 札幌, 明治 40.9.12」という情報が得られ、徳田が利用した段階では採集情報が付属していたという可能性である。旧台帳 3 の信頼性の低さから、安易に標本情報を追記することは躊躇されるが、参考情報として付記しておくべきものである。

(16) ハツカネズミ【08278】(雄, 札幌, 1915 年 12 月)

(17) ハツカネズミ【08280】(札幌, 1915 年 2 月 1 日)

標本には 16、17 の番号がある。採集情報に混乱はなく、目録の 1915 年札幌産標本とも矛盾しない。

(a) ハツカネズミ【08289】(雄, 札幌, 1907 年 10 月 20 日, 邨田)

標本には徳田の学名・番号記載は付属しない。ラベルに「札幌, 明治四十年十月 20 日[記載ママ], 邨田, ♂」と「長:50, 頭:16, 尾:51, 耳:9」という計測値がある。頭長を後足長と誤っていることには注意が必要であるが、頭骨が付属する仮剥製であることを考慮に入れると、目録の 11 号標本に該当するものと考えられる。標本の採集情報に基づいて旧台帳 3 を検索すると、「3678」の標本が「ハツカネズミ, ♂, 札幌, 明治 40.10.20」とあり合致する。現在この朱番号・印番号を持つ標本は確認されないことから、この標本には 1932 年当時朱番号・印番号のあるラベルが付属し、おそらくはそのラベルに徳田の学名・番号が記載されていたと考えられる。

(b) ハツカネズミ【08288】(雄, 札幌, 1914 年 10 月 27 日)

標本には徳田の学名、番号記載がない。「3676」の朱番号がラベルにあり、この印番号を持つ標本を検索すると、アカネズミ【08326】に付属するラベル 4 が確認される。このラベルには表面に記載はなく、裏面に「3676」の印番号と徳田が利用した標本にみられる番号のみの追記「11」がある。このラベルはおそらく【08288】に付属していたもので、徳田の番号 11 を持つ標本が確認できないことから、【08288】が徳田のハツカネズミの 11 であったと推測される。

(c) ハツカネズミ【08293】(雄, 札幌, 1914 年 10 月 27 日)

(b) と同じ採集情報を持つこの標本には、徳田の学名、番号及び朱番号・印番号がない。旧台帳 3 の情報から、おそらくは「3675」の印番号・朱番号のあるラベルが付属していたと思われるが、現存標本でそのラベルが付属しているものはないため、過去の状況を把握することができない。徳田の学名、番号のうち、7、11、13 の 3 点が欠落し、(a)、(b) がその欠落の 2 点に該当すると考えられることから、最後の 1 点はこの標本であると推測されるが、明確にはできない。

(d) ハツカネズミ【49787】(雄, 6 年 12 月 12 日)

(e) ハツカネズミ【49793】(雄, 1917 年 12 月 13 日)

(f) ハツカネズミ【49794】(雄, 1917 年 12 月 13 日)

(d) の「六年」は付属ラベルの類似から、明らかに「大正 6 [=1917] 年」であり、これら 3 点の標本は一連の採集標本群であるとみられる。いずれも目録刊行前の採集標本であるが、採集地の情報が欠落しているため、徳田は確認していたとしても目録には掲載しなかったものと判断される。

3-10. ナンキンネズミ

徳田が *Mus wagneri* var. *albula* として目録に掲載した本種については、計測値のある標本はなく、1885 年の札幌産の情報を徳田は示すのみである。

現存標本には、他種でみられた徳田による学名・番号記載のあるラベル情報は付属していないが、おそらくは以下に示す標本が目録の標本に該当するものと考えられる。

(a) ハツカネズミ【08291】(雌, 札幌, 1885 年 8 月 22 日)

この標本のラベル 2 には「84 號, 南京ネズミ, ♀, 札幌, 十八年八月廿二日」とある。胴部の白い個体で、畜養品種としてのハツカネズミであり、学名とも合致する。

小括

徳田による目録を利用して、1932 年以前に HUNHM に所蔵されていたと考えられるネズミ科標本の現状と付属情報の精査を実施した。この結果、(1) 徳田は標本調査の際に標本に付記した番号とは異なる番号を利用して目録に記載していたこと、(2) 採集年次が不明な標本に対して、目録では「Sibetu (?)」というように年次不明と記していたが、札幌産のように他に採集年次が明らかなものがある場合には年次不明標本が含まれるという表記をしていなかったこと、(3) 利用したと判断される標本の採集年次と目録に記載されている採集年次との間に少なからず齟齬があること、(4) 目録において計測値が記載されている標本とそれ以外の標本の違いは、標本ラベルに計測値が記載されているかどうかであって、徳田自身が直接計測したものではなかったことが確認された。一方、HUNHM 側でも (a) 複数の台帳の運用により、標本情報に混乱が生じていたこと、(b) ラベルの欠落だけでなく、本来付属していた標本とは異なる標本にラベルを付属させてしまっている例が確認されたことなど、現在に至る過程で多くの標本管理の問題が発生していることも確認された。

黒田 (1939)、犬飼 (1939)、太田 (1968) は徳田の目録を引用してミカドネズミ、ドブネズミ、ハツカネズミの採集記録を示していた。本稿による結果からは、黒田 (1939) が引用した 3 点のミカドネズミのうち 1 点の現存が確認されないのみで、その他の引用標本については現存している。しかし、太田 (1968) はドブネズミの標本のうち北海道内にある最も古い標本を 1884 年採集標本【07793】とするが、本稿で示したように Tokuda (1932) で引用されていない 1881 年採集標本【48041】、1882 年採集標本【07790】、【07791】が HUNHM に存在している。ここまで述べてきたように徳田の目録、HUNHM の標本情報には問題が含まれていることから、今後無批判に徳田の目録を引用することは避けるべきである。

ここで、徳田が利用した 1930 年ごろの標本管理の実態を把握するために、旧台帳 1、旧台帳 2、旧台帳 3 に登録されているネズミ科標本及び関連標本を抽出し、現存標本と照合した結果を表 4～6 に示す。

表 4 に示したように、現存標本に付属するラベルに記載されている番号と対応させられる旧台帳 1 掲載標本はクマネズミ【07792】とドブネズミ【07877】のみであるが、クマネズミ【07792】の採集日は台帳と異なっている。ミカドネズミ【08441】とエゾヤチネズミ【08445】はおそらく合致するものと考えられるが、【08411】は「ヂネズミ」という名称になっており採集日にも齟齬がある。後述するように旧台帳 2 では「ぢねづみ」はオオアシトガリネズミに対応しており、旧台帳 3 では「ヂネズミ」に対応する標本はエゾヤチネズミ、ドブネズミ、ヒミズ (伊豆産) であるので、厳密な同定が行われていなかったことが示唆される。また、ドブネズミ【07865】は旧台帳 1 の利用年代である 1895 年の採集であるにもかかわらず掲載されていないことなど、問題が多い。

表 5 に示した旧台帳 2 では、おそらく村田によってある程度分類しながら再整理が行われたため、おおよそ台帳の品名と現在の標本とが対応している。頭骨標本を中心に若干の消失が確認されるものの、1890 年ごろまでに管理されていた標本はほぼ現存している。

表 6 に示した旧台帳 3 においては、ネズミ科の標本であると推測される登録標本 162 点中 38 点の現存が確認できない。また、登録名称にも多数の混乱がみられる。現在エゾヤチネズミとして管理されている標本は、ヤマネズミ、ヂネズミ、ネズミ、ハツカネズミという名称で管理されていた。ミカドネズミはネズミ、ヤマネズミ、シロネズミ (アルビノ個体) として、アカネズミはアカネズミ、ネズミとして、ヒメネズミはネズミ、ハツカネズミとして、ドブネズミはネズミ、シチロウネズミだけでなく、本来キタリスの名称であるべきキネズミとして管理されていたものが 5 点、食虫類に利用されるべきヂネズミが 1 点など、名称の混乱がみられる。このほか、当時ネズミとして管理されていたにもかかわらず、イタチに当該印番号が付与されていたり、台湾産のリスがネズミとして管理されているなど、旧台帳 3 は適切な管理を行うための台帳とは評価しがたく、標本に付属しない情報を追加する際には注意が必要である。1930 年ごろの HUNHM では少なくとも哺乳類標本に対しては、適切な管理ができておらず、それゆえ徳田に依頼して同定したのだろうし、同時にすべての標本を徳田に示すことができなかったことも推測される。一方で、採集地の情報が欠落しているため、徳田の目録には掲載されていないが、朱番号・印番号が付属するネズミ科の標本も多数 HUNHM には所蔵されていた。これらは 1930 年代以前には博物館標本として管理されていたものと評価できることから、古い年代の標本を利用しようとする場合は、これらを利用することも可能である。

表 4 旧台帳 1 掲載ネズミ科関連標本一覧

配列 番号	類別 番号	品名	産地	採集年次	HUNHM 現存標本情報				備考
247	79	ヂネヅミ	石狩〔札幌〕	1888 年 8 月 15 日	【08441】*	ミカドネズミ	札幌	1888 年 8 月 25 日	ラベル番号は 86
1015	-	鼠	石狩円山村	1894 年 5 月 17 日	【08445】*	タイリクヤチネズミ	札幌	1894 年 5 月 17 日	ラベル番号は 121
1019	1349	地鼠	石狩	1894 年 5 月 20 日	-				
1451	125	ハツカネヅミ	石狩札幌	1896 年 12 月 5 日	-				
1494	131	茶色鼠	石狩札幌	-	-				
1606	133	鼠		1898 年 4 月 5 日	【07792】	クマネズミ	札幌	1908 年 11 月 13 日	採集年次混乱
1607	134	家鼠		1898 年 4 月 5 日	【07877】	ドブネズミ	札幌	1898 年 4 月 5 日	

表 5 旧台帳 2 掲載ネズミ科関連標本一覧

番号	品名	地名	採集年次	HUNHM 現存標本情報				備考
64	ちねづみ 鼻白鼯	石狩国札幌	1882 年	【08271】	オオアシトガリネズミ	札幌	1882 年	
65	ちねづみ 鼻白鼯	石狩国札幌	-	【08272】	オオアシトガリネズミ		-	
66	ちねづみ 頭骨	石狩国札幌郡円山村	1884 年 4 月 1 日	-				
81	いえねづみ	石狩国札幌	1884 年 4 月 7 日	【07793】*	ドブネズミ	札幌	1884 年	対応番号なし
82	いえねづみ	石狩国札幌	1882 年 6 月	【07791】	ドブネズミ	札幌	1883 年 6 月	
83	あかねづみ	石狩国千歳郡嶋松村	1882 年 9 月	-				
84	なんぎんねづみ	石狩国札幌	1885 年 8 月 22 日	【08291】	ハツカネズミ	札幌	1885 年 8 月 22 日	
85	いえねづみ	石狩国札幌	1882 年 2 月	【07790】	ドブネズミ	札幌	1882 年 2 月	
86	いえねづみ ?	石狩国札幌	1888 年 8 月 25 日	【08441】	ミカドネズミ (エゾヤチネズミ)	札幌	1888 年 8 月 25 日	
95	いえねづみ 頭骨	-	-	【11688】	ネズミ頭骨	-	-	

表 6 旧台帳 3 掲載ネズミ科関連標本一覧

台帳 番号	標本名	採集地	採集日	HUNHM 現存標本情報				備考
948	ヤマネズミ			【49468】	エゾヤチネズミ	-	-	
1036	ヤマネズミ			【49466】	エゾヤチネズミ	-	-	
1038	ヤマネズミ			【49469】	エゾヤチネズミ	-	-	
1041	ヤマネズミ			【06822】*	エゾヤチネズミ	-	-	'54 28/7 のラベルもあり
1086	ヤマネズミ			【49467】	エゾヤチネズミ	-	-	
3327	ネズミ			【07826】	ドブネズミ	樺太寶沢	1912 年 9 月 2 日	
3329	ヂネズミ			-				
3330	ネズミ			【08309】	ハントウアカネズミ	樺太北名好	1912 年 9 月 19 日	
3332	ヂネズミ			【08436】	エゾヤチネズミ	樺太樫保	1912 年 8 月 16 日	
3333	ネズミ			-				
3564	ネズミ			【49955】	プレーリードッグ	Texas	1989 年 12 月 23 日	
3565	ネズミ		1909 年 4 月 28 日	【69412】	ダウリアハタリス	吉林省范家屯	1908 年 8 月 28 日	
3566	ネズミ			【69414】	ダウリアハタリス	-	-	
3567	ネズミ		1909 年 4 月 28 日	【69413】	ダウリアハタリス	-	1908 年 8 月 28 日	
3568	キネズミ	札幌	1884 年	【07793】	ドブネズミ	札幌	1884 年	
3569	キネズミ			【48036】	ドブネズミ	-	-	
3570	キネズミ			【48046】	ドブネズミ	-	-	
3571	キネズミ	札幌	1915 年 1 月 2 日 /1920 年 1 月 2 日	【07873】	ドブネズミ	札幌	1915 年 1 月 2 日	
3572	キネズミ			【48037】	ドブネズミ	-	-	
3573	キネズミ			【48047】	ドブネズミ	-	-	
3574	キネヅミ			【48043】	ドブネズミ	-	-	
3575	キネズミ	札幌	1908 年 1 月 5 日	【07875】	ドブネズミ	札幌	1908 年 1 月 5 日	
3576	クマネズミ	札幌		【07836】	ドブネズミ	札幌	1909 年 10 月 24 日	
3577	ネズミ			【07828】	ドブネズミ	札幌	1914 年 11 月 11 日	
3578	ネズミ	札幌		【07866】	ドブネズミ	札幌	-	
3579	ネズミ	札幌		-				
3580	ネズミ	札幌	1895 年 9 月	【07865】	ドブネズミ	札幌	1895 年 9 月	
3581	ネズミ	札幌	1907 年 12 月	【07042】	ドブネズミ	札幌丘珠	1907 年 12 月	
3582	ネズミ	札幌	1907 年 12 月	【07831】	ドブネズミ	札幌	1907 年 12 月	
3583	シチロウネズミ	札幌	1910 年 10 月	【07832】	ドブネズミ	札幌	1910 年 10 月	
3584	シチロウネズミ		1910 年 10 月	【48040】/ 【48038】	ドブネズミ	札幌*	1910 年 10 月	【48038】は長崎市
3585	ネズミ	札幌		【07863】	ドブネズミ	札幌	-	
3586	ネズミ	札幌		【07851】	ドブネズミ	札幌	-	
3587	ネズミ			【48035】	ドブネズミ	-	-	
3588	ネズミ	札幌	1888 年 8 月 25 日	【08441】	ミカドネズミ /エゾヤチネズミ	札幌	1888 年 8 月 25 日	
3589	ネズミ	札幌	1894 年 5 月 17 日	【08445】	エゾヤチネズミ	札幌	1894 年 5 月 17 日	
3590	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	【08431】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	
3591	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	【06821】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	
3592	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	【08444】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日	

3593	ネズミ			【08426】	エゾヤチネズミ	-	1908 年
3594	ネズミ			-			
3595	ネズミ			【49471】	エゾヤチネズミ	-	-
3596	ヤマネズミ	札幌	1907 年 9 月 23 日	【49472】	エゾヤチネズミ	札幌	1907 年 9 月 30 日
3597	ヤマネズミ	札幌		【08434】	エゾヤチネズミ	札幌	-
3598	ヤマネズミ	茨城県那珂郡		-			
3599	ヤマネズミ	士別		【08439】	エゾヤチネズミ	上川士別	-
3600	ヤマネズミ	士別		-			
3601	ヤマネズミ			【49470】	エゾヤチネズミ	-	-
3602	ヤマネズミ	札幌		【08437】	エゾヤチネズミ	札幌	-
3603	ヤマネズミ	茨城県那珂郡		【49752】	ハタネズミ	茨城県那珂郡	-
3604	ヤマネズミ	茨城県那珂郡		【49753】	ハタネズミ	茨城県那珂郡	-
3605	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	【08433】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日
3606	ヤマネズミ	札幌		【08443】	エゾヤチネズミ	札幌	-
3607	ヤマネズミ	茨城県那珂郡		-			
3608	ヤマネズミ			【08427】	エゾヤチネズミ	-	-
3609	ヤマネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日	-			
3610	ヤマネズミ	函館附近	1908 年 4 月 3 日	【08432】	ミカドネズミ	函館附近	1908 年
3611	ヤマネズミ	札幌	1911 年 5 月 10 日	【08442】	エゾヤチネズミ	札幌北海道大学第一農場	1911 年 5 月 10 日
3612	ヤマネズミ			【08428】	エゾヤチネズミ	函館	1907 年 7 月 17 日
3613	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	-			
3614	ヤマネズミ	円山	1914 年 11 月 25 日	【08440】	エゾヤチネズミ	札幌円山	1914 年 11 月 25 日
3615	シロネズミ（野生）	礼文	1908 年 9 月 27 日	【08017】	ミカドネズミ (アルビノ)	礼文島	1908 年 9 月 27 日
3616	ネズミ	樺太	1898 年 11 月	【07871】	ドブネズミ	樺太	1898 年 11 月
3617	ネズミ		1881 年 5 月 18 日	【48041】	ドブネズミ	-	1881 年 5 月 18 日
3618	ネズミ			【48039】	ドブネズミ	-	-
3619	ネズミ		1907 年 12 月 19 日	【48042】	ドブネズミ	-	1907 年 12 月 19 日
3620	ネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月	【07867】	ドブネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月
3621	シチロウネズミ	樺太	1910 年 7 月 13 日	【48032】	ドブネズミ	樺太逢坂	1910 年 7 月 13 日
3622	ネズミ			【48048】	ドブネズミ	-	-
3623	シチロウネズミ			-			
3624	ネズミ	札幌	1909 年 3 月 20 日	【08724】	ドブネズミ	札幌	1909 年 3 月 20 日
3625	ネズミ	石狩札幌	1909 年 3 月 20 日	【07874】	ドブネズミ	札幌	1909 年 3 月 20 日
3626	ネズミ			【48034】	ドブネズミ	-	1885 年 2 月 4 日
3627	ネズミ		1885 年 2 月 4 日	【48045】	ドブネズミ	-	1885 年 1 月 2 日
3628	クマネズミ	札幌	1909 年 7 月 4 日	【07833】	クマネズミ	札幌	1909 年 7 月 4 日
3629	ネズミ	札幌	1909 年 3 月 25 日	【07829】	ドブネズミ	札幌	1909 年 3 月 25 日
3630	ヤマネズミ		1914 年 1 月 15 日	【07825】	ドブネズミ	伊座里村字檜二葉	1914 年 9 月 15 日
3631	ヤマネズミ		1914 年 1 月 15 日	【07868】	ドブネズミ	伊座里村字檜二葉	1914 年 9 月 15 日
3632	ヤマネズミ	札幌	1914 年 9 月 20 日	【07835】	ドブネズミ	札幌郡伊座里村字檜二葉	1914 年 9 月 20 日
3633	ネズミ		1914 年 11 月 9 日	【07872】	ドブネズミ	札幌博物館内	1914 年 11 月 9 日
3634	シチロウネズミ	樺太	1910 年 7 月 13 日	【07869】	ドブネズミ	樺太 [逢坂]	1910 年 7 月 13 日
3635	アカネズミ	千歳	1882 年 9 月	-			
3640	クマネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日	【07830】	ドブネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日
3641	クマネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日	【07834】	ドブネズミ	樺太中野	1910 年 7 月 15 日
3642	ネズミ		1907 年 9 月 19 日	【07827】	ドブネズミ	札幌	1907 年 9 月 19 日
3643	ネズミ			【49861】	ドブネズミ	-	1907 年 9 月 19 日
3644	ネズミ			-			
3645	ネズミ			-			
3646	ネズミ		1921 年 9 月 7 日	【48044】	ドブネズミ	-	109.7. [記載ママ]
3647	ネズミ	札幌	1908 年 3 月	【49862】	ドブネズミ	札幌	1908 年 3 月
3648	アカネズミ	漁川上流	1920 年 7 月 13 日	【49241】	アカネズミ	漁川上流 / 定山溪	1914 年 7 月 19 日 /1914 年 4 月 5 日
3649	ネズミ	上川郡士別		【08328】	アカネズミ	上川郡士別	-
3650	アカネズミ	漁川上流		【08329】	アカネズミ	漁川上流	1914 年 7 月 9 日
3651	ネズミ	石狩軽川原野	1908 年 3 月 10 日	【08316】	アカネズミ	石狩軽川原野	1908 年 3 月 10 日
3652	アカネズミ	漁川上流	1920 年 7 月 30 日	【48031】	アカネズミ	漁川上流	1914 年 7 月 9 日
3653	ネズミ			-			
3654	ネズミ	石狩軽川	1890 年 10 月 13 日	【08300】	ハントウアカネズミ	石狩軽川	1910 年 10 月 23 日
3655	ネズミ	定山溪	1914 年 4 月 5 日	【08311】	ヒメネズミ	定山溪	1914 年 4 月 5 日
3656	ネズミ		1909 年 4 月 28 日	【07035】	ヒメネズミ	函館湯の川	1908 年 11 月 8 日
3657	ネズミ	国後		【08327】	ヒメネズミ	国後島乳呑路	1907 年 10 月 7 日
3658	ネズミ	札幌	1915 年 12 月	【08278】	ハツカネズミ	札幌	1915 年 12 月
3659	ネズミ			-			
3660	ネズミ			【48030】	アカネズミ	伊豆	1908 年 11 月 9 日
3661	ネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月	【08317】	ハントウアカネズミ	樺太豊原	1908 年 11 月
3662	ネズミ			-			
3663	ネズミ	札幌	1907 年 11 月 1 日	-			
3664	ネズミ	札幌	1907 年 9 月 12 日	【08284】	ハツカネズミ	-	-
3666	ハツカネズミ	札幌		-			

3667	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 24 日	【08282】	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 24 日	
3668	ハツカネズミ	伊豆		-				
3669	ハツカネズミ	石狩札幌	1907 年 9 月 18 日	【07041】	ハツカネズミ	札幌	1907 年 9 月 8 日	
3670	ハツカネズミ		1917 年 12 月 13 日	【49793】	ハツカネズミ	-	1917 年 12 月 13 日	
3671	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 8 日	【08277】	ハツカネズミ	札幌	1908 年 12 月 8 日	
3672	ハツカネズミ			【49795】	ハツカネズミ	-		
3673	ハツカネズミ	札幌	1917 年 12 月 12 日	-				
3674	ハツカネズミ	札幌 *		【08281】	ハツカネズミ	札幌	-	* 台帳記載抹消
3675	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	-				
3676	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	【08288】	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	
3677	ハツカネズミ	札幌		【08283】	ハツカネズミ	札幌	-	
3678	ハツカネズミ	札幌	1907 年 10 月 20 日	-	-	-	-	
3679	ハツカネズミ	札幌		【08290】	ハツカネズミ	札幌	-	
3680	ハツカネズミ			【49144】	ヒメネズミ	-	-	
3681	ハツカネズミ			【49792】	ハツカネズミ	-	-	
3682	ハツカネズミ	札幌		【08292】	ハツカネズミ	札幌	-	
3683	ハツカネズミ		1917 年 12 月 13 日	【49794】	ハツカネズミ	-	1917 年 12 月 13 日	
3684	ハツカネズミ			【49791】	ハツカネズミ	-	-	
3685	ハツカネズミ	札幌	1914 年 7 月 5 日	【08287】	ハツカネズミ	札幌	-	
3686	ハツカネズミ	札幌	1907 年 9 月 14 日	-				
3687	ハツカネズミ	函館方面	1908 年	【08312】	ヒメネズミ	函館地方	1908 年	
3688	ハツカネズミ			-	-			KUZ に保管
3689	ハツカネズミ		1909 年 4 月 28 日	【08314】	ヒメネズミ	-	-	
3690	ヂネズミ	札幌	1886 年 7 月 17 日	【49863】	ドブネズミ	札幌	1886 年 7 月 16 日	
3691	ハツカネズミ	札幌	1915 年 12 月	【08279】	ハツカネズミ	札幌	1915 年 12 月	
3692	フクショクノネズミ			【08307】	ヒメネズミ	函館	1907 年 7 月 27 日	
3693	ハツカネズミ		1909 年 4 月 28 日	【69397】	タイリクヤチネズミ	吉林省范家屯	1908 年 8 月 31 日	
3694	ハツカネズミ	函館附近	1909 年 4 月 28 日	【08313】	ヒメネズミ	函館附近	1908 年	
3695	ハツカネズミ			【49788】	ハツカネズミ	-	-	
3696	ハツカネズミ	札幌		【08285】	ハツカネズミ	札幌	-	
3697	ハツカネズミ	博物館内	1914 年 11 月 25 日	【08286】	ハツカネズミ	札幌博物館内	1914 年 11 月 25 日	
3698	ハツカネズミ	札幌	1914 年 10 月 27 日	-	-	-		
3699	ハツカネズミ	札幌	1907 年 9 月 8 日	【49490】	エゾヤチネズミ	札幌	1907 年 9 月 8 日	
3700	ハツカネズミ	札幌		【08343】	エゾヤチネズミ	札幌	-	
3701	ハツカネズミ		1909 年 4 月 28 日	【69399】	タイリクヤチネズミ	吉林省范家屯	1908 年 9 月 17 日	
3702	ハツカネズミ	札幌		【08438】	エゾヤチネズミ	札幌	-	
3703	ハツカネズミ	札幌	1913 年 7 月 20 日	-	-			
3704	ハツカネズミ	札幌	1915 年 2 月 1 日	【08280】	ハツカネズミ	札幌	1915 年 2 月 1 日	
3705	ヂネズミ	札幌		-				
3706	ヂネズミ	樺太名寄		-				
3707	ヂネズミ	札幌		-				
3708	ヂネズミ			-				
3709	ヂネズミ	札幌		-				
3710	ヂネズミ	雁来村	1909 年 9 月 12 日	-				
3711	ヂネズミ			-				
3712	ヂネズミ	札幌		-				
3715	ヂネズミ	札幌		-				
3716	ヂネズミ			-				
3718	ヂネズミ	伊豆	1913 年 2 月 4 日 *	【07784】	ヒミズ	伊豆	1908 年 11 月 11 日	*1913 年 3 月 4 日受入
3719	ヂネズミ	士別		-				
3720	ヂネズミ			-				
3778	ネズミ	八雲村	1909 年 5 月 17 日	【08004】	ニホンイタチ	八雲村	1909 年 5 月 17 日	
3784	ヂネズミ	札幌	1904 年 5 月 20 日	-				
3789	ネズミ		1909 年 2 月 7 日	【07946】	台湾産リス	台湾	1909 年 2 月 17 日	

3. 徳田目録関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ : Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM06821	3	-	札幌円山	1914.11.25	富本	-	
HUNHM07037	3	female	クリル諸島ナサウキパラムシル (50Feet) → [北千島幌筵島ナサウキ 50feet]	1928.05.12	- → [折居彪二郎]	- 2	Type of <i>Clethrionomys rufocanus</i> <i>kurilensis</i> (Tokuda 1932)
HUNHM08343	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08345	1	male	札幌	1908.04.24	-	-	
HUNHM08426	1	male	-	1908.00.00	- → [折居彪二郎]	- 9	
HUNHM08427	1	-	-	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08428	1	female	函館 700feet	1907.07.17	- → [折居彪二郎]	- 115	Tokuda (1932) -8
HUNHM08431	3	female	札幌円山	1914.11.25	富本	-	
HUNHM08433	3	-	札幌円山	1914.11.25	富本	-	
HUNHM08434	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08435	1	male	函館久根別	1907.10.26	- → [折居彪二郎]	- 186	Tokuda (1932) -10
HUNHM08437	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08438	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08439	3	-	上川士別	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08440	3	-	札幌円山	1914.11.25	富本	-	
HUNHM08442	3	female	札幌 → [札幌北海道大学第一農場]	1911.05.10	-	-	
HUNHM08443	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08444	3	-	札幌円山	1914.11.25	富本	-	
HUNHM08445	1	-	札幌 → [札幌円山カ]	27.5.17 → [1894.05.17]	-	-	
HUNHM49472	1	female	札幌	1907.09.30	-	-	Tokuda (1932) -9
HUNHM49490	1	-	札幌	1907.09.08	-	-	
HUNHM69416	1	male	久根別	1908.12.03	折居彪二郎	- 44	→ [HUNHM32834 の Skin カ]
HUNHM32834	2	-	- → [male カ] → [久根別カ]	- → [1908.12.03 カ] → [折居彪二郎カ]	-	44	→ [HUNHM69416 の Skull カ]

<i>Myodes rutilus</i>		ヒメヤチネズミ : Northern Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08017	1	-	礼文島	1908.09.27	礼文小学校	-	アルビノ 採集日は受入日
HUNHM08432	1	female	函館付近	1908.00.00 → [1908.04.03 カ] → [折居彪二郎]	-	38	→ [HUNHM11687 の Skin カ]
HUNHM11687	2					39	
			→ [female カ] → [函館付近カ]	→ [1908.04.03 カ] → [折居彪二郎カ]			→ [HUNHM08432 の Skull カ]
HUNHM08441	1	-	札幌	21.8.25 → [1888.08.25]	-	-	タイリクヤチネズミ → [ヒメヤチネズミ]

<i>Microtus oeconomus</i>		ツンドラハタネズミ : Root Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM69395	1	female	北千島幌筵ナサウキ 50feet	1928.06.04	折居彪二郎	23	

Apodemus argenteus

ヒメネズミ：Small Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07035	1	female	函館湯の川	1908.11.08	折居彪二郎	-	
						18	Tokuda (1932) -7
HUNHM08306	3	-	銭函山	1930.02.23	犬飼哲夫	-	
							Tokuda (1932) -1
HUNHM08307	3	-	函館	1907.07.27	折居彪二郎	-	
HUNHM08311	3	male	定山溪	3.4.5 → [1914.04.05]	鎌田	-	
							Tokuda (1932) -2
HUNHM08312	3	male	函館地方	1908.00.00	- → [折居彪二郎]	-	
HUNHM08313	3	male	函館地方	- → [1908.00.00]	- → [折居彪二郎]	-	
HUNHM08314	3	-	-	-	- → [折居彪二郎カ]	-	
							→ [1909.04.28 受入カ]

Apodemus peninsulae

ハントウアカネズミ：Korean Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08300	3	-	石狩軽川	1910.10.23	村田 → [村田庄次郎]	-	
							Tokuda (1932) はアカネズミ
HUNHM08309	3	-	樺太北名好	0000.09.15 → [1912.09.19]	- → [村田庄次郎]	- 167	
							Tokuda (1932) はヒメネズミ
HUNHM08317	3	-	樺太豊原	1908.11.00	菅野省三	-	
							Tokuda (1932) -1

Apodemus speciosus

アカネズミ：Large Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08316	1	male	石狩軽川原野	1908.03.10	-	-	
HUNHM08327	1	female	千島国後島乳呑路	1907.10.07	折居彪二郎	-	
						77_1/2	→ [HUNHM11745 の Skin カ] /Tokuda (1932) -2
HUNHM11745	2	- → [female カ]	- → [千島国後島乳呑路カ]	- → [1907.10.07 カ]	折居彪二郎	- 77_1/2	
							→ [HUNHM08327 の Skull カ]
HUNHM08328	3	-	上川郡士別	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08329	3	-	漁川上流	3.7.9 → [1914.07.09]	鎌田	-	
HUNHM43329	1	male	函館 600feet	1907.07.27	折居彪二郎	-	
						136	→ [HUNHM32835 の Skin カ]
HUNHM32835	2	- → [male カ]	- → [函館 600feet カ]	- → [1907.07.27 カ]	- → [折居彪二郎]	- 136	
							→ [HUNHM43329 の Skull カ]
HUNHM48031	1	male	漁川上流	9.7.31 → [1914.07.09]	カマダ	-	
HUNHM49241	3	female	漁川上流 / 定山溪	9.7.3 / 5.IX.3 → [1914.00.00]	カマダ	-	
							採集情報混乱有

Mus musculus

ハツカネズミ：House Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07041	1	male	石狩札幌	1907.09.08	村田→ [村田庄次郎]	-	
HUNHM08277	3	male	札幌	1908.12.08	村田→ [村田庄次郎]	-	
HUNHM08278	3	male	札幌	1915.12.00	-	-	
HUNHM08279	3	female	札幌	1915.12.00	-	-	
HUNHM08280	1	-	札幌	1915.02.01	-	-	
HUNHM08281	3	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08282	1	-	札幌	1908.12.24	-	-	
							Tokuda (1932) -7
HUNHM08283	1	-	札幌	- → [1932 以前]	-	-	
HUNHM08284	1	-	- → [札幌カ]	- → [1907.09.12 カ]	-	-	

HUNHM08285	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]			
HUNHM08286	3	-	札幌博物館内	1914.11.25	-	-	採集年次混乱可能性有
HUNHM08287	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]			→ [1914.07.05 の可能性有]
HUNHM08288	1	male	札幌	1914.10.27	-	-	
HUNHM08289	3	male	札幌	1907.10.20	郷田	-	
				→ [村田庄次郎]		15	Tokuda (1932) -11
HUNHM08290	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]			
HUNHM08291	1	female	札幌	1885.08.22	-	-	Tokuda (1932) は <i>Mus wagneri</i> var. <i>albula</i>
HUNHM08292	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]			
HUNHM08293	1	male	札幌	1914.10.27	-	-	
HUNHM49787	1	male	札幌	6.12.12	-	-	
				→ [1917.12.12]			
HUNHM49793	3	male	-	1917.12.13	-	-	
HUNHM49794	3	male	-	1917.12.13	-	-	

Rattus norvegicus**ドブネズミ : Brown Rat**

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07042	3	-	札幌 → [札幌丘珠]	1907.12.00	-	-	
HUNHM07043	1	- → female	札幌	1909.03.21	-	-	
HUNHM07790	1	-	札幌	15.2. → [1882.02.00]	-	-	
HUNHM07791	1	-	札幌	16.6. → [1882.06.00]	-	-	
HUNHM07793	1	-	札幌	1884.00.00 → [1884.04.07 力]	-	-	
HUNHM07824	1	female	札幌	42.3.20 → [1909.03.20]	-	-	Tokuda (1932) -9
HUNHM07825	3	male	札幌郡伊座里村字檜二葉	1914.09.15	-	-	
HUNHM07826	1	female	札幌 → [樺太資沢]	28.9 → [1912.09.02]	-	-	
					→ [村田庄次郎]	118	
HUNHM07827	1	female	札幌	1907.09.19	-	-	
HUNHM07828	1	-	札幌	1914.11.11	-	-	
				→ Y.T.		No.6	
HUNHM07829	1	male	札幌	42.3.25 → [1909.03.25]	-	-	
HUNHM07830	1	-	樺太中野	1910.07.15	村田→ [村田庄次郎]	-	
HUNHM07831	3	-	札幌	40.12 → [1907.12.00]	-	-	
						389	
HUNHM07832	3	-	札幌	43.10. → [1910.10.00]	-	-	
						349	
HUNHM07833	3	female	札幌	1909.07.04	村田 → [村田庄次郎]	- 43	クマネズミ → [ドブネズミ]
HUNHM07835	3	male	札幌イザリ村檜二葉 → [札幌郡伊座里村字檜二葉]	1914.09.20	-	-	
HUNHM07836	3	- → male	札幌	42.10.24 → [1909.10.24]	-	-	
HUNHM07851	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]		388	
HUNHM07863	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]		387	
HUNHM07865	3	-	札幌	-	-	-	
				→ 1895.09.00		343	
HUNHM07866	3	-	札幌	-	-	-	
				→ [1932 以前]			
HUNHM07867	1	-	樺太豊原	1908.11.00	-	-	
				→ 菅野省三			Tokuda (1932) -15

HUNHM07868	3	female	札幌郡伊座里村字檜二葉	1914.09.05	-	-	
HUNHM07869	1	-	樺太 → 樺太逢坂	1910.07.13	村田 → [村田庄次郎]	-	
HUNHM07871	1	-	樺太	1908.11.00	- → 菅野省三	-	
HUNHM07872	3	male	札幌博物館内	1914.11.09	-	-	
HUNHM07873	3	male	札幌	1915.01.02	-	-	
HUNHM07874	1	male	石狩札幌	42.3.20 → [1909.03.20]	-	-	Tokuda (1932) -24
HUNHM07875	3	male	札幌	1908.01.05	村田 → [村田庄次郎]	- 19	
HUNHM07877	1	-	札幌	1898.04.05	村田→ [村田庄次郎]	-	
HUNHM48032	1	-	樺太逢坂	1910.07.13	村田→ [村田庄次郎]	-	
HUNHM48034	1	-	-	1885.02.04	-	-	
HUNHM48038	3	-	長崎市	1910.10.00	-	-	採集情報混乱可能性有
HUNHM48040	1	-	札幌	1910.10.00	-	-	採集情報混乱可能性有
HUNHM48041	3	female	-	1881.05.18	-	-	
HUNHM48042	3	male	-	1907.12.19	-	-	
HUNHM48045	1	female	-	1885.01.12	-	-	
HUNHM49861	1	female	-	1907.09.19	-	-	
HUNHM49862	3	-	札幌	1908.03.00	-	- 347	
HUNHM49863	1	male	札幌	1944.07.16 → [1886.07.16]	村田 → [村田庄次郎]	-	

Rattus rattus**クマネズミ：Roof Rat**

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07045	3	juv	札幌	1908.11.23	-	-	
HUNHM07792	1	male	札幌	41.11.13 → [1908.11.13]	-	-	
HUNHM07834	3	male	樺太中野	1910.07.15	村田 → [村田庄次郎]	-	Tokuda (1932) はドブネズミ

4. 太田嘉四夫らによる札幌の住家性ネズミ調査 (1946 年 -1950 年)

太田嘉四夫らは、1946 年から 50 年にかけて札幌市内の住家性ネズミの調査を実施した。この結果を示す太田ら (1949)、太田・長谷川 (1950)、太田 (1951, 1952, 1968) から、各調査年における採集情報をまとめると、表 7 のようになる。なお、調査 4 では、8 点のドブネズミの毛色変異個体 (太田・牧野 1950) とヒメネズミ 2 点、エゾヤチネズミ 16 点、ミカドネズミ 8 点を採集している。

HUNHM 所蔵標本、特に太田の標本が多く含まれる旧動物学研究室標本には、これらの調査で採集したことが明記されているものはない。また、太田・牧野 (1950) の毛色変異 8 個体と太田 (1951) の 20 個体については採集年月日が明記されているが、その情報に合致する標本を確認することもできない。ここでは、当該時期に採集された記録のある標本について検討することとする。

表 7 太田嘉四夫らによる住家性ネズミ調査一覧

	調査年次	調査主体	クマネズミ	ドブネズミ	ハツカネズミ	その他 (頭)
1	1946 年 2 月 -1946 年 11 月	長谷川	97	262		
2	1946 年 11 月 -1947 年 3 月	札幌市・太田	2462	906	8	
3	1947 年 11 月 -1948 年 3 月	札幌市	5301	1868		
4	1948 年 11 月 -1949 年 4 月	太田	5723	4256	265	107
5	1948 年 -1949 年	太田	97	195		27
6	1949 年 6 月 18 日 -1949 年 8 月 12 日	太田	64	102		
7	1950 年 6 月 -1950 年 12 月	太田	57	107	3	

[ドブネズミ]

対象期間前後に採集されたドブネズミ標本は、仮剥製 3 点及び頭骨 4 点である。仮剥製【49847】は 1949 年 3 月 29 日札幌採集の雄個体であり、【49846】は 1949 年札幌採集の個体である。【49848】は 1951 年 9 月 15 日に札幌北 10 東 3 の路上で採集されたアルビノ個体である。調査年次範囲外の標本であるが、太田・牧野 (1950) 以降も太田がドブネズミ毛色変異に関心を寄せていたことをうかがわせる。

頭骨は 1948 年札幌採集の【49899】及び【49900】の 2 個体と、1949 年札幌採集の【49894】及び【49895】の 2 個体である。後者 2 点が保存されていたフィルムケースには「Silver」の注記があり、毛色変異個体であることを示しているが、太田・牧野 (1950) で言及されている「銀毛色」個体の採集日は 1948 年 11 月 27 日であり合致しない。

[クマネズミ]

対象期間に採集されたという情報を持つクマネズミは確認できない。

[ハツカネズミ]

対象期間中に採集されたハツカネズミは仮剥製 4 点である。1948 年 12 月 1 日札幌産の 2 個体【49796】及び【49797】と 1949 年 3 月札幌採集の 2 個体【49798】及び【49799】である。おそらく表 7 の調査 4 で採集されたハツカネズミ 265 点の一部と推測されるが、詳細は明らかにならない。

[ヒメネズミ]

太田 (1952) では調査 4 において 2 点のヒメネズミを採集したことを報告している。当該時期に採集されたヒメネズミは【49133】及び【49134】である。これはいずれも 1948 年 12 月 29 日に「札幌西区 (桑園)」で採集されたという情報がある。太田 (1952) は札幌を東地区、西地区、河東地区に区分して、その分布を調査しており、桑園は札幌西地区に該当する。太田 (1952) は野ネズミは「主に 11 月に市の外周地帯」で採集されたとしており、地域としても該当することからこの 2 点は言及された個体であると判断されるが、採集日を「主に 11 月」とする点との相違に注意が必要である。

なお、仮剥製・頭骨【49135】、仮剥製【49136】、頭骨【49198】は 1949 年 12 月 1 日に採集されたもので、「札幌 North East」という情報を持つ。この採集日は、太田による報告の調査時期に合致しないが、札幌市域を区分して調査していること、住家性ネズミ調査は 1950 年まで継続していることから、当該期の調査に関わる標本であると推測される。【49136】と【49198】は一個体である可能性もあるが、断定するには情報が不足している。

[エゾヤチネズミ]

頭骨【49644】は 1948 年に札幌で採集されたという情報がある。1950 年に札幌で採集された 5 点の仮剥製【49456】、【49457】、【49461】、【49462】、【49463】(うち【49457】は 1950 年 4 月 13 日) については、太田による報告の採集年次とは合致しない。一連の調査で採集されたものである可能性が高いが、太田 (1952) で言及された 16 点のエゾヤチネズミではない。

〔ミカドネズミ〕

調査4において太田(1952)は8点のミカドネズミを採集している。1948年に札幌で採集された2点の頭骨標本【49298】、【49299】が確認される。このうち【49299】には「S2」の注記がある。札幌採集であるが、採集年次の情報が欠落しているミカドネズミ頭骨【49300】、【49301】、【49302】にはそれぞれ「S3」,「S4」,「S5」の注記があり、【49299】と一連の採集標本である可能性があり、これらも1948年の採集標本であると評価することもできるが、断言するには情報が乏しい。

この他、1950年に札幌で採集された仮剥製【49288】、【49289】と1951年に札幌で採集された頭骨【49303】がある。

ここにあげたもの以外にも札幌で採集されたドブネズミ、クマネズミ、ハツカネズミ、エゾヤチネズミ、ミカドネズミは所蔵されているが、採集年次や注記から太田による一連の研究で利用された時期に採集されたものであるかどうかを明確にすることはできないため、ここでは割愛することとする。

4. 太田嘉四夫による住家性ネズミ調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ : Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49456	1	-	札幌	1950.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49457	1	male	札幌	1950.04.13	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49461	1	-	札幌	1950.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49462	1	-	札幌	1950.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49463	1	-	札幌	1950.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49644	2	-	札幌	1948.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]		

<i>Myodes rutilus</i>		ヒメヤチネズミ : Northern Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49288	1	-	札幌	1950.00.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49289	1	-	札幌	1950.00.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49298	2	-	札幌	1948.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49299	2	-	札幌	1948.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	S-2	
HUNHM49300	2	-	札幌	- → [1948.00.00 カ] → [太田嘉四夫]	K.O. → [太田嘉四夫]	- S-3	
HUNHM49301	2	-	札幌	- → [1948.00.00 カ] → [太田嘉四夫]	K.O. → [太田嘉四夫]	- S-4	
HUNHM49302	2	-	札幌	- → [1948.00.00 カ] → [太田嘉四夫]	K.O. → [太田嘉四夫]	- S-5	
HUNHM49303	2	-	札幌	1951.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	-	

<i>Apodemus argenteus</i>		ヒメネズミ : Small Japanese Field Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49133	1	-	札幌西地区 (桑園)	1948.12.29	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49134	1	female	札幌西地区 (桑園)	1948.12.29	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49135	3	male	札幌 N.E.	1949.12.01	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49136	1	-	札幌 N.E.	1949.12.01	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49198	2	-	札幌 N.E.	1949.12.01	K.O. → [太田嘉四夫]		

<i>Mus musculus</i>		ハツカネズミ : House Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49796	1	-	札幌	1948.12.01	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49797	1	-	札幌	1948.12.01	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49798	1	male	札幌	1949.03.00	- → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49799	1	female	札幌	1949.03.00	- → [太田嘉四夫]	-	

<i>Rattus norvegicus</i>		ドブネズミ : Brown Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49846	1	-	札幌	1949.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49847	1	male	札幌	1949.03.29	太田 → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49848	1	-	札幌市北 10 東 3	1951.09.15	太田 → [太田嘉四夫]	-	アルビノ
HUNHM49894	2	-	札幌	1949.00.00	太田 → [太田嘉四夫]	-	Silver
HUNHM49895	2	-	札幌	1949.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	-	Silver
HUNHM49899	2	-	札幌	1948.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49900	2	-	札幌	1948.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	-	

5. 太田嘉四夫・上田明一によるアカネズミ被害調査（1947年-1948年）

太田・上田（1949）は、1947年及び1948年に北海道宗谷・上川・空知地方の鼠害調査を実施した。この調査で捕獲された標本は、1947年に上田が宗谷地方で採集したアカネズミ多数とドブネズミ1～2頭、太田らが1948年5月28日-29日に空知支庁幾春別菊面澤で採集したアカネズミ6頭、ヒメネズミ2頭、エゾヤチネズミ3頭、ドブネズミ8頭、1948年6月10日空知支庁路ノ臺で採集したドブネズミ2頭とエゾヤチネズミ1頭である。これらの結果に対応するHUNHM所蔵標本について検討してゆく。

まず、上田による採集標本は、太田・上田（1949）が採集点数を明確にしていないことから推測されるように、調査目的が被害の実態調査であったためか、該当する標本は残されていない。

〔菊面沢採集標本〕

菊面澤で採集された標本については、以下のものが確認された。

- ・エゾヤチネズミ仮剥製【49447】（雌，幾春別菊面沢，1948年3月28日）

仮剥製に付属する動物学教室のラベルには「*Clethrionomys rufocanus bedfordiae*, ♀, 幾春別菊面沢, 28/ ■ 1948」の記載がある。判読が困難な採集月については、標本を整理した市川は「Mar.」として登録しているが、正しくは「V」であることが、論文との照合から確認され、現行の標本ラベルに記載されている採集月と標本台帳の情報は修正を要する。

- ・ミカドネズミ仮剥製【49281】（雄，幾春別菊面沢，1948年5月28日）

太田・上田（1949）は菊面沢でミカドネズミを採集していない。【49281】に付属するラベルの名称欄は当初「エゾヒメネズミ」とあったものが「エゾヤチネズミ (?)」と修正したうえで、最終的に「*Cl. rutilus mikado*」としてミカドネズミになっている。太田・上田（1949）はこの個体をヒメネズミかエゾヤチネズミとして同定して報告しており、論文の採集情報の取り扱いに留意すべきことが確認される。

- ・ミカドネズミ仮剥製【49282】（幾春別菊面沢，1948年5月28日）

【49282】に付属するラベルの名称欄は「エゾヤチネズミ，♀」としたのち、「*Cl. rutilus mikado*」としている。論文ではエゾヤチネズミとして報告されていることに注意が必要である。

- ・アカネズミ頭骨【49250】（北海道幾春別菊面沢，1948年）

頭骨が保管されていたフィルムケースに貼られたシールに「*Apodemus ainu ainu*, ♂, 北海道幾春別菊面沢, 1948」の記載がある。太田らによって採集された6頭に含まれる個体の頭骨であると判断される。標本には詳細な採集年月日の記載がないが、「1948年5月28-29日」の採集情報を付加することが可能である。

HUNHMに所蔵されている菊面沢採集標本は以上の4点であるが、KUZに菊面沢で1948年5月28日に採集されたアカネズミ仮剥製とヒメネズミ仮剥製が1点ずつ保管されている。

〔路ノ台採集標本〕

路ノ臺で採集された標本については、以下のものが確認された。

- ・エゾヤチネズミ頭骨【49690】（雄，幌加内路の台，1948年6月10日）

「フキノ台 1948.6.10」の注記があり、太田の調査で採集された標本であることが確認できる。

調査の目的が野ネズミ、特にアカネズミによる農作物被害の実態解明であるためか、いずれの調査地においてもドブネズミの標本は残されていない。その他の種についても論文に記載されている標本点数よりも確認された点数は少なく、完全な標本群としては残されていない。

5. 太田嘉四夫・上田明一によるアカネズミ被害調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ : Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49477	1	female	幾春別菊面沢	1948.03.28 → [1948.05.28]	太田嘉四夫	-	
HUNHM49690	2	male	幌加内路の台	1948.06.10	K.O. → [太田嘉四夫]	-	

<i>Myodes rutilus</i>		ヒメヤチネズミ : Northern Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49281	1	male	幾春別菊面沢	1948.05.28	太田嘉四夫	-	太田・上田 (1949) はタイリクヤチネズミ、あるいはヒメネズミと同定
HUNHM49282	1	-	幾春別菊面沢	1948.05.28	太田嘉四夫	-	太田・上田 (1949) はタイリクヤチネズミと同定

6. 太田嘉四夫による大雪山調査（1951年・1955年）

太田嘉四夫は1951年と1955年の2回大雪山で野ネズミ調査を実施しており、その結果は太田（1954, 1955a, 1956a, 1968）で発表されている。これらに従ってHUNHM所蔵標本との照合を行う。

6-1. 1951年8月採集標本

〔大雪山トムラウシ山〕

・ミカドネズミ

太田（1956a）によれば、1951年8月にトムラウシ山尾根の草本帯（1900m）を下山途中に登山道に走り出たミカドネズミの成体雌個体を採集している。これに対応する標本は仮剥製【49274】である。付属する標本ラベルには「ミカドネズミ, ♀, 性成熟-, '51年8月27日, トムラウシ山1900m尾根, 10時頃, 道に出てきたのを手で捕らえた」とあり、情報は合致する。ただし、ラベルによれば雄個体であり、論文の記載と合致しないことに注意が必要である。

〔大雪山松山温泉〕

・エゾヤチネズミ

太田は松山温泉でエゾヤチネズミ1頭を捕獲している。該当する標本は仮剥製【49442】（松山温泉, 1951年8月22日）と頭骨【49691】（松山温泉, 採集年次なし）である。標本を整理した市川は頭骨にある「松山」について、詳細な地域の判断を留保しているが、太田の採集標本であることから、大雪山の松山温泉であると判断してよい。この2点の標本はおそらくは一個体の剥製と頭骨であり、少なくとも頭骨【49691】には「1951年8月22日」の採集年次の情報を追加してよいだろう。

・ヒメネズミ

太田は松山温泉でヒメネズミ1頭を捕獲している。これに該当する標本は、仮剥製【49139】（雌, 松山温泉, 採集年次なし）と頭骨【49208】（松山温泉）である。2点の標本は一個体の剥製と頭骨であると判断され、「1951年8月22日」採集という情報を追加してよい。なお、仮剥製にはラベル1が付属し、表面は「松山, geisha」、裏面に「♀, A3」とある。当初アカネズミと同等していた可能性があるが、「A3」は朱線で抹消しており表面の記載も同筆であるので、太田はヒメネズミとして管理していたものと考えられる。

・アカネズミ

太田は標高800mの松山温泉で6頭のアカネズミを採集しているが、HUNHMにはそれに該当する標本は存在しない。KUZに太田採集標本として6点のアカネズミ仮剥製、3点の頭骨が保管されている。仮剥製のうち5点には、「A1」、「A4」、「A5」、「A6」、「A7」の番号が与えられており、頭骨の一つには「4」の注記がある。番号によって仮剥製と頭骨を対応させられる可能性もあるが、情報が不足しており確実とは言えない。これらにはいずれも採集日の情報が欠落しているが、他の標本の情報と考えあわせ、「1951年8月22日」採集という情報を追加することが可能である。

採集したアカネズミが6点であるにもかかわらず、「A7」の採集番号が付与されている理由は、上述したヒメネズミの「A3」が採集番号に含まれていたためと推測される。

・クマネズミ

太田は松山温泉の温泉旅館の物置でクマネズミ1頭を捕獲している。該当する標本は仮剥製【49941】（雌, 松山温泉, 1951年8月22日）と頭骨【49947】（松山温泉, 採集年次なし）である。これも一個体の仮剥製と頭骨であり、頭骨の採集年次の情報を追加できる。

〔黒岳小屋〕

太田は黒岳小屋の番人から小屋内で捕獲されたドブネズミの剥製標本を譲り受けている。これに該当する標本は仮剥製・頭骨【49840】である。標本には「ドブネズミ, 26 (= 1951) 年8月7日, 大雪山, 石室番人, 黒岳石室」とある。現行標本台帳への登録時、太田の標本箱の中にあつたためこの標本も採集者太田嘉四夫としたが、太田（1956a）の記載に従って採集者を修正する必要がある。

アカネズミの頭骨が3点確認できないものの、1951年に太田が大雪山で採集した標本はほぼすべて残存していることが確認された。

6-2. 1955 年 8 月採集標本

〔ユコマンベツ（勇駒別）温泉〕

・エゾヤチネズミ

標高 1000m のユコマンベツ温泉付近の森林で、ワナ数 60 一夜の捕獲で採集されたエゾヤチネズミは 4 頭である（太田 1956a）。該当する標本は仮剥製 4 点【49443】～【49446】（勇駒別、採集年次なし）、頭骨 4 点【49685】～【49688】（勇駒別、1955 年 8 月 14 日）である。仮剥製と頭骨は対応するものと考えられるが、仮剥製には採集地点を示す「C-1」や「1-7」という記号があるのに対し、頭骨は「ユ 4」、「ユコ 5」という採集番号が注記されており、照合することができない。仮剥製には「1955 年 8 月 14 日」という採集年次の情報を追記することが許される。

・ミカドネズミ

太田が採集したミカドネズミは 1 頭である。該当する標本は、仮剥製【49273】（勇駒別、1955 年 8 月 14 日）、頭骨【49367】（勇駒別、1955 年 8 月 14 日）である。同一個体だと推測されるが、仮剥製は「1-10」、頭骨は「ユコマンベツ 2」の注記であるため、記載から合致させる判断材料はない。太田（1956a）の記載から、この個体は胎子数 4 の雌個体となる。

・ヒメネズミ

太田が採集したヒメネズミは 1 頭である。該当する標本は、頭骨【49227】（勇駒別、1955 年 8 月 14 日）であり、剥製は確認できない。KUZ に所蔵されている *Apodemus* 属の仮剥製には「C-15[抹消], 1-9, 穴の中 右へ下る, ユコマンベツ大雪山」という荷札が付属し、別筆で「51.8.15」という記載がある。荷札がエゾヤチネズミに付属するものと同じであることやトラップポイントの記載方法が共通であること、太田のユコマンベツ調査は 1955 年のみであることから、「51.8.15」が後筆による誤記であると判断できるので、この仮剥製と頭骨【49227】は同一個体の剥製と頭骨だと推測される。また、太田（1956a）によって、この個体は胎仔数 5 の雌個体という情報も追加できる。

〔黒岳頂上ハイマツ林〕

・ミカドネズミ

太田は 8 月 15 日 -16 日に黒岳頂上（標高 1984m）のハイマツ林帯で 15 頭のミカドネズミ、熔岩帯で 1 頭のミカドネズミを捕獲している。該当する標本は仮剥製 16 点【49257】～【49272】と頭骨 15 点【49352】～【49366】である。ただし、仮剥製【49258】は他の仮剥製と一括して保管されていたため、登録整理を行った市川は採集地を「大雪山」としているが、この標本のみ採集地の記載がなく、採集番号の傾向が異なるため、除外すべきものと評価している。【49258】を除く仮剥製と頭骨は対応するものと推測されるが、仮剥製の採集日がすべて「8 月 15 日」であるのに対し、頭骨のうち 9 点には「8 月 16 日」の情報があり、合致しない。またそれぞれに採集番号の注記があるが、記載方法の不統一や重複があるため、厳密な照合は困難である。

6-3. その他の大雪山採集標本

太田（1956a, 1968）では、太田以外の調査で採集された大雪山のドブネズミについても言及しており、これらについても照合しておく。

太田（1956a, 1968）は、犬飼哲夫（1949b）が 1931 年に黒岳小屋で数十匹のドブネズミに悩まされたとするが、この調査の際に採集されたナキウサギは確認されるものの、ドブネズミの標本は存在しない。ドブネズミは調査対象ではなく採集しなかったものと推測される。

太田（1968）は、芳賀良一（未発表）が大雪山系トムラウシ岳雪渓（標高約 1700m）でドブネズミを採集した記録を報告している。これは仮剥製【07876】（雄、トムラウシヒサゴ沼 1700m, 1956 年 8 月 9 日）が該当するものと考えられる。この標本には採集者名の記載がないが、この採集日は芳賀が大雪山トムラウシでナキウサギ調査を行った日程（芳賀 1958）に合致することから、芳賀の採集標本であると判断される。

また、太田（1968）は帯広営林局合田昌義から大雪山系トムラウシ岳の南側、十勝川の上流、標高約 1100m の針葉樹原生林中の自然噴出の温泉付近に生息するドブネズミ標本を入手していたことを記述している。これに該当するものは皮【49836】及び【49837】である。いずれも「トムラウシ [十勝三股抹消], 1956, 合田昌義」とあり、合致するものと判断される。太田（1968）の記載から、この 2 点の標本の詳細な採集地を追加することができる。

以上のように、剥製と頭骨との対応関係については問題を残すものの、太田嘉四夫による大雪山のネズミ科標本はほぼすべてが残存していることが確認された。

6. 太田嘉四夫による大雪山調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49442	1	-	松山温泉 → [大雪山松山温泉]	1951.08.22	太田嘉四夫	B1	→ [HUNHM49691 の Skin カ]
HUNHM49691	2	-	松山温泉 → [大雪山松山温泉]	- → [1951.08.22]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49442 の Skull カ]
HUNHM49443	1	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	- → [1955.08.14]	K.O. → [太田嘉四夫]	O-8	
HUNHM49444	1	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	- → [1955.08.14]	K.O. → [太田嘉四夫]	C-1/3-1	
HUNHM49445	1	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	- → [1955.08.14]	K.O. → [太田嘉四夫]	1-7	
HUNHM49446	1	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	- → [1955.08.14]	K.O. → [太田嘉四夫]	O-1	
HUNHM49685	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49686	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49687	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	ユコ	
HUNHM49688	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	ユコ 5	

<i>Myodes rutilus</i>		ヒメヤチネズミ：Northern Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49274	1	male	トムラウシ 1900m 尾根	1951.08.27	太田嘉四夫		太田（1956b）は female
HUNHM49273	1	-	湧駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	太田嘉四夫	1-10	→ [HUNHM49367 の Skin カ]
HUNHM49367	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	ユコマンベツ 2	→ [HUNHM49273 の Skull カ]
HUNHM49257	1	female	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-7/No.6	
HUNHM49259	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-3/No.8	ウラジロナナカマド根元の穴
HUNHM49260	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-8/No.9	シャクナゲの中
HUNHM49261	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-4/No.10	ウラジロナナカマド
HUNHM49262	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-9/No.11	
HUNHM49263	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	M-5/No.12	
HUNHM49264	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.13	
HUNHM49265	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.14	
HUNHM49266	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.15	
HUNHM49267	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.16	
HUNHM49268	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.17	
HUNHM49269	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.18	
HUNHM49270	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.18	
HUNHM49271	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.20	
HUNHM49272	1	-	大雪山黒岳	1955.08.15	太田嘉四夫	No.21	
HUNHM49352	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.15	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 6	
HUNHM49353	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.15	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 7	
HUNHM49354	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.15	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 8	
HUNHM49355	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.15	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 9	
HUNHM49356	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.15	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 10	
HUNHM49357	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 11	
HUNHM49358	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 12	
HUNHM49359	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.00 → [1955.08.16 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 13	
HUNHM49360	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 14	

HUNHM49361	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 15	
HUNHM49362	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 15	
HUNHM49363	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 16	
HUNHM49364	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 18	
HUNHM49365	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 20	
HUNHM49366	2	-	黒岳 → [大雪山黒岳]	1955.08.16	K.O. → [太田嘉四夫]	黒岳 21	
HUNHM49258	1	-	大雪山	-	太田嘉四夫	O3-7/No.37	標本に「大雪山」無、混入の可能性有

Apodemus argenteus

ヒメネズミ : Small Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49139	1	female	松山温泉 → [大雪山松山温泉]	- → [1951.08.22]	- → [太田嘉四夫]	A3	→ [HUNHM49208 の Skin カ]
HUNHM49208	2	- → [female カ]	松山温泉 → [大雪山松山温泉]	- → [1951.08.22]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49139 の Skull カ]
HUNHM49227	2	-	勇駒別 → [大雪山勇駒別]	1955.08.14	K.O. → [太田嘉四夫]	-	

Rattus norvegicus

ドブネズミ : Brown Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49840	3	-	大雪山黒岳石室	1951.08.07	太田嘉四夫 → [石室番人]	-	
HUNHM07876	1	male	トムラウシヒサゴ沼 1700	1956.08.09	- → [芳賀良一]	-	
HUNHM49836	1	-	トムラウシ → [トムラウシ南面 1100m 自然噴出温泉]	1956.00.00	合田正義	-	
HUNHM49837	1	-	トムラウシ → [トムラウシ南面 1100m 自然噴出温泉]	1956.00.00	合田正義	-	

Rattus rattus

クマネズミ : Roof Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49941	1	female	松山温泉物置床下 → [大雪山松山温泉物置床下]	1951.08.22	太田嘉四夫	-	→ [HUNHM49947 の Skin カ]
HUNHM49947	2	- → [female]	松山温泉 → [大雪山松山温泉物置床下]	- → [1951.08.22]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49941 の Skin カ]

7. 芳賀良一・武笠耕三による札幌農業試験場ドブネズミ被害調査（1953-1954年）

武笠・芳賀（1954）によって報告された北海道農業試験場水田及び北海道立農業試験場種芸部水田における鼠害は、被害の生じた年次の記載がないが、芳賀（1955a）の記述から1953年及び1954年に発生したことが把握できる。武笠・芳賀（1954）及び芳賀（1955a）によれば、その調査は4回実施されたが、第3期は積雪のため十分な捕獲が困難で中止されたものであり、芳賀は第4期とあわせて第3期調査としている。本稿では別の調査として扱っておく。調査は捕殺調査、生息数推定のための記号放逐調査、捕獲調査、毒餌試験などが実施された。

調査地となった北海道農業試験場（琴似）、北海道立農業試験場札幌試験地の南面水田、北面水田において採集されたネズミを以下に示す（武笠・芳賀1954表3）。

〔第1期調査：1953年9月12日-19日〕

ドブネズミ104頭、エゾヤチネズミ1頭

〔第2期調査：10月7日-13日〕

ドブネズミ85頭、ハツカネズミ1頭

〔第3期調査：1954年3月24日-26日〕

ドブネズミ1頭

〔第4期調査：5月3日-15日〕（芳賀1955）

ドブネズミ14頭

このうち、札幌試験地の南面水田で第1期に捕獲されたドブネズミについては、罠の捕鼠数による生息数の算定に用いられており、8日間の日別、性別の捕獲数が把握できる（武笠・芳賀1954表5）。なお、琴似で行われた記号放逐調査については、標本として残されていない可能性が高く、ここでは検討から除外する。

武笠・芳賀（1954）の調査時期に対応し、採集地情報も合致する標本としては、ドブネズミ【07850】（雄、札幌農試温床、1954年5月14日）、ドブネズミ【07844】（雄、農試、1954年5月15日）の2点があり、これは第4期の調査時期に採集されたものである。また、阿部永のコレクションにハツカネズミ【52020】（雄、札幌琴似農試、1954年5月3日）が確認される。ここから、阿部は武笠・芳賀の調査に協力していることが示唆される。ただし、芳賀（1955a）ではドブネズミの調査を主眼としているため、第4期のハツカネズミの捕獲については触れられていない。

この他、採集地に「農試札幌」とあり、第4期調査後の1954年5月23日-26日に採集されたドブネズミ9点【07795】、【07797】、【07798】、【07846】～【07849】、【08261】、【08262】、エゾヤチネズミ2点【08338】、【08340】がある。第4期調査以降も補足調査が行われていたことが示唆される。

第1期、第2期で採集された189点のドブネズミについては、標本台帳に登録されている採集地、採集日の情報からは見出すことができない。ただし、芳賀の調査標本はHUNHMに保管されていることから、関連する可能性のある標本について、検討することとした。

第1の群として、墨書と朱書きの2種類の番号が記載された図16に示すラベルを持つドブネズミ標本173点がある。点数は武笠・芳賀（1954）が記載する189点と近いが、これらが該当する可能性があるが、ラベルには200を超える番号が記載されているものもあり、確実ではない。また、このラベルは標本に結び付けられているのではなく、腹部に押し込まれている場合が多く、脂で劣化し読めなくなっている場合がほとんどである。このため検討する材料としては情報不足であり、該当するものと判断することはできない。



図16. 【08685】付属のラベル

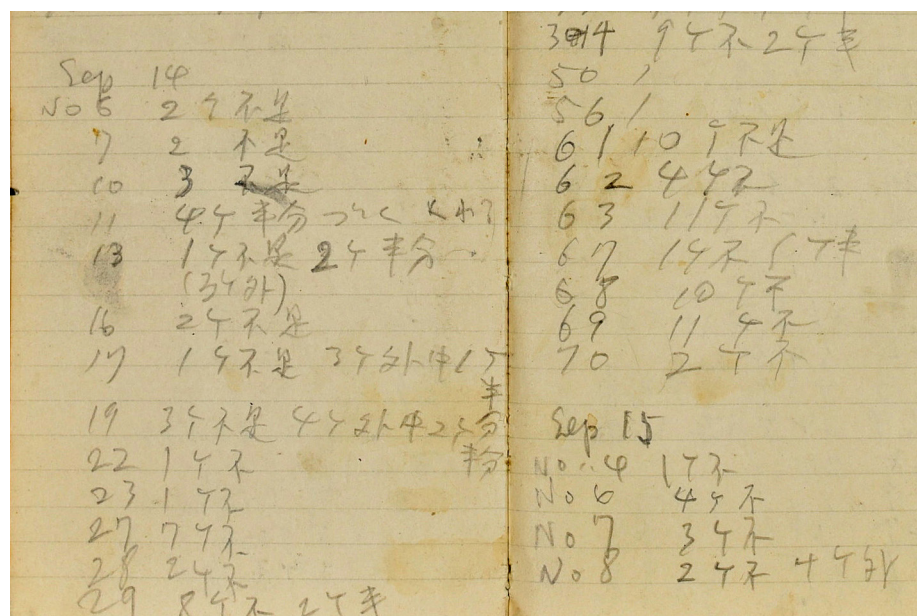
第2の群として、1953年10月8日-18日に採集された39点のドブネズミ仮剥製がある（表8、1点の推定標本、1点のアカネズミを含む）。これらに付属するラベルの一部には「P.No.」あるいは「Point No.」として採集地点を示す情報はあるものの、採集地の記載はない。また、芳賀の第2期調査は10月7日-13日であり、調査期間が完全には重ならないため別の調査標本である可能性がある。これらについて、関係者の残したアーカイブで検討する。

上述したように、武笠・芳賀（1954）の調査には阿部が協力していた可能性がある。そこで、阿部から寄贈されたフィールドノート⁽⁴⁾を確認すると、1953年9月13日から始まる「道立農試水稻野鼠防除」に関する記録がある。9月13日-21日の記録には、図17に示したように、調査地点番号と「1ヶ外」や「13ヶ不足」といった記載があり、17日の記録には「毒剤」の記載もある。この記載は、武笠・芳賀（1954）が実施した毒餌配置効果実験の調査結果と完全に合致していることから、この調査に阿部が協力していたことを裏付ける。ただし、この調査（武笠・芳賀1954表7）は第1期の1953年9月12日-19日ではなく、13日-20日の記録であること、9日目にあたる21日も調査を行っていたことが確認される。

(4) HUNHM_A_040100101209

表 8 芳賀らによる調査期間中に採集されたドブネズミ標本の採集日とラベルの注記

	採集日	ラベル注記
【07885】	ドブネズミ	-
【07887】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07884】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07818】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07883】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07882】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07854】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07852】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07858】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07880】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07879】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【07886】	ドブネズミ	1953 年 10 月 8 日
【08250】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【07878】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【08253】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【07859】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【07799】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【08263】	ドブネズミ	1953 年 10 月 9 日
【07803】	ドブネズミ	1953 年 10 月 10 日
【07809】	ドブネズミ	1953 年 10 月 10 日
【07808】	ドブネズミ	1953 年 10 月 10 日
【07817】	ドブネズミ	1953 年 10 月 11 日
【08414】	アカネズミ	1953 年 10 月 11 日
【08256】	ドブネズミ	1953 年 10 月 13 日
【08258】	ドブネズミ	1953 年 10 月 13 日
【07820】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07812】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07815】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07855】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07816】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07856】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【08264】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07814】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【07881】	ドブネズミ	1953 年 10 月 16 日
【08257】	ドブネズミ	1953 年 10 月 17 日
【08269】	ドブネズミ	1953 年 10 月 17 日
【07853】	ドブネズミ	1953 年 10 月 17 日
【07805】	ドブネズミ	1953 年 10 月 18 日
【07839】	ドブネズミ	1953 年 10 月 37 日 [ママ]

図 17. 阿部のフィールドノート
毒餌配置効果実験記録

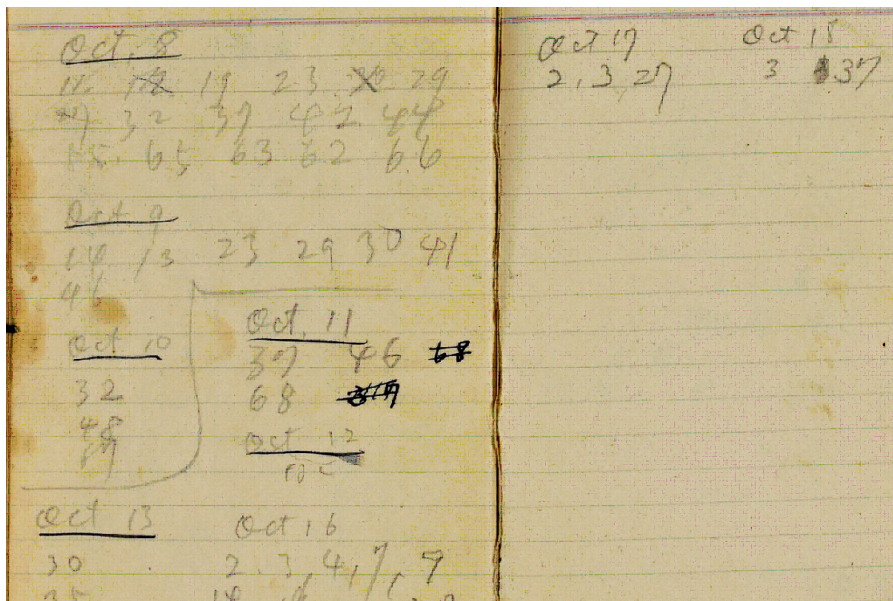


図 18. 阿部のフィールドノート
調査日ごとに記載された採集地点

この記載に続いて、フィールドノートには10月8日から10月18日の調査記録がある(図18)。これは日付と数字しかないため、これだけではどのような意味を持つのか判然としないが、表8と照合すればその意味が明らかになる。8日と9日に採集された標本のラベルには採集通し番号が記載されているが、「P.No. (Point No.)」が確認されるようになる10日以降の採集標本の番号と、阿部のノートの数字とが合致する。ここから、表8に示したドブネズミ標本は芳賀らの調査で採集された標本であり、ラベルに記載されている番号のうち10日以降の採集標本のものは捕獲地点番号であることが裏付けられる。なお、採集日を「Oct 37 '53」とする【07839】は日付欄に誤って捕獲地点番号を記入したものであり、阿部のノートからこの標本の採集日は「10月18日」であることが推定される。

札幌試験地では、南面水田、北面水田それぞれに70か所の調査地点を設定しているが、阿部が記載した調査地点がどちらの調査地であるかについては、フィールドノートには明記されていない。ただし、第2期調査とされた10月7日から13日の間に南面水田で捕獲されたドブネズミは29頭(武笠・芳賀1954表3)であり、現存標本39点のうち、この期間に捕獲された標本が25点あり、かつ阿部のノートによれば29頭を捕獲していることが判明するので、阿部のノートに記載された捕獲情報は南面水田での記録であることが推定される。

以上の考察から、採集地情報が付属していなかった39点の標本に対して、北海道立農業試験場種芸部南面水田において、武笠・芳賀(1954)の調査で捕獲されたという情報を追加することができる。また、武笠・芳賀(1954)及び芳賀(1955a)は、調査期間をそろえることを目的としていたためか、実際に行った調査の一部の結果のみを示していたことも確認された。

7. 芳賀らによる札幌農業試験場におけるドブネズミ被害調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes	
HUNHM08338	1	female	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.23	-	44	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM08340	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	-	-	→ [芳賀良一・阿部永]

<i>Apodemus speciosus</i>		アカネズミ：Large Japanese Field Mouse					
status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes	
HUNHM08414	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.46]	1953.10.11	-	P. No.46	→ [芳賀良一・阿部永]

<i>Mus musculus</i>		ハツカネズミ：House Mouse					
status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes	
HUNHM52020	3	male	札幌市琴似町農試	1954.05.03	阿部永		

<i>Rattus norvegicus</i>		ドブネズミ：Brown Rat					
status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes	
HUNHM07795	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.26	-	No.26	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07797	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	-	No.24	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07798	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	-	No.22	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07799	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	-	No.6	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07803	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.32]	1953.10.10	-	P. No.32	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07805	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.3]	1953.10.18	-	P. No.3	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07808	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.67]	1953.10.10	-	P. No.67	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07809	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.48]	1953.10.10	-	P. No.48	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07812	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.7]	1953.10.16	-	P. No.7	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07814	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.48]	1953.10.16	-	P. No.48	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07815	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.14]	1953.10.16	-	P. No.14	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07816	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.29]	1953.10.16	-	P. No.29	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07817	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.37]	1953.10.11	-	P. No.37	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07818	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	-	No.5	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07820	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.2]	1953.10.16	-	P. No.2	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07839	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.37]	1953.10.37 [ママ]	-	P. No.37	→ [1953.10.18] → [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07844	1	male	農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.15	-	No.15	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07846	1	female	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.23	-	No.17	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07847	1	male	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	-	No.18	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07848	1	female	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.23	-	No.16	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07849	1	female	札幌農試 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	-	No.21	→ [芳賀良一・阿部永]
HUNHM07850	1	male	札幌農試温床 → [札幌農業試験場温床]	1954.05.14	-	No.9	→ [芳賀良一・阿部永]

HUNHM07852	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.9
HUNHM07853	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.27]	1953.10.17	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.27
HUNHM07854	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.8
HUNHM07855	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.19]	1953.10.16	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.19
HUNHM07856	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.34]	1953.10.16	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.34
HUNHM07858	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.10
HUNHM07859	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	- → [芳賀良一・阿部永]	No.5
HUNHM07878	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	- → [芳賀良一・阿部永]	No.2
HUNHM07879	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.12
HUNHM07880	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.11
HUNHM07881	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.27]	1953.10.16	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.27
HUNHM07882	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.7
HUNHM07883	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.6
HUNHM07884	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.4
HUNHM07885	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田力]	- → [1953.10.08 力]	- → [芳賀良一・阿部永力]	No.1
HUNHM07886	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	0000.10.08 → [1953.10.08]	- → [芳賀良一・阿部永]	No.13
HUNHM07887	1	male	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.08	- → [芳賀良一・阿部永]	No.3
HUNHM08250	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	- → [芳賀良一・阿部永]	No.1
HUNHM08253	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	- → [芳賀良一・阿部永]	No.3
HUNHM08256	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.30]	1953.10.13	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.30
HUNHM08257	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.2]	1953.10.17	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.2
HUNHM08258	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.56]	1953.10.13	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.56
HUNHM08261	1	male juv.	札幌農業試験所 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	- → [芳賀良一・阿部永]	No.20
HUNHM08262	1	male juv.	札幌農業試験所 → [札幌農業試験場]	1954.05.25	- → [芳賀良一・阿部永]	No.19
HUNHM08263	1	female	- → [札幌農業試験場南面水田]	1953.10.09	- → [芳賀良一・阿部永]	No.7
HUNHM08264	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.3]	1953.10.16	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.3
HUNHM08269	1	-	- → [札幌農業試験場南面水田 P. No.3]	1953.10.17	- → [芳賀良一・阿部永]	P. No.3

8. 太田嘉四夫らによる札幌競馬場調査 (1953 年 -1954 年, 1959 年 -1960 年)

太田嘉四夫らは 1953 年と 1954 年 (太田 1955b, 1968 ; 高津・太田 1956)、1959 年と 1960 年 (太田 1960, 1968) に、北海道大学に隣接する札幌競馬場において、野ネズミの消長や棲み分けに関する調査を継続して実施していた。HUNHM には動物学教室に保管されていた競馬場採集の 42 点のエゾヤチネズミ標本、7 点のミカドネズミ標本、1 点のハツカネズミ標本がある。

現存する標本は 1953 年及び 1954 年のものと、太田らの報告で触れられていない 1956 年及び 1961 年の採集標本である。太田は競馬場の敷地を区画に分け、その植生や環境の違いによる棲み分けの実態を調査するために、1953 年から 54 年にかけて 340 頭のエゾヤチネズミ、155 頭のミカドネズミ、77 頭のドブネズミを捕獲していた (太田 1955b, 1968)。この調査においては、日周活動の調査を並行して実施していたため、捕殺ではなく放獣していた (高津・太田 1956) ことから、実際に標本とした個体は多くなかったと考えられる。現存する標本の一部には、採集地として「牧草畑排水溝縁」や「雪の下」、「雪下巣箱の中」など太田が区画の特徴として示した情報が記載されているものもあるが、区画名が記載されているわけではなく、各標本が報告のどの記載に該当するのかは判然としない。また、仮剥製や頭骨に記載されている注記にも一貫性がなく、照合することも困難である。このため、本稿では競馬場で採集されたという記録のある標本の一覧を示すとどめる。

なお、太田 (1956b) において、大黒島産エゾヤチネズミの分類を検討する際に引用された札幌競馬場採集の 4 点の標本がある (表 9)。標本記載の計測値から、太田の 101 番標本は仮剥製【49368】、102 番標本は仮剥製【49479】が合致する。7 号頭骨標本は頭骨【49628】に「ケイバ場 7, bed.」、9 号頭骨標本は頭骨【49630】に「bed. 9 [8 抹消] ケ -9」とあり、これらが該当する可能性があるが、照合するための材料に乏しく、断言することは困難である。

表 9 大黒島及びその他産エゾヤチネズミの測定値 (太田 1956b 第 3 表を改変)

産地	番号	性	成熟	頭胴	尾	後足	耳	頭骨全長	標本照合
大黒島	7	M	成体	110	44	20.5	13	-	【49658】
	8	M	成体	127	46	21	13	-	【49659】
	17	M	成体	100	39	20	13	-	-
	6	F	成体	100	42	19.5	-	26	【49657】
	10	F	成体	120	44	20	14	27	【49661】
	11	F	成体	125	45	21	14	-	-
	9	M	亜成体	92	39	19	13	24	【49660】
	12	F	亜成体	98	40	20	12.5	-	-
	13	F	亜成体	92	38	19	12	-	-
	14	M	幼体	89	37	18.5	12	-	-
	16	M	幼体	68	34	18	11	22.5	【49662】
	18	M	幼体	80	33	18.5	12	-	-
	19	M	幼体	67	28	17.5	11	-	【49663】
	15	F	幼体	61	28	18	10	-	-
	20	F	幼体	63	29	17.5	10.5	21	【49664】
	21	F	幼体	61	30	18	10	20.5	【49665】
札幌競馬場	101	M	成体	113	53	20	13	-	【49368】
	102	F	成体	107	48	18	14	-	【49479】
	7	-	成体	-	-	-	-	28	【49628】
	9	-	成体	-	-	-	-	28	【49630】
札幌藻岩山	1	M	成体	110	41	18.5	14	-	【49489】
	8	F	成体	108	48	19	13	-	-
	6	-	成体	-	-	-	-	26	【49619】
	5	-	成体	-	-	-	-	27	【49613】
石狩当別	-	M	成体	110	50	21	14	27	【49455】・【49689】

8. 太田嘉四夫らによる札幌競馬場採集ネズミ科標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08334	1	male	札幌競馬場	1954.06.27	-	-	
HUNHM08341	1	female	札幌競馬場	1954.06.27	-	-	
HUNHM08342	1	female	札幌競馬場	1954.06.27	-	-	
HUNHM49368	1	male	札幌競馬場牧草畑排水溝縁	1953.05.21	太田嘉四夫	No.101	太田（1956b）引用
HUNHM49369	1	male	札幌競馬場	1953.11.16	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49370	1	male	札幌競馬場	1953.11.16	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49371	1	male	札幌競馬場	1953.11.16	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49372	1	-	札幌競馬場雪の下	1953.12.11	太田嘉四夫	-	
HUNHM49373	1	-	札幌競馬場雪の下	1953.12.12	太田嘉四夫	-	
HUNHM49374	1	male	札幌競馬場	1954.01.22	太田嘉四夫	No.17	
HUNHM49375	1	-	札幌競馬場	1954.03.20	太田嘉四夫	-	
HUNHM49376	1	-	札幌競馬場	1954.03.20	太田嘉四夫	-	
HUNHM49377	1	-	札幌競馬場	1954.03.24	太田嘉四夫	-	
HUNHM49378	1	-	札幌競馬場	1954.03.24	太田嘉四夫	-	
HUNHM49379	1	-	札幌競馬場	1954.03.24	太田嘉四夫	-	
HUNHM49380	1	-	札幌競馬場	1954.03.30	太田嘉四夫	-	
HUNHM49381	1	-	札幌競馬場雪解けの牧草畑	1954.03.31	太田嘉四夫	-	
HUNHM49382	1	-	札幌競馬場雪解けの牧草畑	1954.03.31	太田嘉四夫	-	
HUNHM49473	1	male	札幌競馬場	1953.12.10	太田嘉四夫	No.3	
HUNHM49474	1	female	札幌競馬場	1954.02.11	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49475	1	male	札幌競馬場	1954.02.12	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49476	1	male	札幌競馬場雪下巣箱の中	1954.03.12	太田嘉四夫	-	
HUNHM49477	1	male	札幌競馬場雪解け	1954.03.25	太田嘉四夫	B-41	
HUNHM49478	1	female	札幌競馬場雪解け	1954.03.25	太田嘉四夫	B-1	
HUNHM49479	1	female	札幌競馬場中央排水溝	1954.05.21	太田嘉四夫	No.18.19	太田（1956b）引用
HUNHM49624	2	juv.	札幌競馬場	1956.03.30	太田嘉四夫	幼 1	
HUNHM49625	2	juv.	札幌競馬場	1956.03.30	太田嘉四夫	幼 2	
HUNHM49626	2	juv.	札幌競馬場	1956.03.30	太田嘉四夫	幼 3	
HUNHM49627	2	juv.	札幌競馬場	1956.03.30	太田嘉四夫	幼 4	
HUNHM49628	2	juv.	札幌競馬場	1956.03.30	太田嘉四夫	馬 -7	太田（1956b）引用力
HUNHM49629	2	juv.	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	ケ -8	
HUNHM49630	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	ケ -9	太田（1956b）引用力
HUNHM49631	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -10	
HUNHM49632	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -11	
HUNHM49633	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -12	
HUNHM49634	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -13	
HUNHM49635	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -14	
HUNHM49636	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49637	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49638	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49639	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49640	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49641	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49642	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49643	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	-	
HUNHM49424	1	juv.	- → [札幌競馬場カ]	1956.03.30	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49425	1	juv.	- → [札幌競馬場カ]	1956.03.30	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49426	1	juv.	- → [札幌競馬場カ]	1956.03.30	太田嘉四夫	No.3	

<i>Myodes rutilus</i>		ヒメヤチネズミ：Northern Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49305	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -8	
HUNHM49306	2	-	札幌競馬場	1953.06.03	太田嘉四夫	M-2/S-9	
HUNHM49307	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	競馬場 -10 /S-10	
HUNHM49308	2	-	札幌競馬場	1954.00.00	太田嘉四夫	S-11	
HUNHM49309	2	-	札幌競馬場	-	太田嘉四夫	馬 -12	
HUNHM49310	2	-	札幌競馬場	1953.05.29	太田嘉四夫	M-1	
HUNHM49311	2	-	札幌競馬場	1953.09.07	太田嘉四夫	M-76	

<i>Mus musculus</i>		ハツカネズミ：House Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49785	3	male	札幌競馬場	1961.04.19	太田嘉四夫	-	

9. 太田嘉四夫らによる北海道内各地のネズミ類の棲み分け調査 (1954 年, 1957 年 -1960 年)

太田嘉四夫は、1954年に北海道内各地における野ネズミの棲み分け調査を実施した(太田 1954, 1955a, 1968)。その後、太田(1968)までにいくつかの地点を補足調査している。本章では、これらの地点のうち、太田が別に検討した離島の野ネズミを除いた調査結果と、それに対応する標本の状況について検討してゆく。

9-1. 中標津

太田(1954, 1955a, 1968)は調査地を中標津股落とするが、正確には「俣落」である。

[調査地と採集個体]

広葉樹林山火跡の二次林、人工林幼樹 カラマツ苗 地域

植生：タラノキ・ミヤコザサ・エビガライチゴ

1954 年 5 月の調査でアカネズミ 2 頭、ヒメネズミ 4 頭、エゾヤチネズミ 1 頭、ミカドネズミ 3 頭

・エゾヤチネズミ

エゾヤチネズミは仮剥製【49439】(雌, 中標津開陽担当区, 1954 年 8 月 5 日)、頭骨【49596】(中標津, 1954 年 5 月 6 日 -8 日)が確認される。太田(1954)は、中標津と西足寄の調査では帯広営林局の協力を得たとしていることから、営林局の中標津開陽担当区であった俣落の森林で調査が行われたとみてよいだろう。

中標津で採集された標本のラベル採集日記載は【49439】では「8/5」のように月と日を明確に書き分けていないため、情報の混乱が生じている。太田の調査は 5 月である(太田 1954, 1955a, 1968)ことから、この標本の採集日は「5 月 8 日」と解釈する必要がある。この仮剥製と頭骨は一個体の剥製と頭骨と考えられ、【49439】の採集日を「5 月 8 日」に修正したうえで【49596】に「雌, 中標津開陽担当区, 1954 年 5 月 8 日」の採集情報を追加することができる。

・ミカドネズミ

ミカドネズミは仮剥製【49278】(雌, 中標津マタオチ, 1954 年 9 月 5 日)、【49279】(雄, 中標津マタオチ, 1954 年 9 月 5 日)、【49280】(雄, 中標津開陽担当区, 1954 年 7 月 5 日)と頭骨【49321】、【49322】、【49323】(中標津, 1954 年 5 月 6 日 -8 日)の各 3 点が確認された。仮剥製の月と日が入れ替わっており、修正が必要である。仮剥製と頭骨は対応するものと評価でき、頭骨に採集地を追加することができるが、仮剥製の採集日は 5 月 7 日と 5 月 9 日であり、情報に混乱がみられる。

・ヒメネズミ

ヒメネズミは頭骨【49223】～【49226】の 4 点が確認され、採集情報は「中標津, 1954 年 5 月 6 日 -8 日」となっている。KUZ には 4 点のヒメネズミ仮剥製があり、採集地はすべて「中標津開陽担当区」、雄 2 点は「1954 年 5 月 7 日」、雌雄各 1 点は「1954 年 5 月 8 日」である。仮剥製と頭骨は対応するものと推測され、頭骨に詳細な採集日、採集地、雌雄の別を追加できる可能性があるが、照合するための情報が不足している。

・アカネズミ

HUNHM には中標津採集のアカネズミは確認できない。KUZ に仮剥製(中標津開陽担当区, 1954 年 7/5)が 1 点確認された。

なお、太田(1954, 1955a, 1968)は西足寄の調査でアカネズミ 165 頭、ヒメネズミ 66 頭、エゾヤチネズミ 72 頭を捕獲したとするが、これに該当する標本は見いだせなかった。

9-2. 苫小牧

太田(1954, 1955a, 1968)が報告する苫小牧での調査結果は以下の通りである。

[調査地と採集個体]

調査地 (1) 北海道大学苫小牧演習林 (名称は当時)

人口造林地、標高 60 ～ 70m

植生：ドイツウヒ 15 年生

1954 年 5 月の調査でヒメネズミ 1 頭

調査地 (2) 北海道大学苫小牧演習林

人口造林地 (広葉樹若木人工林)、標高 50m

植生：広葉樹若木

ヒメネズミ 1 頭

ただし太田(1968)は引用していない

調査地 (3) 北海道大学苫小牧演習林

人口林 (幼樹)、広葉樹林伐採跡 (筋刈)

植生: カラマツ幼樹-草本

エゾヤチネズミ 1 頭

調査地 (4) 苫小牧

泥炭地の草原、標高 6m

植生: クマイザサ

エゾヤチネズミ 1 頭

・エゾヤチネズミ

エゾヤチネズミは仮剥製【49449】(苫小牧, 1954 年 5 月 25 日)、【49450】(苫小牧, 1954 年 5 月 26 日)、頭骨【49692】及び【49693】(苫小牧, 1954 年 5 月 25-26 日)である。後述する演習林で捕獲したヒメネズミの採集日が 5 月 24 日と 25 日であることから、【49449】がカラマツ幼樹人工林での採集個体に該当する可能性が高いが、標本には人工林、泥炭草原のいずれで捕獲したものであるのかを示す情報は無い。仮剥製と頭骨は対応するものと考えられるが、これについても照合する材料はない。

・ヒメネズミ

太田の捕獲標本と考えられるヒメネズミは仮剥製【49140】(苫小牧, 1954 年 5 月 25 日)、【49141】(苫小牧, 1954 年 5 月 24 日)、頭骨【49206】及び【49207】(フィルムケースに同梱されており、苫小牧, 1954 年 5 月 25-26 日の記載がある)がある。仮剥製と頭骨の採集日に混乱がみられること、またドイツトウヒ人工林、広葉樹若木人工林のいずれで捕獲したものであるのかについては不明であるが、仮剥製と頭骨は対応するものであり、太田が言及したヒメネズミの標本であると位置づけられる。

・クマネズミ

HUNHM には 1954 年 5 月 24 日に苫小牧演習林住宅で捕獲されたクマネズミ仮剥製【49937】及び【49938】と苫小牧で 5 月 25 日に採集されたという情報を持つクマネズミ頭骨【49943】及び【49944】がある。調査の際に捕獲された 2 個体であると推測されるが、これも採集日の情報に混乱がみられる。

9-3. 石狩当別

太田 (1954, 1955a, 1968) が報告する石狩当別での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

調査地 (1) 丘

天然林、広葉樹の二次林、標高 100m

植生: ミズナラ・シナノキ-クマイザサ

1954 年 5 月の調査でヒメネズミ 7 頭

調査地 (2) 草原

泥炭地の草原、標高 11m

植生: クマイザサ

1954 年 5 月の調査でエゾヤチネズミ 1 頭

・エゾヤチネズミ

太田の記録に該当する標本は、仮剥製【49455】(雄, 石狩当別金沢原野 泥炭地排水溝へり, 1954 年 5 月 31 日)と頭骨【49689】(石狩当別金沢)である。頭骨には採集日情報が欠落しているが、おそらくは同一個体の剥製と頭骨とみられる。

太田 (1956b) において大黒島のエゾヤチネズミの分類検討を行った際に引用されている無番号の石狩当別産の標本 (表 9) は、ラベルの計測値から【49455】とおそらくは頭骨【49689】が用いられていたことが確認される。

・ヒメネズミ

太田の調査記録に合致するものとして、仮剥製【49123】(雄, 石狩金沢, 1954 年 5 月 31 日)、【49124】(雄幼, 石狩金沢 岡の林中, 1954 年 5 月 31 日)、【49125】(雌幼, 石狩金沢 岡の林中, 1954 年 5 月 31 日)の 3 点と【49199】～【49205】の 7 点の頭骨がある。

この頭骨には注記やラベルは付属せず、保管されていた箱に「当別」とあるのみであるが、点数の合致から太田の報告に該当するものと考えられる。

9-4. 札幌円山

太田（1954, 1955a, 1968）が報告する札幌円山での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

天然林、広葉樹の原生林、標高 40 ～ 150m

植生：カツラ - クマイザサ

1954 年 5 月の調査でエゾヤチネズミ 3 頭、ヒメネズミ 5 頭

・エゾヤチネズミ

太田の報告に合致する標本は、エゾヤチネズミ仮剥製【49480】及び【49481】である。なお、現存標本に付属する採集日は「1954 年 6 月 9 日」であり、報告の「5 月」とは合致しない点に問題がある。

・ヒメネズミ

HUNHM には太田が札幌円山で採集したヒメネズミ標本は現存していない。一方、KUZ にヒメネズミ仮剥製 5 点が保管されている。これらも採集日は HUNHM のエゾヤチネズミと同じ「1954 年 6 月 9 日」であり、太田の報告の記載が誤っていることが示唆される。

札幌円山で採集されたネズミのうち、エゾヤチネズミ 1 点と、すべての標本の頭骨が不在となっている。

9-5. 十勝広尾

太田（1954, 1955a, 1968）が報告する十勝広尾豊似での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

調査地（1）

天然広葉樹林、標高 50m

植生：ミズナラ・イタヤカエデ - オシダ・フッキソウ

1954 年 8 月の調査でアカネズミ 3 頭、ヒメネズミ 2 頭、エゾヤチネズミ 9 頭

調査地（2）

野火跡人口造林地、標高 50m

植生：カラマツ幼樹 - ワラビ

エゾヤチネズミ 3 頭

調査地（3）

農地内ヤチダモ・ハンノキ防風林、標高 50m

植生：ヤチダモ幼樹 - シダ

エゾヤチネズミ 2 頭

・エゾヤチネズミ

HUNHM には、下野塚あるいは野塚で 1954 年 8 月 3 日から 6 日にかけて採集された仮剥製及び皮が 12 点【49405】、【49406】、【49427】～【49436】確認されるが、上述した調査地点を示す注記は標本に付属していない。また、1954 年 8 月に下野塚で採集されたエゾヤチネズミの頭骨が 5 点【49680】～【49684】確認される。これらは仮剥製あるいは皮に対応するものと推測されるが、対応させるための情報が欠落しており、詳細な採集日を追加することもできない。

・ヒメネズミ

ヒメネズミも HUNHM には確認できない。KUZ に下野塚で 1954 年 8 月 6 日に採集された仮剥製が 1 点存在し、これは調査地（1）での採集個体である。

・アカネズミ

HUNHM には広尾で採集されたアカネズミの標本は確認できない。KUZ に広尾下野塚で 1954 年 8 月 4 日に採集された仮剥製が 1 点存在し、調査地（1）での採集個体と考えられる。

太田（1968）は、家ネズミの分布に関する記述の中で、広尾郡豊似町でクマネズミ 1 頭とハツカネズミ 1 頭を捕獲したことを記載している。これに該当する標本はクマネズミ仮剥製【49939】（下野塚, 1954 年 8 月 5 日）と頭骨【49945】（豊似, 1954 年 8 月）である。これらは同一個体の標本と評価できる。ハツカネズミについては、KUZ に保管されている仮剥製（下野塚, 1954 年 8 月 4 日）が該当するものと考えられる。太田（1968）はこの個体を農家で捕獲したとしており、KUZ の標本に付属する「坂本家台所」という記述とも合致する。

9-6. 石狩手稲

太田（1954, 1955a, 1968）が報告する石狩手稲での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

調査地（1）

人工林若木林（泥炭草原防風林）、標高 7.5m

植生：ニセアカシア - オーチャード

1954 年 8 月の調査でアカネズミ 1 頭、エゾヤチネズミ 2 頭、ドブネズミ 3 頭

調査地（2）

泥炭草原、標高 7.5m

植生：クマイザサ

1954 年 8 月の調査でエゾヤチネズミ 5 頭、ミカドネズミ 1 頭

調査地（3）（太田 1968）

手稲山人口造林地

植生：カラマツ幼樹 - エゾヨモギ

1957 年 6 月にアカネズミ 1 頭、ヒメネズミ 9 頭、エゾヤチネズミ 7 頭

1957 年 8 月にアカネズミ 2 頭、ヒメネズミ 4 頭、エゾヤチネズミ 3 頭

1957 年 11 月にミカドネズミ 2 頭

・エゾヤチネズミ 1954 年採集標本

太田が 1954 年に採集した標本は、「手稲」ではなく手稲の「軽川」という採集地情報がラベルに記載されているものが該当すると考えられる。調査地（1）防風林、調査地（2）泥炭草原の区別はないものの、1954 年 8 月 17 日、18 日に採集された仮剥製 6 点【49483】～【49488】が確認され、太田の記載と比較すると 1 点不足している。また、1954 年に軽川で採集されたという記載のあるエゾヤチネズミ頭骨 11 点【49598】～【49608】が確認され、太田が採集した 7 頭の記録と合致しない。これはこれらの頭骨が同一の箱に保管されていたため、現在共通の採集情報が付与されているものであって、何らかの混入が生じている可能性が高い。

・ミカドネズミ 1954 年採集標本

仮剥製【49286】（軽川, 1954 年 8 月 17 日）が太田の記載と合致し、調査地（2）で採集した個体と判断される。

・アカネズミ 1954 年採集標本

アカネズミについては HUNHM に所蔵されていないが、KUZ に仮剥製（軽川, 1954 年 8 月 18 日）、頭骨（軽川, 採集年次なし）が保管されており、これも調査地（1）で採集された個体の剥製と頭骨と考えられる。

・ドブネズミ 1954 年採集標本

該当する標本として、仮剥製 3 点【49842】～【49844】（軽川原野, 1954 年 8 月 18 日）及び頭骨 3 点【49896】～【49898】（軽川, 採集年次なし）がある。仮剥製と頭骨はおそらく対応するもので、調査地（1）で捕獲された 3 個体として取り扱ってよい。

・エゾヤチネズミ 1957 年採集標本

1957 年に採集された標本は、8 月に採集されたもののみが HUNHM に確認される。皮 3 点【49417】～【49419】（札幌手稲, 1957 年 8 月 22 日）が確認され、太田（1968）の記載と合致する。

・ヒメネズミ 1957 年採集標本

皮【49121】、【49122】(札幌手稲, 1957 年 8 月 22 日) が確認される。採集された 4 頭のうちの 2 点と考えられる。

・アカネズミ 1957 年採集標本

皮 5 点【49236】～【49240】(いずれも札幌手稲, 1957 年 8 月 22 日) の 5 点が存在し、太田の 2 頭採集という記述と矛盾する。この 5 点は同じ袋に保管されていたもので、【49236】と【49237】にのみ「1957.8.22, 手稲」の荷札が付属していることから、この 2 点が当該年月日に手稲山で採集されたもので、他の 3 点については標本台帳の採集情報を疑う必要がある。

9-7. 石狩山口

太田(1954, 1955a, 1968) が報告する石狩山口での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

調査地 (1)

石狩山口海岸の海岸砂丘防風林、標高 7m

植生：カシワ - クマイザサ

1954 年 8 月の調査でミカドネズミ 3 頭

調査地 (2)

石狩山口海岸の海岸砂丘、標高 7m

植生：ハマナス - ナガバグサ

エゾヤチネズミ 4 頭

・エゾヤチネズミ

HUNHM にはエゾヤチネズミ皮【49412】、【49413】、【49414】(山口村, 1954 年 8 月 23 日)、【49415】、【49416】(山口村, 1954 年 8 月 24 日) の 5 点が確認され、太田の 4 頭捕獲とする記載と合致しない。この理由として、標本に付属する荷札は捕獲当初に付与されたものと考えられるが、その記載のうち、【49414】と【49415】に「No.18」という同じ番号の記載があり情報が混乱している。これを誤って 4 点として報告した可能性がある。

・ミカドネズミ

ミカドネズミ皮【49254】(山口村, 1954 年 8 月 23 日)、【49255】、【49256】(山口村, 1954 年 8 月 24 日) の 3 点が確認され、太田の採集記録と合致する。ただし、エゾヤチネズミと同様にこれらの頭骨は現時点で確認できていない。

9-8. 雌阿寒岳

太田(1954, 1955a, 1968) は 1954 年 9 月 5 日 -6 日に雌阿寒岳足寄口で野ネズミ調査を行っている。

〔調査地と採集個体〕

調査地 (1)

高山帯ハイマツ林、標高 1000-1400m、太田(1954, 1956) の図では 1200m 付近

植生：カラマツ幼樹植生ハイマツ - ガンコウラン

ヒメネズミ 2 頭

調査地 (2)

針葉樹林帯、標高 700-1000m

植生：アカエゾマツ - コケ類

ヒメネズミ 3 頭、ミカドネズミ 1 頭、Sorex sp.1 頭、太田(1954 1956) では、ミカドネズミと Sorex sp. は 800m 付近、ヒメネズミは 700m 付近

調査地 (3)

針広混交林、標高 400-1000m、太田(1954, 1956) の図では 400m

植生：アカエゾマツ・トドマツ・シナノキ・ミズナラ - エゾミヤコザサ・スゲ

アカネズミ 1 頭、ヒメネズミ 5 頭、エゾヤチネズミ 1 頭

調査地 (4)

山火跡の造林地、標高 400m

植生：筋刈を施されたササ原

ヒメネズミ 1 頭、エゾヤチネズミ 1 頭

調査地 (5)

山火跡の造林地、標高 400m

落とし穴トラップ

ヒメネズミ 7 頭、エゾヤチネズミ 12 頭、ミカドネズミ 1 頭、Sorex sp.6 頭

・ヒメネズミ

HUNHM には雌阿寒岳で採集されたヒメネズミの皮が 12 点と頭骨が 14 点ある。これらのラベルにある注記を表 10 にまとめた。皮に付属する番号は、標高の高い所で採集された順に付与されている傾向があり、【49030】の G3 は調査地点 (2)、【49033】の No.6 は調査地点 (3) であると推測されるが、No.12 の【49039】の採集地が「アカエゾ林沢ふち」とあり、この個体が調査地点 (2) の採集個体である可能性を残すため、明確な判断を下すことは難しい。頭骨については、「ア-1」といった注記のある 7 点は落とし穴トラップで採集したものである。その他の 7 点については、【49210】と【49211】がともに「G8」の注記があるため、皮との明確な照合材料とする根拠に乏しい。頭骨標本については皮標本の採集日から「1954 年 9 月 5 日」と絞り込むことができる可能性はあるが、後述するエゾヤチネズミとミカドネズミの採集日が「9 月 6 日」となっており、皮標本の採集日に誤りがある可能性もあるため、7 日を削除するにとどめ「9 月 5-6 日」としておくことが妥当である。

落とし穴トラップで捕獲した 7 頭に対応する剥製、皮が確認されないことから、おそらく採集時の状態が悪かったものと推測される。落とし穴トラップによる採集を除外すると太田が雌阿寒岳の調査で採集したヒメネズミは 11 点になる。残されている皮標本が 12 点あることから、上述した No.12 の番号を持つ【49039】は報告に用いられなかった個体なのかもしれない。

表 10 太田嘉四夫が雌阿寒岳で採集したヒメネズミの注記一覧

			採集日	注記	
【49028】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	上部ハイマツ帯	G1
【49029】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	下部ハイマツ帯	G2
【49030】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日		G3
【49031】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	赤エゾ林	G4
【49032】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	赤エゾ林	G5
【49033】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日		No.6
【49034】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	針広混林	No.7
【49035】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	針広混林	No.8
【49036】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	針広混林	No.9
【49037】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	針広混林	No.10
【49038】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	カラマツ造林地	No.11
【49039】	ヒメネズミ	皮	1954 年 9 月 5 日	アカエゾ林ふち	No.12
【49209】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G7
【49210】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G8
【49211】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G8
【49212】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G12
【49213】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		-
【49214】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G
【49215】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日		G
【49216】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-1
【49217】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-2
【49218】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-3
【49219】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-4
【49220】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-5
【49221】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-6
【49222】	ヒメネズミ	頭骨	1954 年 9 月 5 日 -7 日	造林地落とし穴	ア-7

- ・エゾヤチネズミ

太田が採集したエゾヤチネズミは調査地(3)と(4)の各1頭と落とし穴トラップによる12頭である。仮剥製【49441】には「B1」、皮【49440】には「B2」とあり、ヒメネズミの番号配列から考えて【49441】が調査地(3)、【49440】が(4)で採集した個体と考えられるものの、確実なことは言えない。頭骨【49704】及び【49705】はそれぞれヒメネズミを示す「G1」、「G2」という包紙に包まれて保管されていたため、備考に「G (=geisha)」の記載があるが、市川の同定によってエゾヤチネズミとして登録されている。

頭骨【49666】～【49679】は「ア-1」から「ア-14」の注記があり、それぞれ「雌阿寒造林地, 1954年, 落とし穴より」という情報が付属している。落とし穴トラップによるエゾヤチネズミの捕獲数は12頭であることから、点数が合致しない。上述した2点の頭骨【49704】及び【49705】を含め、同定や管理に混乱が生じている可能性があることに注意が必要である。

- ・ミカドネズミ

太田は調査地(2)の針葉樹林帯と、(5)落とし穴トラップで1頭ずつミカドネズミを採集している。仮剥製【49275】と「針葉樹林」の注記がある頭骨【49319】が(2)で採集されたもので、「雌阿寒岳造林地落穴」とある頭骨【49320】が(5)で採集されたものである。

- ・アカネズミ

仮剥製【49246】(雌阿寒, 1954年7月5日)のラベルの採集日はインクがかすれており、書き足した部分が「7」に見えるが、薄れた部分は「9」と書いてあり、太田が調査地(3)で捕獲したアカネズミであると判断される。KUZに「雌阿寒, 太田, Sept.1954」の情報が付属する頭骨がある。破損しており、同定は難しいがおそらくアカネズミのものと推測され、【49246】の頭骨であろう。

- ・Sorex sp.

太田は調査地(2)針葉樹林帯と(5)落とし穴トラップで1頭ずつSorex sp.を捕獲している。阿部コレクションに破損したエゾトガリネズミ頭骨【51059】(雌阿寒岳, 1954年9月7日)がある。この標本には個体の外部計測値が付属していることから、落とし穴トラップで捕獲した個体ではなく、調査地(2)で捕獲したものと推測されるが、採集日は太田の調査日程の翌日になる。阿部のフィールドノート⁽⁵⁾によれば、阿部は1954年8月29日から9月6日まで足寄でネズミ調査をしており、7日に合流した際に太田から標本を譲り受け、採集日として記録したのかもしれない。

太田(1968)では、太田(1954, 1955a)以降に調査を行った雌阿寒岳東面(1958年及び1960年7月, ヒメネズミ2頭)、阿寒湖畔(8月, アカネズミ1頭)についての記録があるが、これらについてはHUNHMに残されていない。

9-9. 札幌白井岳

太田(1955a, 1968)が報告する札幌白井岳での調査結果は以下の通りである。

〔調査地と採集個体〕

針広混交天然林、標高 700-1000 m

植生：トドマツ・ダケカンバ・イタヤカエデ・ササ類

1954年10月の調査でアカネズミ1頭、ヒメネズミ4頭、ミカドネズミ1頭

〔標本〕

- ・ミカドネズミ

仮剥製【49285】(白井岳, 1954年10月2日)、頭骨【49318】(向井岳)がある。ミカドネズミは同一個体と判断され、【49318】の採集情報は「白井岳, 1954年10月2日」とする必要がある。

- ・ヒメネズミ

HUNHMには皮2点【49040】、【49041】(石狩白井岳, 1954年10月2日)がある。

KUZには「白井岳」採集とする皮標本3点があり、採集日もHUNHMと同じ「1954年10月2日」である。ただし、1点のラベルには「Ainu」、残りの2点に付属するラベル1に「A1」、「A2」とある。太田は1955年ごろまではアカネズミを「Apodemus ainu (= A)」、ヒメネズミを「Apodemus geisha (= G)」と表記していたので、太田の記載方法に基づけば、アカネズミの皮が3

(5) HUNHM_A_040100101210

点存在することになり、報告の結果と合致しない。太田（1968）ではアカネズミを「As (=Apodemus speciosus)」、ヒメネズミを「Aa (=Apodemus argenteus)」と変更しているため、ラベル1の「A」は「argenteus」であり、HUNHMのヒメネズミ2点とあわせて4点のヒメネズミと解釈できるかもしれない。しかし、【49040】のラベル1には「G2」、【49041】には「G3」とあるのでこの推測は成立しない。採集、同定、標本作成時と論文執筆時で判断が異なっていた可能性もあるが、判然としない。

・アカネズミ

HUNHMには白井岳で採集されたアカネズミは確認されない。

9-10. 札幌藻岩山（1954年）

太田（1954, 1955a, 1968）はいずれも札幌藻岩山の調査結果を報告しているが、それぞれ調査地、調査時期の表記が異なっている。まず、それぞれの情報を示して本稿で用いる調査地を整理する。

・太田（1954）

(1954-1) 天然林 広葉樹原生林 5月 ヒメネズミ 7頭 エゾヤチネズミ 1頭

(1954-2) 天然林 広葉樹原生林 6月 アカネズミ 3頭 ヒメネズミ 15頭 エゾヤチネズミ 5頭

・太田（1955a）

(1955-1) 天然林 広葉樹原生林 5月 ヒメネズミ 7頭 エゾヤチネズミ 1頭

(1955-2) 天然林 広葉樹原生林 6月 アカネズミ 2頭 ヒメネズミ 8頭 エゾヤチネズミ 2頭

(1955-3) 天然林 広葉樹原生林 10月 アカネズミ 2頭 ヒメネズミ 9頭 エゾヤチネズミ 3頭

(1955-4) 天然林 広葉樹原生林 11月 ヒメネズミ 8頭 エゾヤチネズミ 4頭

(1955-5) 天然林 広葉樹原生林 12月 アカネズミ 1頭 ヒメネズミ 13頭 エゾヤチネズミ 2頭

(1955-6) 天然林破壊跡二次林 広葉樹林伐採跡 6月 アカネズミ 1頭 ヒメネズミ 7頭 エゾヤチネズミ 3頭

(1955-7) 天然林破壊跡二次林 広葉樹林伐採跡 10月 ヒメネズミ 7頭 エゾヤチネズミ 2頭

(1955-8) 天然林破壊跡二次林 広葉樹林伐採跡 11月 ヒメネズミ 8頭 エゾヤチネズミ 2頭

(1955-9) 天然林破壊跡二次林 広葉樹林伐採跡 12月 ヒメネズミ 5頭 エゾヤチネズミ 2頭

(1955-10) 人工林幼樹（カラマツ）広葉樹林伐採跡 10月 エゾヤチネズミ 1頭

(1955-11) 人工林幼樹（カラマツ）広葉樹林伐採跡 11月 エゾヤチネズミ 1頭

(1955-12) 人工林幼樹（カラマツ）広葉樹林伐採跡 12月 エゾヤチネズミ 1頭

・太田（1968）

(1968-1) 広葉樹林（標高 200-400m）5-12月 アカネズミ 5頭 ヒメネズミ 45頭 エゾヤチネズミ 12頭

(1968-2) 天然林破壊跡二次植生（標高 100m）6-12月 アカネズミ 1頭 ヒメネズミ 27頭 エゾヤチネズミ 9頭

(1968-3) 人口造林地（標高 200m）10-12月 エゾヤチネズミ 3頭

太田（1968）は、太田（1955a）の3調査地の各月の捕獲頭数を一括して報告している。一方、太田（1954）の（1954-2）は、（1955-2）と（1955-6）の捕獲頭数を合算していると考えられ、異なる調査地点の情報が混在していることに留意が必要である。本稿では、最も詳細な太田（1955a）に基づいて検討することとし、調査地の表記は（1）～（12）とする。なお、後述するように太田らは1956年5月から2か月おきに藻岩山の野ネズミの変動調査を行っているが、ここで検討する対象は1954年の調査の結果である。

・エゾヤチネズミ

5月に採集されたエゾヤチネズミは仮剥製【49489】、頭骨【49619】（1954年5月18日）がある。（1）で捕獲された1個体の剥製と頭骨と考えられる。ただし、仮剥製には「No.1」、頭骨には「6」の番号が記載されているので、やや不審である。なお、【49489】のラベルの採集地には「藻岩山北面林中倒木の下 A.geisha とならんで」とある。KUZ保管のヒメネズミ仮剥製のうち、5月採集の個体に付属するラベルの採集地も「藻岩山北面林中倒木の下」とあることから、この2個体が同一の場所で採集されたことがうかがわれる。

11月採集標本は8点の皮【49383】～【49390】が確認される。11月の調査地（4）、（8）、（11）では計7頭のエゾヤチネズミが捕獲されたことになっており、太田の報告と齟齬が生じている。標本それぞれにラベル3が付属し「1954年11月」と明記されているので、太田の記載に誤りがあるか、別の月に採集された標本に誤った情報が記載されている可能性がある。

この他、1954年採集という情報のある頭骨が11点【49609】～【49620】があり、「藻-1」から「藻-8」、「B-4」、「B-5」、「B-7」の注記がある。11点すべてが1回の調査で採集されたものではない可能性があるが、いずれの調査で採集されたものであるかは

明らかにならない。

なお、太田（1956b）が厚岸大黒島のエゾヤチネズミの分類学的再検討の材料として示した藻岩山産の2点の剥製と、2点の頭骨（表9）のうち、1号標本の情報が仮剥製【49489】に付属する採集番号、計測値と合致することから、該当させられる。8号標本については該当するものを見出しえていない。頭骨は付属する採集番号から【49619】と【49613】が該当するものと思われるが、確実とは言えない。

・ヒメネズミ

1954年10月に藻岩山で採集されたヒメネズミの皮16点【49042】～【49057】が確認された。この16点は茶封筒にまとまっていたもので、封筒中には「♂,モイワ山伐開地,'54.10.5」、「♂j,モイワ山下の林内,'54.10.5」、「♀,モイワ山林内,'54.10.5」の3枚のラベルが含まれていた。受入れ時の整理では、共通している「藻岩山」、「1954年10月5日」の情報を16点すべてに付与したが、妥当であるかどうかは留保せざるを得なかった。太田は（3）と（7）でヒメネズミ16頭を採集していることから、どちらの採集地であるかは判然としないものの、標本情報としては信頼してよいものと考えられる。

11月に採集されたヒメネズミは、皮15点【49058】～【49072】が確認された。これらも「モイワ山,1954年11月」とあるラベル3が封筒の中に1枚含まれていたものである。太田は（4）、（8）でヒメネズミ16頭を採集しており、1頭不足しているが対応するものと考えてよいだろう。

12月に採集されたヒメネズミは仮剥製3点【49130】～【49132】である。これらにはそれぞれラベル3が付属し、共通の採集情報が記載されている。（5）、（9）では18頭のヒメネズミが採集されているので、15点不足することになる。

5月、6月の採集標本はHUNHMには確認できなかったが、KUZに5月採集の仮剥製1点、6月採集の仮剥製4点が保管されており、一部が残存している。

・アカネズミ

太田らが1954年に藻岩山で採集したアカネズミは6頭であるが、HUNHM、KUZともにこれに該当する採集情報を持つ標本は確認できなかった。

9-11. 札幌藻岩山（1956年-1957年長期モニタリング）

太田らは、野外における野ネズミとトガリネズミの長期的変動を調査するため、藻岩山において1956年5月から2か月おきに採集調査を実施していた（太田ら1959;阿部1957）。阿部が報告した第1回調査から第6回調査までの採集結果を表11に示す。

当該期の標本は、阿部コレクションにヒメネズミ6点、エゾヤチネズミ1点、エゾトガリネズミ20点、オオアシトガリネズミ5点の計32点が確認される。ただし、阿部の報告では1956年5月、7月にはオオアシトガリネズミ、9月にエゾトガリネズミが採集されていないにもかかわらず、当該月の標本が確認されること、1957年1月、3月も報告点数を超える標本が現存する。阿部のフィールドノート⁽⁶⁾の1956年7月の記載では「太田調査手伝いモイワ山第2回」とあり、阿部が所持していた藻岩山の標本は、太田との共同調査の結果ではなく、阿部個人の調査採集標本であるとみられる。一方、動物学教室旧蔵標本には、1956年11月採集のミカドネズミ仮剥製【49283】、1957年1月採集のミカドネズミ仮剥製【49284】と頭骨【49304】（1957年1月13日、藻岩山林内）があり、これらは表11の採集点数と合致する。ここから、太田らによる藻岩山での調査標本は、太田が所持していたものとみられる。ただし、以下に示す問題がある。

動物学教室旧蔵標本には、5月採集のヒメネズミ皮33点【49088】～【49120】、頭骨12点【49161】～【49172】が確認される。これらには太田が利用していた荷札が付属し、皮と頭骨を対応させるためと考えられる採集番号の記載がある。最も大きな番号は皮【49120】、頭骨【49172】に付属する「40」である。ここから、少なくとも40頭のヒメネズミが採集されていたと予想されるが、太田ら（1959）及び阿部（1957）では同月のヒメネズミ採集頭数は13頭に過ぎない。このヒメネズミ標本には採集番号のみが記載されており、採集日情報は標本をまとめて保存していた封筒に記載されていたものを45点の標本に付与したものであることから、混乱が生じている可能性がある。これらすべてが5月採集標本ではなく、調査期間全期間で採集したヒメネズミであるとも考えることも可能であるが、調査期間中で採集されたヒメネズミは125頭であり、また特定の月で40頭採集した記録もない。当該期のエゾヤチネズミの標本もまったく確認されないことから、長期調査の採集標本は少なくとも体系立てた形で保存されていなかった可能性が高い。

なお、阿部（1966）も藻岩山での採集記録と考えられる捕獲数を示しているが、これに対応する標本も確認できていない。章末目録では、1958年以前に藻岩山で採集されたという情報を持つ標本を示すこととする。

太田（1968）が示す、1950年代後半から1960年にかけて実施した補足調査地点である十勝鹿追村、然別沼付近、網走トウフツ海岸、渡島松前町で採集した野ネズミの標本は残されていない。

(6) HUNHM_A_040100101211

表 11 藻岩山における採集記録 (1956 年 5 月 -1957 年 3 月) における藻岩山 (阿部 1957 第 1 表を改変)

		5 月	7 月	9 月	11 月	1 月	3 月
カラマツ造林地	ヒメネズミ	0	4	7	2	1	0
	アカネズミ	0	1	0	0	0	0
	エゾヤチネズミ	0	1	2	2	8	4
	エゾトガリネズミ	0	0	0	0	2	3
伐開跡地	ヒメネズミ	11	24	14	7	0	1
	アカネズミ	0	1	1	0	0	0
	エゾヤチネズミ	1	4	4	4	10	2
	エゾトガリネズミ	0	0	0	0	6	1
	オオアシトガリネズミ	0	0	0	0	2	1
	ドブネズミ	0	1	0	0	0	0
天然林	ヒメネズミ	2	24	17	4	1	6
	アカネズミ	0	3	2	2	0	0
	エゾヤチネズミ	1	4	1	8	4	3
	ミカドネズミ	0	0	0	1	1	0
	エゾトガリネズミ	0	0	0	0	2	1

9. 太田嘉四夫による北海道内各地の野ネズミ調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ : Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49439	1	female	中標津開陽担当区 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.08.05 → [1954.05.08]	太田嘉四夫	No.9	→ [HUNHM49595 の Skin カ]
HUNHM49596	2	- → [female カ]	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08 → [1954.05.08 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49439 の Skull カ]
HUNHM49449	1	-	苫小牧 → [北大苫小牧演習林カ]	1954.05.25	太田嘉四夫	-	
HUNHM49450	1	-	苫小牧	1954.05.26	太田嘉四夫	-	
HUNHM49692	2	-	苫小牧	1954.05.25-26	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49693	2	-	苫小牧	1954.05.25-26	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49455	1	male	石狩金沢原野泥炭排水溝縁	1954.05.31	太田嘉四夫	-	→ [HUNHM49689 の Skin カ] / 太田 (1956b) 引用
HUNHM49689	2	-	石狩当別金沢	-	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49455 の Skull カ]
HUNHM49480	1	male	札幌円山	1954.06.09	太田嘉四夫	-	太田 (1954 他) は 1954.05. と する
HUNHM49481	1	female	札幌円山	1954.06.09	太田嘉四夫	-	太田 (1954 他) は 1954.05. と する
HUNHM49427	1	male	野塚 → [広尾豊似野塚]	1954.08.03	太田嘉四夫	1	
HUNHM49428	1	male	野塚 → [広尾豊似野塚]	1954.08.03	太田嘉四夫	2	
HUNHM49429	1	female	下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.04	太田嘉四夫	3	
HUNHM49430	1	male	下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.04	太田嘉四夫	4	
HUNHM49431	1	male	下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.04	太田嘉四夫	5	
HUNHM49432	1	male	下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.04	太田嘉四夫	6	
HUNHM49405	1	male	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-
HUNHM49406	1	-	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-
HUNHM49433	1	male	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-
HUNHM49434	1	female	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-
HUNHM49435	1	female	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-
HUNHM49436	1	male	十勝下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.06	太田嘉四夫	-	-

HUNHM49680	2	-	広尾町豊似下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.04-05 力] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49681	2	-	広尾町豊似下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.04-05 力] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49682	2	-	広尾町豊似下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.04-05 力] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49683	2	-	広尾町豊似下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.04-05 力] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49684	2	-	広尾町豊似下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.04-05 力] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49483	1	female	札幌軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.17	太田嘉四夫	-	
HUNHM49484	1	male	札幌軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.17	太田嘉四夫	-	
HUNHM49485	1	male	札幌軽川樽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.18	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49486	1	male	札幌軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.18	太田嘉四夫	No.21	
HUNHM49487	1	female	札幌軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.18	太田嘉四夫	-	
HUNHM49488	1	male	札幌軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.18	太田嘉四夫	-	
HUNHM49598	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.00 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49599	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.01 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49600	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.02 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49601	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.03 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49602	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.04 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49603	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.05 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49604	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.06 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49605	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.07 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49606	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.08 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49607	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.09 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49608	2	-	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.00.10 → [1954.08.17-18] → [太田嘉四夫]	K.O.		他調査採集標本混入可能性有
HUNHM49412	1	female	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.23	太田嘉四夫	No.10	
HUNHM49413	1	female	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.23	太田嘉四夫	No.14	
HUNHM49414	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.23	太田嘉四夫	No.18	
HUNHM49415	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.24	太田嘉四夫	No.18	
HUNHM49416	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.24	太田嘉四夫	No.21	
HUNHM49441	1	male	雌阿寒岳	1954.09.06	太田嘉四夫	B-1	
HUNHM49704	2	-	雌阿寒岳	1954.09.05-07 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	G-1	
HUNHM49705	2	-	雌阿寒岳	1954.09.05-07 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	G-2	
HUNHM49666	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -1	
HUNHM49667	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -2	
HUNHM49668	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -3	
HUNHM49669	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -4	

HUNHM49670	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -5
HUNHM49671	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -6
HUNHM49672	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -7
HUNHM49673	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -8
HUNHM49674	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -9
HUNHM49675	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -10
HUNHM49676	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -11
HUNHM49677	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -12
HUNHM49678	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -13
HUNHM49679	2	-	雌阿寒造林地	1954.00.00 → [1954.09.05-06] → [太田嘉四夫]	K.O.	ア -14
HUNHM49489	1	male	札幌藻岩山北面林中倒木下	1954.05.18	太田嘉四夫	No.1
HUNHM49383	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49384	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49385	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49386	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49387	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49388	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49389	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49390	1	-	札幌藻岩山	1954.11.00	太田嘉四夫	-
HUNHM49609	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -1
HUNHM49610	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -2
HUNHM49611	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -3
HUNHM49612	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -4
HUNHM49613	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -5
HUNHM49614	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -6
HUNHM49615	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -7
HUNHM49616	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -8
HUNHM49617	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	モ -4
HUNHM49618	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	藻 -5
HUNHM49619	2	-	札幌藻岩山	1954.05.18	K.O. → [太田嘉四夫]	モイワ -6
HUNHM49620	2	-	札幌藻岩山	1954.00.00	K.O. → [太田嘉四夫]	モ -7
HUNHM49418	1	-	手稲 → [手稲山]	1957.08.22	太田嘉四夫	3-1
HUNHM49419	1	-	手稲 → [手稲山]	1957.08.22	太田嘉四夫	-
HUNHM49417	1	-	手稲 → [手稲山]	- → [1957.08.22 カ]	太田嘉四夫	6-2

<i>Myodes rutilus</i>			ヒメヤチネズミ：Northern Red-backed Vole				
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49278	1	female	中標津マタオチ → [中標津開陽担当区俣落]	1954.09.05 → [1954.05.09]	太田嘉四夫	-	
HUNHM49279	1	male	中標津マタオチ → [中標津開陽担当区俣落]	1954.09.05 → [1954.05.09]	太田嘉四夫	-	
HUNHM49280	1	male	中標津開陽担当区 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.07.05 → [1954.05.07]	太田嘉四夫	-	
HUNHM49321	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08 → [1954.05.07-09] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49322	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08 → [1954.05.07-09] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49323	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08 → [1954.05.07-09] → [太田嘉四夫]	K.O.	-	
HUNHM49286	1	male	軽川 → [札幌手稲軽川]	1954.08.17	太田嘉四夫	-	
HUNHM49254	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.23	太田嘉四夫	No.41	

HUNHM49255	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.24	太田嘉四夫	No.38	
HUNHM49256	1	male	山口村 → [石狩山口村]	1954.08.24	太田嘉四夫	No.66	
HUNHM49275	1	male	雌阿寒	1954.09.06	太田嘉四夫	M-1	→ [HUNHM49319 の Skin カ]
HUNHM49319	2	-	雌阿寒岳針葉樹林	1954.09.00 → [1954.09.06 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49275 の Skull カ]
HUNHM49320	2	-	雌阿寒岳造林地落し穴	- → [1954.09.05-06]	K.O. → [太田嘉四夫]	ア M-1	
HUNHM49285	1	-	白井岳	1954.10.02	太田嘉四夫	-	→ [HUNHM49318 の Skin カ]
HUNHM49318	2	-	向井岳 → [白井岳]	- → [1954.10.02]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49285 の Skull カ]
HUNHM49283	1	male	札幌藻岩山	1956.11.30	太田嘉四夫	M-1	
HUNHM49284	1	male	札幌藻岩山林内	1957.01.13	太田嘉四夫	No.2	→ [HUNHM49304 の Skin カ]
HUNHM49304	2	male	札幌藻岩山林内	1957.01.13	K.O. → [太田嘉四夫]	No.2	→ [HUNHM49284 の Skull カ]

Apodemus argenteus

ヒメネズミ：Small Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49223	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49224	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49225	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49226	2	-	中標津 → [中標津開陽担当区俣落]	1954.05.06-08	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49140	1	female	苫小牧 → [北大苫小牧演習林]	1954.05.25	太田嘉四夫	-	
HUNHM49141	1	female	苫小牧 → [北大苫小牧演習林]	1954.05.24	太田嘉四夫	-	
HUNHM49206	2	-	苫小牧 → [北大苫小牧演習林]	1954.05.25-27 → [1954.05.24-25 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49207	2	-	苫小牧 → [北大苫小牧演習林]	1954.05.25-27 → [1954.05.24-25 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49123	1	male	石狩金沢岡の林中	1954.05.31	太田嘉四夫	-	
HUNHM49124	1	male juv.	石狩金沢岡の林中	1954.05.31	太田嘉四夫	-	
HUNHM49125	1	female juv.	石狩金沢岡の林中	1954.05.31	太田嘉四夫	-	
HUNHM49199	2	juv.	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49200	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49201	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49202	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49203	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49204	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49205	2	-	石狩当別金沢	- → [1954.05.31 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	
HUNHM49028	1	male	雌阿寒岳上部ハイマツ帯	1954.09.05	太田嘉四夫	G-1	
HUNHM49029	1	female	雌阿寒岳下部ハイマツ帯	1954.09.05	太田嘉四夫	G-2	
HUNHM49030	1	female	雌阿寒岳	1954.09.05	太田嘉四夫	G-3	
HUNHM49031	1	male	雌阿寒岳赤エゾ林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	G-4	
HUNHM49032	1	male	雌阿寒岳赤エゾ純林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	G-5	
HUNHM49033	1	male	雌阿寒岳	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.6	
HUNHM49034	1	male	雌阿寒岳針広混林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.7	
HUNHM49035	1	female	雌阿寒岳針広混林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.8	
HUNHM49036	1	female	雌阿寒岳針広混林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.9	
HUNHM49037	1	female	雌阿寒岳針広混林	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.10	
HUNHM49038	1	female	雌阿寒岳カラマツ造林地	1954.09.05	K.O. → [太田嘉四夫]	No.11	
HUNHM49039	1	female	雌阿寒岳アカエゾ林沢縁	1954.09.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.12	

[illegible]

HUNHM49091	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	4
HUNHM49092	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	5
HUNHM49093	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	6
HUNHM49094	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	7
HUNHM49095	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	8
HUNHM49096	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	9
HUNHM49097	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	10
HUNHM49098	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	11
HUNHM49099	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	12
HUNHM49100	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	16
HUNHM49101	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	17
HUNHM49102	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	18
HUNHM49103	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	19
HUNHM49104	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	20
HUNHM49105	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	21
HUNHM49106	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	22
HUNHM49107	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	24
HUNHM49108	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	25
HUNHM49109	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	26
HUNHM49110	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	27
HUNHM49111	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	28
HUNHM49112	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	29
HUNHM49113	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	31
HUNHM49114	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	33
HUNHM49115	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	35
HUNHM49116	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	36
HUNHM49117	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	37
HUNHM49118	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	38
HUNHM49119	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	39
HUNHM49120	1	-	札幌藻岩山	1956.05.00	K.O. → [太田嘉四夫]	40
HUNHM49161	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	1
HUNHM49162	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	3
HUNHM49163	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	11
HUNHM49164	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	12
HUNHM49165	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	22
HUNHM49166	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	24
HUNHM49167	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	26
HUNHM49168	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	27
HUNHM49169	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	28
HUNHM49170	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	35
HUNHM49171	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	36
HUNHM49172	2	-	札幌藻岩山	1956.05.00	太田嘉四夫	40
HUNHM49129	1	female	札幌藻岩山造林地	1956.09.12	太田嘉四夫	-
HUNHM49121	1	-	札幌手稲	1957.08.22	K.O. → [太田嘉四夫]	No.1
HUNHM49122	1	-	札幌手稲	1957.08.22	K.O. → [太田嘉四夫]	No.2
HUNHM49126	1	male	札幌藻岩山	1957.05.08	太田嘉四夫	-
HUNHM49127	1	male	札幌藻岩山	1957.05.08	太田嘉四夫	-
HUNHM49128	1	female	札幌藻岩山	1957.05.08	太田嘉四夫	-

Apodemus speciosus

アカネズミ : Large Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49246	1	male	雌阿寒	1954.07.05 → [1954.09.05]	太田嘉四夫	A1	
HUNHM49236	1	-	手稲 → [手稲山]	1957.08.22	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49237	1	-	手稲 → [手稲山]	1957.08.22	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49238	1	-	手稲	1957.08.22	太田嘉四夫	-	データ混乱の可能性大
HUNHM49239	1	-	手稲	1957.08.22	太田嘉四夫	-	データ混乱の可能性大
HUNHM49240	1	-	手稲	1957.08.22	太田嘉四夫	-	データ混乱の可能性大

Rattus norvegicus

ドブネズミ : Brown Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49842	1	female	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	1954.08.18	太田嘉四夫	-	

HUNHM49843	1	male	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	1954.08.18	太田嘉四夫	-
HUNHM49844	1	male	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	1954.08.18	太田嘉四夫	-
HUNHM49896	2	-	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	- → [1954.08.18]	K.O. → [太田嘉四夫]	N-1
HUNHM49897	2	-	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	- → [1954.08.18]	K.O. → [太田嘉四夫]	N-2
HUNHM49898	2	-	札幌軽川原野 → [札幌手稲軽川原野]	- → [1954.08.18]	K.O. → [太田嘉四夫]	N-3

Rattus rattus**クマネズミ : Roof Rat**

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49937	1	female	苫小牧演習林住宅	1954.05.24	太田嘉四夫	1	採集日混乱可能性有
HUNHM49938	1	female	苫小牧演習林住宅	1954.05.24	太田嘉四夫	2	採集日混乱可能性有
HUNHM49943	2	-	苫小牧 → [苫小牧演習林住宅]	1954.05.25	K.O. → [太田嘉四夫]	-	採集日混乱可能性有
HUNHM49944	2	-	苫小牧 → [苫小牧演習林住宅]	1954.05.25	K.O. → [太田嘉四夫]	-	採集日混乱可能性有
HUNHM49939	1	-	十勝広尾下野塚 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.05	太田嘉四夫	-	→ [HUNHM49945 の Skin カ]
HUNHM49945	2	-	豊似 → [広尾豊似下野塚]	1954.08.00 → [1954.08.05 カ]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49939 の Skull カ]

10. 芳賀良一による厚賀の鼠害調査 (1954 年 -1955 年)

1954 年に北海道太平洋沿岸の広範囲にわたってミヤコザサの開花結実がみられ、これに伴う鼠害の拡大が発生した。これに対応するため、芳賀良一は札幌営林局厚賀経営区第 115 林班と帯広営林局足寄経営区第 123 林班を対象にして、ササ枯れ地における野ネズミの生息数の変動調査を実施した（芳賀 1955b; 芳賀ら 1956）。芳賀ら（1956）によれば、厚賀調査区における調査は表 12 に示した 6 回実施された。

表 12 芳賀良一による厚賀の野ネズミ調査日程

	開始日	終了日
第 1 回調査	1954 年 7 月 31 日	1954 年 8 月 7 日
第 2 回調査	1954 年 10 月 29 日	1954 年 11 月 2 日
第 3 回調査	1955 年 1 月 14 日	1955 年 1 月 20 日
第 4 回調査	1955 年 3 月 30 日	1955 年 4 月 3 日
第 5 回調査	1955 年 7 月 9 日	1955 年 7 月 15 日
第 6 回調査	1955 年 10 月 9 日	1955 年 10 月 12 日

芳賀らの調査は生息数の推定であるため、厚賀の広葉樹皆伐跡地では、6 回の調査でエゾヤチネズミ 6 頭、アカネズミ 12 頭、ヒメネズミ 10 頭、カラマツ造林地ではエゾヤチネズミ 3 頭、アカネズミ 2 頭、ヒメネズミ 2 頭を捕獲実数として報告するのみである（芳賀ら 1956 表 1）。一方、調査協力者の阿部永のフィールドノート⁽⁷⁾に従えば、阿部は第 1 回調査の前半と第 2、3、5 回調査に加わっており、第 1 回調査の 1954 年 7 月 31 日にエゾヤチネズミ 6 頭、アカネズミ 8 頭、ヒメネズミ 6 頭、8 月 1 日にエゾヤチネズミ 3 頭、アカネズミ 2 頭、ヒメネズミ 3 頭、2 日にエゾヤチネズミ 1 頭、アカネズミ 3 頭、3 日にエゾヤチネズミ 2 頭、アカネズミ、ヒメネズミ各 1 頭を捕獲していたようである。ただし、7 月 31 日の捕獲個体には B・A・G の種記号に加えて番号が記載されている（図 19）ことから、おそらくは記号放逐調査を実施していたものと考えられる。この結果と芳賀ら（1956）の述べる捕獲実数との関係は明確にならない。

この調査場所、日程に対応する採集情報を持つ HUNHM 所蔵標本は、第 1 回調査にあたる 1954 年 7 月 31 日から 8 月 1 日に採集されたエゾヤチネズミ仮剥製 9 点【08370】、【08374】、【08376】、【08379】、【08381】、【08382】、【08384】、【08386】、【08392】と第 6 回調査にあたる 1955 年 10 月 10 日に採集された仮剥製【08417】、10 月 12 日に採集されたエゾヤチネズミ胎児液浸【45666】及びヒメネズミ胎児液浸【45665】である。

この他、表 13 に示したように「厚賀」で採集されたことは記載されているものの、採集日が「3/8」、「5/8」という形でのみ記載されている標本が 20 点存在する。これらの標本はいずれもラベル 4 を利用して情報が記載されており、記載者は同一であると考えられること、採集番号が記載されており、番号順に配列すると、7 月 31 日、8 月 1 日の採集番号と連続することから採集日を「8 月 3 日」、「8 月 5 日」と解釈できる。よって、これらは第 1 回調査である 1954 年の採集標本と評価してよい。

また、エゾヤチネズミ胎児液浸【45664】には「厚賀、第 6 回」という情報が付属していることから、この採集日は第 6 回調査の「1955 年 10 月 9 日 -12 日」という採集日情報を付記することが可能である。

アカネズミ仮剥製【08331】は「厚賀, No.27, ■ -9, 12 日」、【08330】には「厚賀, A16, 1-7, 14 日」という情報がラベル 4 にある。記載方法の共通性から、この 2 点は同じ調査での採集標本と考えられ、この日付を含む第 5 回調査の採集標本である可能性があらものの、断言するには根拠が乏しい。ただし、芳賀らによる厚賀調査の採集標本として扱うことは許されるだろう。

芳賀が HUNHM 在職中に調査、採集した標本は、上記した農業試験場のドブネズミを含め、HUNHM の所蔵標本としてラベル 4 を利用して管理されている傾向がある。HUNHM 旧蔵標本には「厚賀」という採集地の記載はないものの、類似の記載を持つ標本が若干確認される。ただし、これらの採集情報を復元することは現時点で困難である。

なお、阿部（1966）は 1955 年 7 月から 1956 年 8 月にかけて厚賀でエゾヤチネズミ 16 頭、アカネズミ 6 頭、ヒメネズミ 6 頭を捕獲したとするが、阿部コレクションを含めてこの時期の採集標本を確認することはできない。

図 19. 阿部のフィールドノート
厚賀における採集記録

(7) HUNHM_A_040100101209, 1210, 1211, 1224

表 13 「厚賀」採集標本の採集日と採集番号

		採集地	採集日	ラベルの採集番号
【08392】	エゾヤチネズミ	厚賀元神戸	1954 年 7 月 31 日	1
【08370】	エゾヤチネズミ	厚賀元神戸	1954 年 7 月 31 日	2
【08379】	エゾヤチネズミ	厚賀元神戸	1954 年 7 月 31 日	4
【08386】	エゾヤチネズミ	厚賀元神戸	1954 年 7 月 31 日	5
【08374】	エゾヤチネズミ	厚賀	1954 年 8 月 1 日	7
【08384】	エゾヤチネズミ	厚賀	1954 年 8 月 1 日	9
【08376】	エゾヤチネズミ	厚賀	1954 年 8 月 1 日	10
【08381】	エゾヤチネズミ	厚賀	1954 年 8 月 1 日	11
【08382】	エゾヤチネズミ	厚賀	1954 年 8 月 1 日	12
【08405】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	13
【08367】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	14
【08410】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	15
【08368】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	16
【08348】	エゾヤチネズミ	日高門別厚賀	-8 月 3 日	17
【08389】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	18
【08388】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	19
【08371】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 3 日	20
【08323】	アカネズミ	厚賀	-8 月 3 日	A-2
【08383】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 4 日	22
【08394】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 4 日	23
【08347】	エゾヤチネズミ	日高門別厚賀	-8 月 4 日	24
【08377】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 4 日	25
【08393】	エゾヤチネズミ		-8 月 4 日	26
【08372】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 5 日	27
【08366】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 5 日	28
【08387】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 5 日	30
【08396】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 6 日	32
【08402】	エゾヤチネズミ	厚賀	-8 月 6 日	33
【08315】	ヒメネズミ	厚賀	-8 月 6 日	G-1
【08330】	アカネズミ	厚賀	-14 日	A-16, I-7
【08331】	アカネズミ		-12 日	27, ■ -9
【08417】	エゾヤチネズミ	厚賀	1955 年 10 月 10 日	1
【45664】	エゾヤチネズミ	厚賀	-	2
【45666】	エゾヤチネズミ	厚賀	1955 年 10 月 12 日	3
【45665】	ミカドネズミ	厚賀	1955 年 10 月 12 日	G2

10. 芳賀良一による厚賀のネズミ調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08347	1	female	日高門別厚賀	0000.08.04 → [1954.08.04]	- → [芳賀良一]	No.24	
HUNHM08348	1	male	日高門別厚賀	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.17	
HUNHM08366	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.05 → [1954.08.05]	- → [芳賀良一]	No.28	
HUNHM08367	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.14	
HUNHM08368	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.16	
HUNHM08370	1	female	厚賀元神戸 → [日高門別厚賀]	1954.07.31 → [芳賀良一]	-	No.2	
HUNHM08371	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.20	
HUNHM08372	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.05 → [1954.08.05]	- → [芳賀良一]	No.27	
HUNHM08374	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	1954.08.01 → [芳賀良一]	-	No.7	
HUNHM08376	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	1954.08.01 → [芳賀良一]	-	No.10	
HUNHM08377	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.04 → [1954.08.04]	- → [芳賀良一]	No.25	
HUNHM08379	1	male	厚賀元神戸 → [日高門別厚賀]	1954.07.31 → [芳賀良一]	-	No.4	
HUNHM08381	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	1954.08.01 → [芳賀良一]	-	No.11	
HUNHM08382	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	1954.08.01 → [芳賀良一]	-	No.12	
HUNHM08383	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.04 → [1954.08.04]	- → [芳賀良一]	No.22	
HUNHM08384	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	1954.08.01 → [芳賀良一]	-	No.9	
HUNHM08386	1	female juv.	厚賀元神戸 → [日高門別厚賀]	1954.07.31 → [芳賀良一]	-	No.5	
HUNHM08387	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.05 → [1954.08.05]	- → [芳賀良一]	No.30	
HUNHM08388	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.19	
HUNHM08389	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.18	
HUNHM08392	1	female	厚賀元神戸 → [日高門別厚賀]	1954.07.31 → [芳賀良一]	-	No.1	
HUNHM08393	1	female	- → [日高門別厚賀]	0000.08.04 → [1954.08.04]	- → [芳賀良一]	No.26	
HUNHM08394	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.04 → [1954.08.04]	- → [芳賀良一]	No.23	
HUNHM08396	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.06 → [1954.08.06]	- → [芳賀良一]	No.32	
HUNHM08402	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.06 → [1954.08.06]	- → [芳賀良一]	No.33	
HUNHM08405	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.13	
HUNHM08410	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	No.15	
HUNHM08417	1	female	厚賀 → [日高門別厚賀]	1955.10.10 → [芳賀良一]	-	B-1	
HUNHM45664	4	fetal	厚賀 → [日高門別厚賀]	- → [1955.10.10-12]	- → [芳賀良一]	B-2	
HUNHM45666	4	fetal	厚賀 → [日高門別厚賀]	1955.10.12 → [芳賀良一]	-	B-3	

Apodemus argenteus

ヒメネズミ : Small Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08315	1	fetal	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.06 → [1954.08.06]	- → [芳賀良一]	G-1	
HUNHM45665	4	fetal	厚賀 → [日高門別厚賀]	1955.10.12	- → [芳賀良一]	G-2	

Apodemus speciosus

アカネズミ : Large Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08323	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.08.03 → [1954.08.03]	- → [芳賀良一]	A-2	
HUNHM08330	1	male	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.00.14	- → [芳賀良一]	A16/1-7	
HUNHM08331	1	-	厚賀 → [日高門別厚賀]	0000.00.12	- → [芳賀良一]	No.27/ ■ -9	

11. 太田嘉四夫らによる離島のネズミ調査（1955 年・1958 年）

太田（1956b, 1968; 太田・高津 1957）は 1955 年から 1958 年にかけて、北海道の離島のネズミの分布や生態的棲み分け調査を実施していた。以下、島ごとに採集標本の現状について検討してゆく。

11-1. 焼尻島

太田（1956b）は焼尻島のネズミ分布調査を行うにあたって、1950 年に犬飼哲夫が入手した若干の標本のみを利用して検討した。これらの採集結果は、その調査方法、努力量に問題があった可能性を踏まえ、太田は 1958 年 7 月に焼尻島及び天売島において補足調査を実施した（太田 1968）。

〔1950 年採集標本〕

1950 年に犬飼が入手し、太田が利用していた標本は、現地から送付されたドブネズミ 10 点、エゾヤチネズミ 2 点である。このうち、HUNHM に現存が確認されるものは、ドブネズミ仮剥製【49841】（焼尻島, 1950 年 9 月 10 日）のみである。

〔1958 年採集標本〕

1958 年 7 月による太田の現地調査では、エゾヤチネズミ 4 頭、ドブネズミ 2 頭が捕獲された。ただし、太田（1968）の表 5 においてはエゾヤチネズミ 3 頭しか言及されておらず、やや疑問が残る。これらに対応する標本は、エゾヤチネズミ頭骨【49694】（雌, 焼尻島, 1958 年 7 月, No.18）と、エゾヤチネズミ頭骨【49695】（雄, 焼尻島, No.16）である。後者には採集年次の記載がないが、同じ筆跡によるメモが付属すること、同時に実施した天売島の調査でエゾヤチネズミが 15 頭採集されており、メモに記載されている番号が一連の番号であると評価できることから、太田の採集標本と判断される。

KUZ に 1958 年 7 月 4 日及び 5 日に焼尻島で採集されたエゾヤチネズミ仮剥製が保管されている。4 日採集標本には「No.16」、5 日採集標本には「No.18」とあり、採集番号の合致から【49695】、【49694】の剥製と考えられる。ただし、剥製にはいずれも雄個体である注記があるのに対し、【49694】に付属するメモでは雌個体となっており、情報の混乱がみられる。

この他、ドブネズミ皮【49824】（焼尻島, 1958 年 7 月 4 日）とドブネズミ頭骨【49881】（雌, 焼尻島, No.1）がある。太田の調査では 2 頭が捕獲されていたとするので、この皮と頭骨が同一個体のものであるかは、明確にしない。また、エゾヤチネズミの場合は、天売島での採集と連続した番号が用いられていたと推測されるのに対し、ドブネズミは連続していない点にやや疑問が残る。

11-2. 天売島

太田（1956b）は 1955 年春から冬にかけて同島中学校教諭の村田英二によって行われた調査結果に基づいて、太田（1968）は村田の調査結果と 1958 年 7 月に自身で実施した調査に基づいて天売島のネズミ分布を報告している。

〔1955 年採集標本〕

1955 年に行われた調査では、同島の三段の海生段丘の二段目で 4 月にエゾヤチネズミ雌雄各 1 頭、10 月 22 日にエゾヤチネズミ 1 頭が捕獲された。8 月に段丘二段目の蔬菜畑のネズミ駆除のためにフラトール団子が散布された結果、ドブネズミ 3 頭の死体が回収され、10 月 22 日には一段目の段丘の沢において 8 頭のドブネズミが捕獲されている。

HUNHM にはエゾヤチネズミ仮剥製【49458】（雄, 採集地情報なし, 1955 年 4 月 23 日, 村田英二, No.2）があり、採集者名と採集日から、天売島の採集標本と考えてよいだろう。

KUZ には【49458】と同じ村田英二の標本タグに「雌, 1955 年 4 月 23 日, 村田英二, No.1」の情報をもつエゾヤチネズミ仮剥製があり、報告で言及された標本であることが確認される。また、別のエゾヤチネズミ皮に「天売島, 1955 X, 2-10」の荷札が付属しており、これは 10 月に採集された標本であると推測される。

ドブネズミ皮【49820】～【49823】の 4 点には、いずれも KUZ のエゾヤチネズミ皮と同じ「天売島, 1955 X」の荷札があり、捕獲された 8 頭に含まれるものだろう。なお、この標本には採集者の情報がなく、太田の標本箱に保管されていたことから、現行標本台帳では太田嘉四夫採集としてきたが、正確には村田英二の採集標本であり、修正する必要がある。また、太田（1968）は言及していないが、村田によって 1957 年 5 月 10 日に「天売島グランド上（カラマツ林）」で捕獲されたドブネズミ頭骨【49880】も太田は入手していた。

〔1958 年採集標本〕

1958 年 7 月における太田の調査では、天然林破壊跡の二次植生地でエゾヤチネズミ 15 頭（標高 70m の植生ヒロハノキハダ - エゾヨモギ・オオイタドリで 3 頭、標高 40-100m の植生クマイザサ - イワヨモギ、オオイタドリ - エゾヨモギで 12 頭）及びドブネズミ 1 頭が採集されている。

この情報に合致するものとして、阿部コレクションに含まれるエゾヤチネズミ頭骨 10 点【58665】～【58674】（天売島, 1958 年 7 月）

が確認される。これに対応する剥製として、KUZに「天売島」という情報を持つ No.2 から No.13 までの番号を持つ皮 12 点が残されていた。No.2、5、6 に「1958 年 7 月 1 日」、12 に「7 月 2 日」の採集日があり、太田の調査で採集されたものとみてよい。

阿部は 1958 年の天売・焼尻島調査に同行していたことがフィールドノート⁽⁸⁾ から確認される。ノートの記載は 1957 年 7 月 4 日に天売島で観察した鳥の名称と、「B1」個体の計測値のみである。KUZ に No.1 の番号を持つ皮が確認されないのは、阿部がこの個体を所持していたからかもしれないが、現時点で阿部コレクションを含む HUNHM 所蔵標本に確認できない。

11-3. 礼文島

太田 (1956b) は、稚内保健所の服部睦作によって 1954 年及び 55 年に行われた調査結果に基づいて礼文島のネズミ分布を報告しており、ドブネズミとエゾヤチネズミ、クマネズミの存在を示し、エゾヤチネズミについては 2 年間で 141 頭が採集されたとする。

太田は当該年次の礼文産エゾヤチネズミ仮剥製 43 点、頭骨 6 点を所持していた。なお、採集年次のない仮剥製【49534】及び【49535】には「5032」と「5031」の番号がある。これは、1955 年採集標本にみられる番号であることから、これらも 1955 年採集標本と位置付けてよい。阿部も 1955 年に服部によって採集された頭骨 9 点を所持していた。詳細は章末一覧を参照されたい。

11-4. 利尻島

太田 (1956b) は、1955 年に実施した調査以前には、同島鬼脇中学校長吉田三郎採集のドブネズミ、クマネズミ、エゾヤチネズミの標本が HUNHM に所蔵されているのみで、ネズミ類の生態が不明であったとする。吉田が採集した標本は現在 HUNHM では確認することができないが、エゾヤチネズミ仮剥製【08352】(雄, 利尻鬼脇, 1954 年 5 月 15 日) が該当する可能性がある。

太田 (1956b, 1968) と阿部 (1966) は 1955 年 9 月 7 日から 10 日に利尻島でネズミ調査を実施した。太田 (1956b) は (1) 利尻岳高山帯ハイマツ林の標高 1550m 付近でエゾヤチネズミ 3 頭、(2) 1000m 付近でエゾヤチネズミ 2 頭、(3) 標高 200m の針葉樹林で 1 頭のアカネズミ 1 頭、(4) 標高 40m の市街地端にある神社のクマイザサの中からエゾヤチネズミ 3 頭を捕獲し、(5) 市街地住宅で 12 頭のドブネズミを捕獲していた。ただし、エゾヤチネズミの採集地点及び特徴について、阿部のフィールドノートの記載と現存する標本と異なる部分がある。

[エゾヤチネズミ]

太田は利尻岳の 1550m 付近で 3 頭、1000m 付近で 2 頭のエゾヤチネズミを捕獲したとする。一方、阿部のフィールドノートでは、1550m の 3 頭は確認できるものの、残りの 2 頭は 700-800m 付近で採集したとしており、若干の相違がみられる。あわせて、阿部はこの調査で採集されたエゾヤチネズミについて「rufocanus spp.」として特徴の違いを記している。

阿部のフィールドノート⁽⁹⁾ によれば 1550m 付近で採集された個体については「毛は柔らかく深い淡色」、「鴛泊利尻神社内にてとれたものは毛は深いけれども濃色、黒褐色味が強く、特にさし毛の多いのが特徴的、体は普通大」としている (図 20)。これを踏まえて、現存標本についてみてゆきたい。

HUNHM にはエゾヤチネズミ仮剥製【49448】(雄, 利尻, 700-800m, B4) が確認される。KUZ には「B1」、「B2」(利尻山, 1955 年 9 月 9 日)、「B3」(利尻 1550m)、「B5」(利尻 700-800m)、「B6」、「B7」、「B8」(利尻神社裏) の 7 点の仮剥製が保管されている。採集番号から明らかにこれらは一連のものであり、「B1」と「B2」が 1550m 付近で採集されたものと考えてよいだろう。一方、頭骨については阿部コレクションに【58662】(利尻島, 1955 年 9 月 10 日, 利 4)、「【58663】(利尻島, 1955 年 9 月 11 日, 利 6)」、「【58664】(利尻島, 1955 年 9 月 11 日, 利 7) の 3 点が確認される。「利 4」、「利 6」、「利 7」の注記は頭骨に直接施されているもので、これは太田の標本に時折みられるものである。この番号が仮剥製と対応するのであれば、【49448】と KUZ の利尻神社裏で採集された個体の頭骨になる。しかし、阿部のフィールドノートによれば 10 日に採集された個体は 1550m の調査地で採集された 2 個体、11 日は 700-800m で捕獲された 2 個体と 1550m の 1 個体であり、12 日は利尻神社裏で採集された 3 個体である。この記載は、現存標本に付属する採集日と合致せず、仮剥製の採集番号と頭骨の注記番号とも整合性が取れていない。このため対応関係は不明である。

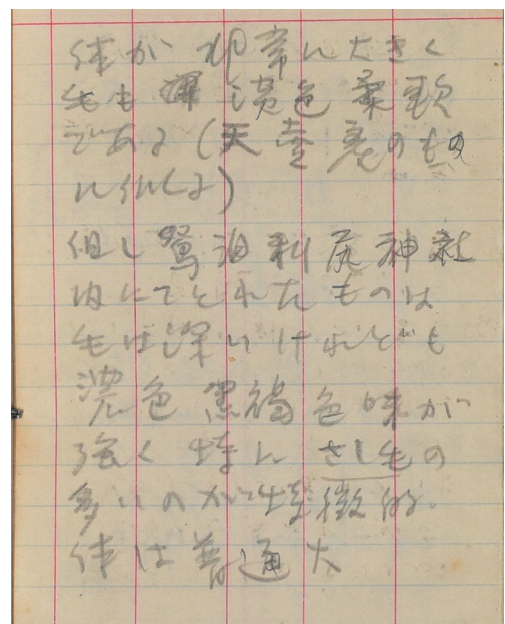


図 20. 阿部フィールドノートの rufocanus spp. 記載

(8) HUNHM_A_040100101212

(9) HUNHM_A_040100101224

なお、阿部（1966）は利尻島において採集した個体をすべてエゾヤチネズミとして報告しているが、コレクションとして HUNHM に寄贈した段階で、頭骨【58663】と【58664】をムクゲネズミと同定している。これは 1968 年から 1972 年にかけて阿部がヤチネズミ類の 2 型についての調査（阿部 1968; Abe 1973a, 1973b）を進めてゆく中で、頭骨を利用して再同定したものと考えられる。ここまでみてきたように、太田の採集標本の大部分は動物学教室に保管されていたが、本章で検討した離島のエゾヤチネズミの頭骨が阿部コレクションに含まれている理由は、この調査のために阿部が利用していたことによるものだろう。

この結果、HUNHM と KUZ においてエゾヤチネズミとして管理されている仮剥製のうち少なくとも 2 点についてはムクゲネズミであり、太田（1956b, 1968）、阿部（1966）の記載についても再同定に伴う修正が必要であることが確認された。

〔アカネズミ〕

KUZ に「利尻島, 1955 年 9 月 9 日」という情報を持つ仮剥製と頭骨が存在する。採集地点（3）の標高 200m で採集された個体の剥製と頭骨である。この標本は、太田（1956b）がアカネズミの分類学的再検討に利用した個体である。

〔ドブネズミ〕

HUNHM に 1955 年に利尻島鴛泊港市街で採集されたドブネズミ皮が 12 点【49808】～【49819】、利尻島で採集された頭骨が 12 点【49868】～【49879】あり、採集地点（5）の標本と考えられる。ただし、皮は「8 月 12 日」、頭骨は「9 月 12 日」と相違がみられる。これらの情報は個別の標本に付属していたわけではなく、皮は太田が利用していた 1 枚の荷札に「*Rattus norvegicus*, 利尻島鴛泊港市街, 1955.8.12」とあり、頭骨は 1 枚のシールに「*Rattus norvegicus*, 利尻島, 1955.9.12」とあるものを整理して登録されたものである。点数の合致と太田の報告に基づいて、皮の採集日を「1955 年 9 月 12 日」と修正する必要がある。

11-5. 奥尻島

太田（1956b, 1968; 太田・高津 1957）によれば、太田は 1955 年 11 月 3 日 -7 日及び 1956 年 6 月 24 日 -29 日の 2 回、奥尻島のネズミ調査を実施していた。

1955 年の調査では、標高 100m 付近のブナ林の林床のササの中でアカネズミ雄を 1 頭捕獲するのみであった。

1956 年の調査では、神威山腹標高 300-400m 付近のブナ - チシマザサ、ブナ・イタヤカエデ - チシマザサ植生地で 23 頭、海岸付近の標高 20-40m の蔬菜畑周辺のオオイタドリ - トクサ群落と青苗集落の小丘の蔬菜畑周辺エゾヨモギ密生中から各 2 頭、計 27 頭のアカネズミを捕獲していた。また集落で 4 頭、神威山腹のフキ優占地で 1 頭とカラマツ造林地の落し穴トラップで 1 頭、集落の水田周辺の小丘で 6 頭、計 12 頭のドブネズミ、集落で 1 頭のクマネズミ、青苗集落水田付近の小丘でハツカネズミ各 1 頭も捕獲している。

〔アカネズミ〕

1955 年に採集されたアカネズミの標本は KUZ に保管されている。ただし、仮剥製は「奥尻島, 1955.11.5, ♂」、頭骨は「奥尻, July.5.1955, 太田」とあり、頭骨に付属する情報には問題がある。この個体は太田（1956b）がアカネズミの分類学的再検討に用いた標本である。

1956 年採集個体も、仮剥製 26 点、頭骨 16 点が KUZ に確認された。仮剥製には 1 から 27 の番号があり、16 が欠番となっていること、採集日の合致から、太田が採集した 27 頭のアカネズミのうち 26 点の仮剥製であると判断される。26 の個体のみ「奥尻島青苗」の情報があることから、小丘のエゾヨモギ密生中で捕獲されたものと評価できる。頭骨も「A1」から「A27」の番号の記載がある。2～8、12～15、24 が欠番で、1 点は「A」とのみあること、2 点に「A16」の記載があり、混乱がみられるため、仮剥製と頭骨の対応関係を推測することは難しい。ただし、頭骨には採集日の記載がないが「1956 年 6 月 24 日 -29 日」という情報を追加することは許される。

〔ハツカネズミ〕

仮剥製【49789】（雄, 奥尻島青苗, 1956 年 6 月 27 日）が確認され、太田の報告と合致している。

〔ドブネズミ〕

HUNHM に「No.1」から「No.11」の番号を持つ「奥尻島, 1956 年 6 月」採集のドブネズミ皮 11 点【49825】～【49835】がある。「No.5」の【49829】には採集日の記載がないが、一連の番号を持つことからこれらすべてに「1956 年 6 月 24 日 -29 日」の採集日情報を追加することができる。頭骨は 12 点【49882】～【49893】あり、【49893】にのみ「奥尻島造林地」とあることから、剥製が作られなかった神威山腹の落し穴トラップによる採集個体の頭骨であると判断される。これらにはいずれも採集日の情報はないが、「1956 年 6 月 24 日 -29 日」の採集標本であることは明らかである。なお、現行標本台帳において頭骨標本の採集地は「奥尻島オコトナ」となっているが、これは頭骨が保管されていたケースのラベルに基づいている。「オコトナ」はナキウサギの学名であり、

ケースの再利用に伴って生じた混乱と考えられるため、削除する必要がある。

〔クマネズミ〕

仮剥製【49940】(雄, 奥尻島青苗市街, 1956 年 6 月 28 日)、頭骨【49946】(奥尻) があり、一頭体の剥製と頭骨であると評価され、頭骨に採集情報を追加することができる。

11-6. 大黒島・厚岸

太田は、1955 年 9 月 26 日から 28 日にかけて厚岸大黒島のネズミの調査を実施した(太田 1957)。なお、この調査には阿部も同行しており、阿部のフィールドノート⁽¹⁰⁾によれば、調査は 9 月 24 日に札幌を出発して 25 日に厚岸の臨海実験所と附属博物館周辺で採集、大黒島から戻った後の 30 日にも厚岸でトガリネズミの採集をしており、厚岸での結果を太田(1968)と阿部(1966)が報告していることから、あわせて検討することとする。

〔大黒島採集標本〕

大黒島では標高 60-100m 付近のダケカンバ-オオイタドリ、ダケカンバ-エゾミヤコザサ植生で 5 頭のエゾヤチネズミ、ミヤコザサ・エゾヨモギ、オオイタドリ-イワノガリヤス植生で 10 頭のエゾヤチネズミ、カイネコが捕らえた 1 頭のエゾヤチネズミ 1 頭の計 16 頭、この他オオアシトガリネズミ 4 頭が採集された。ただし、阿部(1966)はエゾヤチネズミ 9 頭としており、合致しない。阿部のフィールドノートでは大黒島で採集したエゾヤチネズミは少なくとも 11 頭は確認されること、太田(1957)は成体 9 頭、幼体 7 頭と報告していることから、阿部は哺乳中の幼体を検討材料から除外していたと推測される。

大黒島の採集記録に合致する標本は、エゾヤチネズミ仮剥製【49438】(厚岸大黒島, 採集年次なし, B8)とエゾヤチネズミ頭骨 9 点【49650】～【49665】(厚岸大黒島, 1955 年 9 月 27 日, 「大」もしくは「B」6～10, 16, 19～21)である。KUZ には、エゾヤチネズミ仮剥製 15 点(大黒島, B6～B21, ただし B8 を欠く)がある。KUZ で欠番となっている「B8」が【49438】に該当することから、大黒島で採集された 16 頭のエゾヤチネズミの剥製はすべて残っていることになり、これらは太田(1957)の記載から「9 月 27 日-28 日」の採集標本として扱うことが可能である。

太田(1956b)は大黒島のエゾヤチネズミの分類学的再検討を行っており、この調査で採集された 6～21 の番号を持つ標本のデータを示している(表 9)。このうち、頭骨全長のデータを示しているのは 6, 9, 10, 16, 20, 21 の 6 点である。現存標本と照合すると、この 6 件の番号を持つ頭骨は形状を留めているが、7, 8, 19 の番号を持つ 3 点は破損しており、頭骨全長を計測することが困難である。ここから、頭骨に付属する番号は太田(1956b)で用いられた標本番号であると判断される。また、仮剥製【49438】は頭胴長 127mm、尾長 46mm と大型の個体である。付属ラベルに計測値がなく、HUNHM に現存する個体がこの 1 点のみであることから今後の調査が必要であるが、大黒島の標本については、標本付属ラベルの採集番号と太田(1956b)で利用された番号とが合致している可能性があり、これを裏付けることができれば雌雄の別や現在計測しがたい部位のデータを利用することができる。

〔厚岸採集標本〕

阿部のフィールドノートによれば、厚岸では 25 日に博物館(アイカッパ自然史博物館)付近の天然林でエゾヤチネズミ 1 頭、「キリ研究所」付近草地でエゾヤチネズミ 3 頭、臨海実験所裏沢地の天然林でエゾヤチネズミ 1 頭とアカネズミ 1 頭、実験所上の天然林でミカドネズミ 1 頭を捕獲しており、これは阿部(1966)の採集情報と合致する。また、トガリネズミ類 2 頭を採集している。なお、太田(1968)は厚岸での採集結果をアカネズミ 1 頭、エゾヤチネズミ 12 頭、ミカドネズミ 3 頭としており、阿部のフィールドノートに記載されていない採集があった可能性がある。

厚岸での採集記録に該当するものは、ミカドネズミ仮剥製【49276】と【49277】(厚岸, 採集年次なし, B24 及び B27)、エゾヤチネズミ仮剥製【49437】(厚岸, 1955 年 9 月 30 日, No.28)及び頭骨 7 点で、【49650】(厚岸, 1955 年, 厚 2)、【49651】～【49656】(厚岸, 1955 年 9 月 25 日, 順に厚 3, 厚 5, 厚 22, 厚 23, 厚 24, 厚 28)になる。KUZ にはエゾヤチネズミ仮剥製 9 点(厚岸, 採集年次なし, B1～B5, B22, B23, B25, B26)と頭骨 2 点(厚岸, 採集年次なし, B1 及び B4)である。頭骨の「厚 27」が欠番となっていること、【49276】と【49277】が現在ミカドネズミとして管理されていることに課題を残すが、1 から 5, 22 から 28 の番号を持つ厚岸産の標本がそろっていることになる。【49276】と【49277】は計測した体サイズからは大型のミカドネズミ、小型のエゾヤチネズミのいずれとも判断しうるものであるが、「厚 24」の頭骨【69656】が「B24」の仮剥製【49276】に対応するものとした場合、頭骨の形状は明らかにエゾヤチネズミのものであることから、太田の同定に基づき種名を改める必要がある。

上述した大黒島での採集番号が「6」から始まっている理由は、島に渡る前に採集した 5 頭のエゾヤチネズミと連番になっているためであり、阿部は記載していないが島から戻った後、9 月 30 日に「22」から「28」までの 7 頭を採集したと考えられ、これを合算するとエゾヤチネズミ 12 頭となり、太田(1968)の捕獲数とも合致する。なお、頭骨【49651】～【49656】には「1955

(10) HUNHM_A_040100101224

年 9 月 25 日」という採集日があるが、標本に直接付属するのは「厚 3」の【49651】のみで、一緒に保管してあったことから誤って付与されたものである。上記した推定が妥当であるならば、「1」から「5」の番号を持つ標本の採集日は「9 月 25 日」、「22」以降の番号を持つ【49653】～【49656】、KUZ の仮剥製の採集日は「1955 年 9 月 29 日 -30 日」とするべきである。採集日を「29 日 -30 日」と判断できる理由は、KUZ に保管されている厚岸で採集されたアカネズミ仮剥製・頭骨各 1 点、ミカドネズミ仮剥製・頭骨が各 3 点あり、ミカドネズミにはそれぞれ「M1」から「M3」までの採集番号が付属しており、「M3」の仮剥製にのみ「1955 年 9 月 29 日」とあることから、大黒島から戻った後の 29 日及び 30 日に採集が行われていたことが確認されるからである。KUZ のアカネズミ仮剥製・頭骨には、採集記録から大黒島調査以前の「9 月 25 日」採集という情報を付与できる。

11. 太田嘉四夫らによる北海道内の離島の野ネズミ調査関連標本

<i>Myodes rex</i>		ムクゲネズミ：Hokkaido Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM58663	2	-	利尻島	1955.09.11	- → [太田嘉四夫・阿部永]	利 -6	太田 (1956b, 1968), 阿部 (1966) はエゾヤチネズミと同定
HUNHM58664	2	-	利尻島	1955.09.11	- → [太田嘉四夫・阿部永]	利 -7	太田 (1956b, 1968), 阿部 (1966) はエゾヤチネズミと同定
<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49694	2	female	焼尻島	1958.07.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.18	
HUNHM49695	2	male	焼尻島	- → [1958.07.00]	K.O. → [太田嘉四夫]	No.16	
HUNHM49458	1	- → male	- → [天売]	1955.04.23	村田英二	No.2	
HUNHM58665	2	male	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58666	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58667	2	male	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58668	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58669	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58670	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58671	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58672	2	male	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58673	2	female	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM58674	2	male	天売島	1858.07.00	- → [太田嘉四夫]		
HUNHM49491	1	male	礼文島船泊カラマツ造林地	1954.10.02	服部畦作	-	
HUNHM49492	1	male	礼文島船泊カラマツ造林地	1954.10.02	服部畦作	-	
HUNHM49493	1	male	礼文島船泊カラマツ造林地	1954.10.02	服部畦作	-	
HUNHM49494	1	male	礼文島船泊カラマツ造林地	1954.10.04	服部畦作	-	
HUNHM49495	1	male	礼文島船泊針広混交林	1954.10.05	服部畦作	-	
HUNHM49496	1	male	礼文島船泊針広混交林	1954.10.05	服部畦作	-	
HUNHM49497	1	female	礼文島船泊	1954.10.07	服部畦作	-	
HUNHM49498	1	male	礼文島船泊	1954.10.07	服部畦作	-	
HUNHM49499	1	male	礼文島船泊	1954.10.07	服部畦作	-	
HUNHM49500	1	female	礼文島船泊	1954.10.07	服部畦作	-	
HUNHM49501	1	female	礼文島船泊	1954.10.09	服部畦作	-	
HUNHM49502	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	
HUNHM49503	1	female	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	
HUNHM49504	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	
HUNHM49505	1	female	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	
HUNHM49506	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	
HUNHM49507	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-	

HUNHM49508	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-
HUNHM49509	1	male	礼文島船泊	1954.10.14	服部畦作	-
HUNHM49510	1	female	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49511	1	male	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49512	1	male	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49513	1	male	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49514	1	female	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49515	1	female	礼文島船泊	1954.10.15	服部畦作	-
HUNHM49516	1	female	礼文島船泊	1954.10.16	服部畦作	-
HUNHM49517	1	female	礼文島船泊	1954.10.16	服部畦作	-
HUNHM49518	1	female	礼文島船泊	1954.10.18	服部畦作	-
HUNHM49519	1	female	礼文島船泊	1954.10.18	服部畦作	-
HUNHM49520	1	male	礼文島船泊	1954.10.18	服部畦作	-
HUNHM49521	1	male	礼文島船泊	1954.10.19	服部畦作	-
HUNHM49522	1	male	礼文島船泊	1954.10.21	服部畦作	-
HUNHM49523	1	male	礼文島船泊	1954.10.21	服部畦作	-
HUNHM49524	1	male	礼文島船泊	1954.10.21	服部畦作	-
HUNHM49525	1	female	礼文島	1955.07.02	服部畦作	5010
HUNHM49526	1	female	礼文島礼文山	1955.08.08	服部畦作	5024
HUNHM49527	1	male	礼文島	1955.10.25	服部畦作	5037
HUNHM49528	1	male	礼文島	1955.10.25	服部畦作	5056
HUNHM49529	1	female	礼文島	1955.10.29	服部畦作	5062
HUNHM49530	1	male	礼文島	1955.10.29	服部畦作	5065
HUNHM49531	1	male	礼文島	1955.11.02	服部畦作	5072
HUNHM49532	1	female	礼文島	1955.11.02	服部畦作	5073
HUNHM49533	1	male	礼文島	1955.11.03	服部畦作	5075
HUNHM49534	1	male	礼文島	-	服部畦作	5032
HUNHM49535	1	female	礼文島	-	服部畦作	5031
HUNHM49697	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -1
HUNHM49698	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -2
HUNHM49699	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -3
HUNHM49700	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -4
HUNHM49701	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -5
HUNHM49702	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	レ -6
HUNHM58653	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5072
				→ [1955.11.02 カ]		→ [HUNHM49531 の Skull カ]
HUNHM58654	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5064
HUNHM58655	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5037
				→ [1955.10.25 カ]		→ [HUNHM49527 の Skull カ]
HUNHM58656	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5062
				→ [1955.10.29 カ]		→ [HUNHM49529 の Skull カ]
HUNHM58657	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5056
HUNHM58658	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5065
				→ [1955.10.29 カ]		→ [HUNHM49530 の Skull カ]
HUNHM58659	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	
HUNHM58660	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	
HUNHM58661	2	-	礼文	1955.00.00	服部畦作	5073
				→ [1955.11.02 カ]		→ [HUNHM49532 の Skull カ]
HUNHM08352	1	male	利尻島鬼脇	1954.05.15	-	-
HUNHM49448	1	male	利尻 700-800m	-	太田嘉四夫	B-4
				→ [1955.09.07-10]	→ [太田嘉四夫・阿部永]	
HUNHM58662	2	-	利尻島	1955.09.10	-	利 -4
				→ [太田嘉四夫・阿部永]		
HUNHM49276	1	-	厚岸	-	太田嘉四夫	B-24
				→ [1955.09.29-30]	→ [太田嘉四夫]	ヒメヤチネズミ
						→ [タイリクヤチネズミカ]
HUNHM49277	1	-	厚岸	-	太田嘉四夫	B-27
				→ [1955.09.29-30]	→ [太田嘉四夫]	ヒメヤチネズミ
						→ [タイリクヤチネズミカ]
HUNHM49437	1	-	厚岸	1955.09.30	太田嘉四夫	No.28
HUNHM49438	1	-	厚岸大黒島	-	太田嘉四夫	B-8
				→ [1955.09.26-28]	→ [太田嘉四夫・阿部永]	
HUNHM49650	2	-	厚岸	1955.00.00	K.O.	厚 -2
				→ [1955.09.25]	→ [太田嘉四夫・阿部永]	
HUNHM49651	2	-	厚岸	1955.09.25	K.O.	厚 -3
				→ [太田嘉四夫・阿部永]		
HUNHM49652	2	-	厚岸	1955.09.25	K.O.	厚 -5
				→ [太田嘉四夫・阿部永]		

HUNHM49653	2	-	厚岸	1955.09.25 → [1955.09.29-30]	K.O. → [太田嘉四夫]	厚 -22
HUNHM49654	2	-	厚岸	1955.09.25 → [1955.09.29-30]	K.O. → [太田嘉四夫]	厚 -23
HUNHM49655	2	-	厚岸	1955.09.25 → [1955.09.29-30]	K.O. → [太田嘉四夫]	厚 -24
HUNHM49656	2	-	厚岸	1955.09.25 → [1955.09.29-30]	K.O. → [太田嘉四夫]	厚 -28
HUNHM49657	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -6
HUNHM49658	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	B-7
HUNHM49659	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	B-8
HUNHM49660	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -9
HUNHM49661	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -10
HUNHM49662	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -16
HUNHM49663	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -19
HUNHM49664	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -20
HUNHM49665	2	-	厚岸大黒島	1955.09.27	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	大 -21

Mus musculus

ハツカネズミ : House Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49789	1	male	奥尻島青苗	1956.06.28	太田嘉四夫	-	

Rattus norvegicus

ドブネズミ : Brown Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49841	1	female	焼尻島	1950.09.10	犬飼哲夫	-	
HUNHM49824	1	-	焼尻島	1958.07.04	太田嘉四夫	-	
HUNHM49881	2	female	焼尻島	- → [1958.07.04]	K.O. → [太田嘉四夫]	No.1	
HUNHM49820	1	-	天売島	1955.10.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49821	1	-	天売島	1955.10.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49822	1	-	天売島	1955.10.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49823	1	-	天売島	1955.10.00	太田嘉四夫	-	
HUNHM49880	2	-	天売島グランド上 (カラマツ林)	1957.05.10	村田 → [村田英二]	-	
HUNHM49808	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49809	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49810	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49811	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49812	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49813	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49814	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49815	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49816	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49817	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	

HUNHM49818	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49819	1	-	利尻島鴛泊港市街	1955.08.12 → [1955.09.12]	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49868	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49869	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49870	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49871	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49872	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49873	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49874	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49875	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49876	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49877	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49878	2	-	利尻島鴛泊港市街	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49879	2	-	利尻島	1955.09.12	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	-
HUNHM49825	1	-	奥尻島伐開地フキ草原	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.1
HUNHM49826	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.2
HUNHM49827	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.3
HUNHM49828	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.4
HUNHM49829	1	-	奥尻島	- → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.5
HUNHM49830	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.6
HUNHM49831	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.7
HUNHM49832	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.8
HUNHM49833	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.9
HUNHM49834	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.10
HUNHM49835	1	-	奥尻島	1956.06.00 → [1956.06.24-29]	太田嘉四夫	No.11

<i>Rattus rattus</i>		クマネズミ : Roof Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49940	1	male	奥尻島青苗市街	1956.06.28	太田嘉四夫	-	→ [HUNHM49946 の Skin カ]
HUNHM49946	2	- → [male]	奥尻 → [奥尻島青苗市街]	- → [1956.06.28]	K.O. → [太田嘉四夫]	-	→ [HUNHM49940 の Skull カ]

12. 太田嘉四夫らによる羊蹄山のネズミ調査（1955 年）

太田、芳賀、高津昭三と井上聡、阿部は北海道の野ネズミのうち、特にミカドネズミの垂直分布に関する情報を収集するために、1955 年 8 月 5 日 - 7 日に北海道羊蹄山の調査を行った（太田ら 1956; 太田 1968）。太田らは羊蹄山東側の京極口から頂上にかけて採集調査を実施した。調査地ごとに捕獲されたネズミの情報を列記してゆく。

〔調査地と採集個体〕

調査地（1）山火跡カラマツ造林地、標高 600m 付近

アカネズミ 2 頭

調査地（2）落葉広葉樹が豊富な地域のササの中、標高 800-950m

植生：ダケカンバ・イタヤカエデ・ナナカマド - ササ類

アカネズミ 1 頭、ヒメネズミ 2 頭、エゾヤチネズミ 1 頭、トガリネズミ 1 頭

調査地（3）亜高山帯広葉樹林の林内ササの中、標高 900-1400m

植生：ダケカンバ - ササ類

ヒメネズミ 1 頭

調査地（4）高山帯、標高 1550m 以上

ヒメネズミ 2 頭

この他、頂上でシマリス 1 頭が採集されている。なお、太田（1968）は調査地（3）と（4）を一括し、また調査地（1）の結果については言及していない。一方、調査に同行した阿部のフィールドノート⁽¹¹⁾では、5 日に登山口の立札を過ぎたところのカラマツ造林地でアカネズミ 2 頭が採集されたとし、これは調査地（1）の記録と考えられる。2 日目の記載では頂上付近でシマリスを 1 頭採集したあと下山し、「下の方では 2 合目でヒメネズミ 2 頭とれたのみ」としてあるが、ここでは「アカネズミ 1 頭」を抹消してヒメネズミについて記載している。3 日目は、8 合目、6 合目でヒメネズミが採集された。これについては採集頭数の記載がないが、調査地（3）と（4）の記録と判断される。次いで、4 合目でオオアシトガリネズミ 1 頭、ヒメネズミ 2 頭、エゾヤチネズミ 1 頭を採集した記録があり、アカネズミについての情報はないものの、調査地点（2）の記録である。

阿部と高津は太田らとは分かれて調査を行っており、フィールドノートの記載は調査の全体を示すものではない可能性があるが、調査地点（2）のアカネズミの記載の欠落と、「2 合目」のヒメネズミが太田ら（1956）で触れられていない点に問題がある。「2 合目」はおそらく調査地点（1）を指し、阿部はアカネズミの採集の記録をした後に重複して誤った種名を記載した可能性があるが、ヒメネズミの記載は 2 日目の部分に記載されているため、やや疑念が残る。

HUNHM には羊蹄山で採集された標本が 1 点のみ現存する。ヒメネズミ仮剥製【49137】には、太田が利用する荷札に「*Apodemus geisha*, 羊蹄山 2 合目, ダケカンバ - クマイザサ, 1955.8.5」の記載がある。8 月 5 日は調査の初日であり、阿部のノートに基づけばこの日に採集されたネズミは調査地点（1）のアカネズミのみであり、合致しない。「2 合目」という情報を重視すれば、阿部が記載するヒメネズミと合致するが、採集日が合致しない。「ダケカンバ - クマイザサ」の植生は調査地点（3）に該当し、ここで採集されたヒメネズミであると考えた場合、採集日と「2 合目」の採集地情報が矛盾することになる。太田（1968）が調査地（1）の結果を再掲しなかった理由も、採集したネズミの同定結果に問題があったためという想定もできるが、明確にはしえない。【49137】については、太田ら（1956）が調査の際に羊蹄山で採集したヒメネズミとしてのみ評価し、付属する情報については留保する必要があるだろう。

KUZ にはこの調査で採集された標本は保管されていない。

12. 太田嘉四夫らによる羊蹄山の野ネズミ調査関連標本

<i>Apodemus argenteus</i>		ヒメネズミ：Small Japanese Field Mouse					
status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes	
HUNHM49137	1	-	羊蹄山 2 合目 ダケカンバ - クマイザサ	1955.08.05	太田嘉四夫	-	採集データ混乱有
			→ [1955.08.05-07] → [太田嘉四夫他]				

(11) HUNHM_A_040100101224

13. 太田嘉四夫による本州産ネズミ調査 (1955 年 -1956 年・1958 年)

太田は、北海道の野ネズミの種間関係の研究を継続していたが、北海道内の高山、離島など主要な地域の調査を終えたことから、隣接地域の近縁種の状況と比較することを試みることにし、1956 年に別府高崎山、静岡伊豆地方、山形県烏海山で採集を行った(太田 1956d)。

太田(1956d)は、「昭和 31 (1956) 年 10 月」の別府高崎山調査に言及した後、「つぎは本年 4 月」の伊豆伊東温泉、天城山、「本年 10 月中旬」の烏海山調査について述べており、伊豆、烏海山はあたかも翌年の 1957 年 4 月、10 月の調査であるかのような表現であるが、刊行年次からも明らかなようにいずれも 1956 年以前の調査である。太田(1956d)は別府高崎山の調査を「昭和 31 年 10 月」と明記しているが、後述するように標本には 1955 年の情報が付属していることから、「昭和 31 年」ではなく「昭和 30 年」の誤記であり、伊豆と烏海山の調査は翌年の 1956 年の調査になる。同様に、太田(1968)では烏海山の調査を「1957 年 10 月」とするが、太田(1956d)がすでに触れていること、標本に「1956 年」とあることから、誤りがあることに注意が必要である。このほか、太田(1968)は 1958 年 10 月に岐阜県高山市付近でスミスネズミとハタネズミの種間関係調査を実施している。これらに関する標本の現状について検討しておく。

13-1. 静岡伊東地方調査

〔遠笠山採集〕

太田(1956d)は天城連山の遠笠山の 800m 付近の人口スギ林でヒメネズミとスミスネズミを採集し、900m 付近のブナ優先落葉広葉樹林でスミスネズミ、頂上のアセビなどの茂みの中でもスミスネズミを捕獲したとするが、採集頭数は明記していない。一方で、太田(1968)では 800m 付近の調査地でのスミスネズミの記録を示さず、遠笠山での採集はスミスネズミ 2 頭、ヒメネズミ 1 頭のみを報告している。

遠笠山の採集には阿部も同行しており、フィールドノート⁽¹²⁾に 4 月 21 日から 24 日の採集記録が残されている。阿部は山麓の灌木林でアカネズミ 1 頭を採集したとするが、これは太田の報告には見ることができない。また、遠笠山中腹の 800m 付近の杉林中でヒメネズミ、スミスネズミ各 1 頭を採集しており、太田(1968)の記載が誤りであることが確認できる。23 日には頂上と 900m 付近でのスミスネズミを採集しており、これは太田の報告と合致している。

この情報に該当する標本として、ヒメネズミ仮剥製【49142】(雌, 天城山遠台山ヒノキ林 800m, 1956 年 4 月 21 日)、頭骨【49234】(天城, 1956 年 4 月 21 日)がある。【49142】の「遠台山」は誤読であり、修正の必要がある。太田がこの調査で採集したヒメネズミは 1 頭のみであり、一個体の標本として扱うことは可能である。

スミスネズミについては、仮剥製【49771】(雌, 天城山遠笠山頂, 1956 年 4 月 22 日, No.1)、【49772】(雌, 天城山遠笠山 900m, 1956 年 4 月 22 日, No.2)、【49773】(雄, 天城山遠笠山 800m, 1956 年 4 月 23 日, No.3)と頭骨【49774】(天城, 1956 年 4 月 22 日, S2)がある。頂上で採集したのは阿部のフィールドノートによれば 23 日であるが、おおむね合致するものとみてよく、太田(1968)の採集点数も 3 点であるべきであることが確認された。頭骨【49774】はおそらく仮剥製【49772】のものと推測されるが確実ではなく、採集日を「1956 年 4 月 22 日 -23 日」とするにとどめる。

〔伊東温泉郊外採集〕

太田(1956d)は伊東温泉の郊外の水田などで 4 日間の調査を実施し、ハタネズミの採集を期待していたが、アカネズミのみを採集したとする。太田(1968)によれば標高 300m の池部落耕地周辺落葉広葉樹林で 1 頭、標高 100m の萩部落伐採跡二次林で 3 頭、標高 50m の伊東市スズタケ群落で 1 頭の計 5 頭である。

KUZ には 4 月 13 日から 19 日に伊東で採集されたアカネズミ仮剥製 6 点、頭骨 4 点が保管されていた。仮剥製には「伊東 -1」から「伊東 -6」までの連番が、頭骨には 1、3、4、6 の番号があり、対応するものと考えられるが明確な根拠はない。太田(1968)では、伊東市で採集したアカネズミを 5 頭としており、KUZ の仮剥製 6 点と合致しない。阿部が遠笠山山麓で採集したとするアカネズミ 1 頭が含まれている可能性はあるものの、採集日が合致しないため判然としない。標本に記載されている採集日に混乱がある可能性があるとは評価しなければならない。

13-2. 山形県烏海山

太田(1956d, 1968)は 1956 年 10 月に山形県烏海山で野ネズミ調査を実施した。標高 400m の湯之台(二次林)でヒメネズミ 5 頭、600m の祖父谷地(ブナ・ナラ林)でヒメネズミ 5 頭、アカネズミ 2 頭、1200m の白糸滝小屋付近(ダケカンバ・ミヤマハンノキ・ササ類)でヒメネズミ 4 頭、ヤチネズミ 3 頭、1400m の白糸滝上部(ハイマツ・ツツジ類)でヒメネズミ 1 頭、ヤチネズミ 1 頭、1600m の河原宿上部(ハイマツ・ササ類)でヒメネズミ、アカネズミ各 1 頭を捕獲している。

(12) HUNHM_A_040100101211

〔ヤチネズミ〕

HUNHM に所蔵されている鳥海山採集のヤチネズミ 4 点が確認される。【49746】は「1200m, ダケカンバ-岩, シャクナゲ, '56.10.16, 1」、【49747】は「1200m, 滝の小舎ウラ岩穴, 2」、【49748】は「1200m, 岩場, ミヤマハンノキ-キイチゴ シダスゲ, 3」、【49749】は「1400m, 熔岩帯, ササ-イヌツゲ, 4」の情報が、太田の報告にあるすべての個体に合致する。なお、これらはいずれも仮剥製と頭骨がセットになって登録されている。これは頭骨に付属するラベル番号と仮剥製の番号とが合致するためとめたものであるが、これまでに見たように太田の標本は剥製と頭骨の採集番号が必ずしも整合性が取れていない場合が多く、厳密な対応ではない可能性がある。

〔ヒメネズミ〕

HUNHM には採集年次は付属しないものの、鳥海山で採集されたヒメネズミ頭骨が 6 点あり、それぞれ「G1」、「G4」、「G6」、「G12」、「G16」の採集番号がある。太田はこの調査で計 16 頭のヒメネズミを採集しており、採集番号と矛盾しないことから、該当するものと判断される。ただし、KUZ に保管されている 1 点のヒメネズミ頭骨（鳥海山, 1956 年）にも HUNHM と同じラベルに「G6」の記載があり、重複していることに注意が必要である。

〔アカネズミ〕

HUNHM には鳥海山のアカネズミ標本は所蔵されていない。KUZ に「鳥海山 1600m, 1956 年 10 月 17 日, A1」、「鳥海山 600m, 1956 年 10 月 18 日, A2」、「鳥海山 600m, 1956 年 10 月 18 日, A3」の仮剥製と、「鳥海山」で採集された頭骨 3 点（1～3 の注記あり）が確認され、これも太田（1956d, 1968）の内容と合致する。

13-3. 別府高崎山

太田（1956d）は 1956 年 10 月に高崎山で採集調査を実施し、アカネズミを 2 頭捕獲したとする。この結果に対応する標本は KUZ に保管されている仮剥製 2 点と頭骨 2 点である。それぞれ「1」、「2」の採集番号が付属しているが、仮剥製の「1」のみ「1955 年 10 月 24 日」の採集日があり、他の 3 点は「10 月 25 日」とするため、付属情報に混乱がある可能性が高い。

採集された標本はすべて残存していると評価できるが、太田（1956d）が採集年次を 1956 年とするのは誤りで、1955 年としないべきではない。

13-4. 岐阜高山

太田（1968）は、スミスネズミとハタネズミの種間関係を調査するため、1958 年 10 月中旬に岐阜県高山市付近の国有林高山営林署麦島事業所の造林地周辺（標高 1300m）で採集を行った。採集した個体数はアカネズミ 2 頭、ヒメネズミ 26 頭、スミスネズミ 11 頭、ハタネズミ 32 頭である。

これに該当する HUNHM 所蔵標本は 1958 年 10 月に「飛騨麦島村」ヒメネズミ頭骨 1 点【49235】、ハタネズミ頭骨 8 点【49756】～【49763】、スミスネズミ頭骨 2 点【49803】、【49804】が確認される。それぞれに採集番号や計測値が記載された荷札が付属するが、ハタネズミ【49761】には「No.55」とあること、同じ採集情報を持つジネズミ【49803】、【49804】には「No.1」、「No.35」とあることから、これまでに確認した太田の採集標本の採集番号が種別に付与されていた傾向と異なり、調査期間中に採集した順に与えた番号であると推測される。

その他の頭骨、剥製は KUZ を含め確認することができない。

13. 太田嘉四夫による本州産野ネズミ調査関連標本

<i>Myodes andersoni</i>		ヤチネズミ : Anderson's Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49746	3	-	鳥海山 1200m	1956.10.16	太田嘉四夫	No.1	
HUNHM49747	3	-	鳥海山 1200m	1956.10.16	太田嘉四夫	No.2	
HUNHM49748	3	-	鳥海山 1200m	1956.10.16	太田嘉四夫	No.3	
HUNHM49749	3	-	鳥海山 1400m	1956.10.16	太田嘉四夫	No.4	

<i>Microtus montebelli</i>		ハタネズミ : Japanese Grass Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49756	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.2	
HUNHM49757	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.5	
HUNHM49758	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.6	
HUNHM49759	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.7	
HUNHM49760	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.9	
HUNHM49761	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.22	
HUNHM49762	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.38	
HUNHM49763	2	female	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.55	

<i>Myodes smithii</i>		スミスネズミ : Smith's Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49771	1	female	天城山遠笠山頂	1956.04.22	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	No.1	[阿部ノートでは 1956.04.23]
HUNHM49772	1	female	天城山遠笠山 900m	1956.04.22	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	No.2	
HUNHM49773	1	male	天城山遠笠山 800m	1956.04.23	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	No.3	
HUNHM49774	2	-	天城 → [天城遠笠山]	1956.04.22	太田嘉四夫 → [太田嘉四夫・阿部永]	-	
HUNHM49775	2	-	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.18	
HUNHM49776	2	male	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.20	

<i>Apodemus argenteus</i>		ヒメネズミ : Small Japanese Field Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49142	1	female	天城山遠台山ヒノキ林 800m →天城山遠笠山ヒノキ林 800m	1956.04.21	太田嘉四夫	-	
HUNHM49234	2	-	天城 → [天城山遠笠山ヒノキ林 800m]	1956.04.21	K.O. → [太田嘉四夫・阿部永]	G-1	
HUNHM49235	2	-	飛騨麦島村	1958.10.00	K.O. → [太田嘉四夫]	No.23	
HUNHM49228	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-1	
HUNHM49229	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-4	
HUNHM49230	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-6	
HUNHM49231	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-12	
HUNHM49232	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-13	
HUNHM49233	2	-	鳥海山	- → [1956.10.16]	K.O. → [太田嘉四夫]	G-16	

14. 日本動物学会ネズミ研究グループ奄美大島調査団による動物調査（1957 年）

太田嘉四夫、宇田川竜男、佐藤淳夫、松井孝爾、内田照章の5名は、日本動物学会ネズミ研究グループ奄美大島調査団として、1957年7月2日から19日にかけて奄美大島及び徳之島の生物調査、特にネズミと爬虫類、両生類の調査を実施した（平岩ら1958）。共同研究者であった太田（1957a, 1957b, 1958a, 1958b）は「奄美大島のネズミとり」としてその調査の内容を紀行文として紹介している。太田の紀行文は太田自身の調査内容が中心であり、2班に分かれて実施していた調査など全体像を十分には記述していないこと、トゲネズミなど特殊な対象については詳細に記述しているが、ドブネズミ、クマネズミなど住家性のネズミについて詳細に触れていない。ここでは、主に平岩ら（1958）の報告内容に従って調査結果を整理し、HUNHM 所蔵標本と照合する。

調査団は、奄美大島笠利村、住用村、湯湾岳、徳之島亀津町、天城村（三京）で調査を行った。野外では調査団が設置した罠により捕獲調査を行い、住家性ネズミについては住民の協力を得て採集を行っていた。その採集結果（平岩ら1958 第1表）を表14に示す。

表14 日本動物学会ネズミ研究グループ奄美大島調査団による種別、採集地別の採集点数

採集地	ドブネズミ	クマネズミ	アマミトゲネズミ
大島笠利村	2	9	0
大島住用村	1	18	0
大島湯湾岳	0	0	3
徳之島亀津町	0	4	0
徳之島天城村	0	1	0

〔笠利村採集標本〕

笠利村と住用村の調査は2班に分かれて実施し、笠利村は内田・松井が担当していたため、太田（1957a）は詳しく述べていない。笠利村での調査は7月2日から8日に太田らの班と合流するまで行われ、ドブネズミ2頭、クマネズミ9頭が採集されていた。

HUNHM にはドブネズミ仮剥製1点【49866】（雌, 1957年7月7日, Rn2）、クマネズミ仮剥製・皮4点【49911】（1957年7月3日, Rr1）、【49912】（雌, 1957年7月6日, Rr7）、【49932】（雄, 1957年7月5日, Rr6）、【49933】（雌, 1957年7月6日, Rr9）が所蔵されている。採集番号も2種の採集点数と合致しており、採集日も調査期間内であることから問題はないが、ドブネズミ1点、クマネズミ5点が確認できない。

なお、平岩ら（1958）は笠利村でジネズミの一種1頭を採集しているが、報告時点で同定が完了していないとする。これは、阿部コレクションに含まれていたワタセジネズミ仮剥製・頭骨【52061】（雄, 笠利, 1957年7月5日）に該当する。太田が所持していたものを阿部が譲り受けたものだろう。

〔住用村採集標本〕

住用村で調査を行っていた太田は野ネズミが採集できなかったこと、小中学生の協力を得た住家性ネズミの採集結果として、ドブネズミよりもクマネズミが多数生息していることを述べるのみであるが、表14に示したようにドブネズミ1頭、クマネズミ18頭を捕獲していた。

HUNHM には住用村西仲間で採集されたドブネズミ仮剥製【49867】（雄, 住用村西中間水田, 採集年次なし, N1）、住用村、あるいは住用村西仲間、住用村役勝で採集されたクマネズミ仮剥製・皮10点【49908】～【49910】、【49914】～【49920】が確認される。クマネズミはいずれも採集日は「1957年7月」とのみあり、採集番号は「R1」～「R5」、「R7」～「R11」である。なお、ラベルに詳細な採集情報は記載されていないが、これらと一緒に保管されていたクマネズミ仮剥製7点【49921】～【49927】には「R12」～「R18」の採集番号がある。住用村で採集されたクマネズミは18点であることから、これらも住用村の採集標本と評価でき、採集日も「1957年7月2日-7日」としてよいだろう。

笠利村・住用村で採集されたドブネズミ3頭は雄1頭、雌2頭であるので、笠利村で採集され、現在所在不明の「Rn1」個体は雌個体である。

〔湯湾岳採集標本〕

湯湾岳では5名の調査団で調査を行い、7月10日、11日、12日にアマミトゲネズミを各1頭採集している。

アマミトゲネズミ仮剥製【49783】（雄, 湯湾, 1957年7月10日, T1）、【49784】（雄, 湯湾上大久保, 1957年7月12日, T3）が平岩ら（1958）の記載に該当する。この調査で採集されたアマミトゲネズミは雄2個体、雌1個体であるので、7月11日に採集された所在不明の「T2」は雌個体である。

〔徳之島亀津町〕

徳之島に移動した調査団のうち、内田と佐藤が亀津町の調査を担当していた。亀津ではクマネズミ 4 頭が採集されている。仮剥製 3 点【49929】（雄幼体, 1957 年 7 月 14 日, Rr1）、【49930】（雄, 1957 年 7 月 16 日, Rr3）、【49931】（雌, 1957 年 7 月 16 日, Rr4）の 3 点が確認された。

〔天城村（三京）〕

太田、宇田川、松井は亀津から井之川岳に向かい、営林署担当区の造林小屋のある三京集落に到着した。ここで 2 日間調査を行ったが、農家に依頼した罠で 1 頭のクマネズミを捕獲したのみである（太田 1958a）。これに該当する標本は仮剥製【49928】（徳之島町三京, 1957 年 7 月, R19）である。調査日程からこの標本の採集日は「1957 年 7 月 14 日 -16 日」としてよいだろう。

〔ケナガネズミ〕

調査対象であったケナガネズミは調査団による採集では捕獲できなかった。このため、鹿児島県農業試験場大島分場栄政文技師が所持していた標本を譲り受けている。この標本は現在確認することができない。

一連の標本の採集番号は、太田が採集に関わったものは採集地に関わらず通し番号になっているが、太田以外による採集標本は、笠利村、亀津村で別の番号が与えられている。ここで検討した HUNHM 所蔵標本はすべて太田嘉四夫採集標本としているが、両村で採集した標本については調査団とすることが妥当であり、あるいはドブネズミ、クマネズミも住民に依頼して採集していることから、すべての標本を調査団採集とするのが妥当かもしれない。

この調査で採集したネズミ科標本のうち、ケナガネズミ 1 点、アマミトゲネズミ 1 点、ドブネズミ 1 点、クマネズミ 7 点の所在が確認できない。平岩ら（1958）は調査後に笠利村の住民から送られたハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミの情報を追記している。これらも HUNHM に確認できないので、所在不明の標本も含め調査団のメンバーが所持していたのかかもしれないが、現時点で見出しえていない。

14. 日本動物学会ネズミ研究グループ奄美大島調査団関連標本

<i>Rattus norvegicus</i>		ドブネズミ : Brown Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49866	1	female	奄美大島笠利町	1957.07.07	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rn-2	
HUNHM49867	1	male	奄美大島住用村西仲間	- → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	N-1	
<i>Rattus rattus</i>		クマネズミ : Roof Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49908	1	-	奄美大島住用村	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-2	
HUNHM49909	1	-	奄美大島住用村	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-3	
HUNHM49910	1	-	奄美大島住用村西仲間	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-7	
HUNHM49911	1	-	奄美大島笠利町	1957.07.03 → [奄美大島調査団]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-1	
HUNHM49912	1	female	奄美大島笠利町	1957.07.06 → [奄美大島調査団]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-7	
HUNHM49914	1	-	奄美大島住用村役勝	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-1	
HUNHM49915	1	-	奄美大島住用村	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-4	
HUNHM49916	1	-	奄美大島住用村西仲間	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-5	
HUNHM49917	1	-	奄美大島住用村西仲間	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-8	
HUNHM49918	1	-	奄美大島住用村役勝	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-9	
HUNHM49919	1	-	奄美大島住用村役勝	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-10	

HUNHM49920	1	-	奄美大島住用村役勝	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-11
HUNHM49921	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-12
HUNHM49922	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-13
HUNHM49923	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-14
HUNHM49924	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-15
HUNHM49925	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-16
HUNHM49926	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-17
HUNHM49927	1	-	- → [奄美大島住用村]	1957.07.00 → [1957.07.02-07]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-18
HUNHM49928	1	-	徳之島三京 → [徳之島天城村三京]	1957.07.00 → [1957.07.14-16]	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	R-19
HUNHM49929	1	male juv.	徳之島亀津	1957.07.14	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-1
HUNHM49930	1	male	徳之島亀津	1957.07.16	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-3
HUNHM49931	1	female	徳之島亀津北区	1957.07.16	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-4
HUNHM49932	1	male	奄美大島笠利町	1957.07.05	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-6
HUNHM49933	1	female	奄美大島笠利町	1957.07.06	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	Rr-9

Tokudaia osimensis

アマミトゲネズミ : Amami-oshima Island Spiny Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49783	1	male	奄美大島湯湾	1957.07.10	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	T-1	
HUNHM49784	1	male	奄美大島湯湾上大久保	1957.07.12	太田嘉四夫 → [奄美大島調査団]	T-3	

15. 小林恒明・藤倉仁郎による洞爺湖採集標本（1957 年）

太田嘉四夫の採集標本が保管されていた標本箱の中に図 21 に示したような動物学教室のラベルが付属する頭骨が 39 点含まれていた。この頭骨群には図 22 に示した「洞爺湖中島産の鼠類の測定値」というリストが同梱されており、ラベルの番号とリストの番号との照合によって、1957 年 7 月から 10 月にかけて洞爺湖大島、弁天島で採集されたヒメネズミ、アカネズミ、エゾヤチネズミ、ドブネズミであると判断された。なお、「16」、「17」のドブネズミの 2 体の頭骨が確認できていない。

現行標本台帳ではこれらの頭骨標本をリストの情報を付記した形で太田採集標本として取り扱っている。しかしながら、太田はまとまった形の採集標本については何らかの形で報告しているが、この標本群についての報告を行っていない。この点について検討するために、洞爺湖で実施されたネズミ類調査に関する論文、報告、アーカイブを探索した。

上田ら（1970a, 1970b; 上田 1971）は、1970 年 4 月に洞爺湖中島で 5 頭の「黒いネズミ」が捕獲され、4 頭が中島にある森林博物館に、1 頭が林業試験場野鼠研究室に届けられたことを報告している。これらは従来ほとんど事例のないエゾヤチネズミの黒変種であり、まとまった個体数が確認されたことから、6 月 13 日から 15 日にかけて追加調査を実施し、さらに 2 個体の黒変エゾヤチネズミを採集した。上田らはこのエゾヤチネズミ黒変種の検討にあたって、過去の採集標本についても調査を行い、北大動物学教室の学生であった小林恒明と藤倉仁郎が 1959 年の 7 月と 10 月に行った未発表の調査で、大島で採集したエゾヤチネズミ 12 頭のうち 3 頭、弁天島採集の 12 頭のうち 1 頭が黒変種であったことを確認した。

上田らが小林から提供された種別の採集点数と HUNHM に移管されたリストに記載されている採集点数を表 15 に示す（上田ら 1970b）。この点数が、大島で 7 月に採集されたエゾヤチネズミの 2 点を除き、HUNHM に移管されたリストの点数と合致すること、リストの「12」のエゾヤチネズミに「Black」とあり、少なくとも 1 頭の黒変種を採集していたことから、このリストに対応する頭骨群は小林・藤倉の採集標本であることが確認される。また、エゾヤチネズミ頭骨【49543】は「No.12」の個体であることから、黒変種の頭骨であることも付記できることになる。

この頭骨に対応する剥製は、上田が所持していたと考えられるが、上田が所属していた農林省林業試験場北海道支場（現在の森林総合研究所北海道支所）には現在所蔵されていない（小林宏忠氏 私信）。

なお、標本のリストにある採集年次は「1957 年」であるが、上田ら（1970a, 1970b）及び上田（1972）は小林と藤倉の調査を「1959（昭和 34）年」とする。表 15 として示した上田ら（1970a）の表には「昭和 32 年のネズミ採集記録（小林・藤倉）」と記載してあるものの、本文に誤りがあることには注意が必要である。

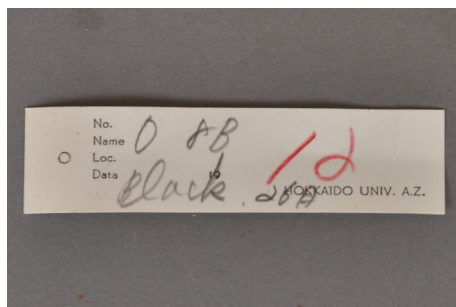


図 21. 洞爺湖採集標本に付属する応用動物学教室の標本ラベル。【49543】のもの

洞爺湖中島産の鼠類の測定値											
産地	種類	性	番号	体長	頭胴長	尾長	耳長	趾長	歯長	歯所	その他
弁天島	B	♀	1	32.9	153	5.5	17	12	—	B	(1/27) 26
"	"	"	2	28.2	140	5.2	19	12	—	"	"
"	"	♂	3	45.8	174	5.5	19	16.5	28.5	"	27
"	"	♀	4	31.8	168	5.1	20	16	—	"	"
"	"	不明	5	—	—	5.1	18	—	—	"	"
"	"	♂	6	40.4	163	5.3	20	15.5	27	"	27
"	"	"	7	32.8	161	5.8	22	15	30.3	"	30
"	A	♀	8	42.5	230	12.0	25	17.5	—	"	+ 27
"	"	♂	9	50	212	11.4	26	16	—	"	+ 28
"	"	♀	10	42	113 ^(4B)	—	26	16	30.3	"	+ 30
"	N	♀	11	66.7	231	11.0	30	16	34	"	27 26
大島	Black	♂	12	50	174	5.2	20	15.5	—	A	26
"	"	"	13	41.7	168	4.8	19	13	—	"	28
"	"	—	14	50	171	5.0	19	17	27.5	Cage trap	"

図 22. 洞爺湖採集標本に付属していた標本リスト

表 15 上田ら（1970）による洞爺湖採集小林・藤倉の記録と HUNHM 所蔵標本リストの比較

	上田ら（1970b）				HUNHM			
	弁天島		大島		弁天島		大島	
	7 月	10 月	7 月	10 月	7 月	10 月	7 月	10 月
野生種のエゾヤチネズミ	7	4	1	8	7	5	4	10
黒変種のエゾヤチネズミ	0	1	1	2				
エゾアカネズミ	2	0	0	0	3	0	0	0
ヒメネズミ	0	1	0	7	0	1	0	7
ドブネズミ	0	0	1	1	1	0	(2)	1

HUNHM のリストでは野生種と黒変種を区別していないため合算している
大島で 7 月に採集された 2 頭のドブネズミは HUNHM に確認できない

15. 小林恒明・藤倉仁郎による洞爺湖採集標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49536	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.07.26	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.1	
HUNHM49537	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.07.26	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.2	
HUNHM49538	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.07.27	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.3	
HUNHM49539	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.07.27	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.4	
HUNHM49540	2	-	洞爺湖弁天島 B	1957.07.27	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.5	
HUNHM49541	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.07.29	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.6	
HUNHM49542	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.07.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.7	
HUNHM49543	2	male	洞爺湖大島 A	1957.07.26	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.12	Black
HUNHM49544	2	male	洞爺湖大島 A	1957.07.28	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.13	
HUNHM49545	2	-	洞爺湖大島 A	1957.07.28	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.14	
HUNHM49546	2	female	洞爺湖大島 A	1957.07.29	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.15	
HUNHM49547	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.09.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.21	
HUNHM49548	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.09.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.22	
HUNHM49549	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.23	
HUNHM49550	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.24	
HUNHM49551	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.25	
HUNHM49552	2	female	洞爺湖大島 A	1957.09.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.27	
HUNHM49553	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.01	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.28	
HUNHM49554	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.01	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.29	
HUNHM49555	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.01	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.30	
HUNHM49556	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.02	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.31	
HUNHM49557	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.02	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.32	
HUNHM49558	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.33	
HUNHM49559	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.34	
HUNHM49560	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.04	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.35	
HUNHM49561	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.04	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.36	

<i>Apodemus argenteus</i>		ヒメネズミ：Small Japanese Field Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49150	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.09.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.26	
HUNHM49151	2	male	洞爺湖大島 A	1957.09.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.37	
HUNHM49152	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.01	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉仁郎]	No.38	

HUNHM49153	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.01	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.39
HUNHM49154	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.02	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.40
HUNHM49155	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.03	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.41
HUNHM49156	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.04	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.42
HUNHM49157	2	female	洞爺湖大島 A	1957.10.04	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.43

Apodemus speciosus アカネズミ : Large Japanese Field Mouse

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49247	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.07.27	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.8	
HUNHM49248	2	male	洞爺湖弁天島 B	1957.07.28	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.9	
HUNHM49249	2	female	洞爺湖弁天島 B	1957.07.30	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	No.10	

Rattus norvegicus ドブネズミ : Brown Rat

	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49905	2	female juv.	洞爺湖弁天島 B	1957.07.26	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	洞爺 -11	
HUNHM49906	2	male	洞爺湖大島 A	1957.10.02	太田嘉四夫 → [小林恒明・藤倉二郎]	洞爺 -44	

16. その他調査関連標本

最後に、論文との照合で若干数の対応がみられたものについてまとめて報告する。

16-1. 島牧における鼠害調査

犬飼・芳賀（1959）は後志島牧村の野ネズミの異常発生について調査、報告を行っている。調査は8月4日に宮内温泉付近の小豆畑及び水田、カラマツ造林地に罠を設置し、小豆畑でアカネズミ2頭、水田でドブネズミ1頭を捕獲している。

これに該当するものは、ドブネズミ仮剥製【07870】（島牧水田，1959年8月5日）である。この標本には荷札ラベルが付属し「島牧（水田），'59.8.5，ドブ，210g」の記載がある。また、アカネズミ【08326】（雄，小豆畑，1959年8月5日）には、ラベル4に「3676」の印番号があり、1930年ごろに管理されていた形跡はあるものの、別の荷札ラベルに「'59.8.5，小豆畑，アカ，49g」とあり、整合性が取れない標本である。しかし、Tokuda（1932）の検討で触れたように、このラベル4はハツカネズミ【08288】に付属していたものであって、アカネズミ【08326】の基礎情報としては荷札ラベルが適切なものである。採集日、採集地の「小豆畑」、荷札ラベルの記載方法の共通性から、【08326】は犬飼・芳賀（1959）の調査標本として、島牧村小豆畑採集標本と取り扱ってよい。

16-2. パイロットフォレストにおける鼠害予察調査

太田らは、1958年5月から1959年7月にかけて北海道東部別寒辺牛川上・中流に位置するパイロットフォレストにおいて、カラマツ造林地の鼠害の予察のための調査を実施していた（太田・阿部 1958, 1959; 太田 1958c, 1959; 太田・藤倉 1959a, 1959b; 阿部・藤倉 1959）。太田らは調査ごとに調査区を変更しながら採集を行っていた。

動物学教室旧蔵標本の中に含まれていたパイロットフォレスト採集標本はエゾヤチネズミ【49440】（パイロットフォレスト，1959年8月）のみである。これは太田・藤倉（1959b）が紹介した調査で採集されたものと推測され、エゾヤチネズミが採集された平坦立木地での採集個体と推測される。なお、この標本には足環が付属している。HUNHMには足環とともに保管されていたミカドネズミ頭骨が28点確認されるが、採集地、採集日とも不明であり、この足環の付属がパイロットフォレスト採集標本であるという証拠にはならない。

太田らが設定した調査区にはパイロットフォレストの各林班の「広い沢」、「狭い沢」という名称が与えられていた。エゾトガリネズミ【49806】には詳細な採集地はないものの「ひろい沢，No.402」という情報が付属している。これもパイロットフォレスト採集の可能性はあるが、一連の採集番号や同様の採集地情報を持つ標本を他に確認することができないので、検討する材料に乏しい。

阿部コレクションには当該期から1970年代にかけてパイロットフォレストで採集されたネズミ類、トガリネズミ類の標本が多数含まれている。阿部は太田が関与した調査以降も当該地域を調査フィールドとして利用していたことから、太田との共同調査の際に採集した個体の標本を個人コレクションとして所持していたものとみられる。一方、太田は他地域の調査と異なり、標本を作製して体系的に保存するという処理を積極的に行っていなかった可能性が高い。

16-3. 太田（1968）に引用された野ネズミ頭骨

太田（1968）は、第1図として当時の分類におけるハタネズミ亜科数種の頭骨の写真、第3図としてアカネズミ属3種の頭骨の写真を示している。写真は不鮮明であり、現存標本と照合することは難しいが、ヨーロッパヤチネズミには「G」、ヤチネズミには「1231 ♂」、キタハタネズミには「Ma」、ハタネズミには「M.2188 ♀」、ツンドラハタネズミには「Mo」の注記があることが読み取れる。HUNHM 現存標本にはこの注記を持つ頭骨標本を確認することができなかった。ただし、ヤチネズミ「1231 ♂」はヤチネズミ仮剥製【49750】に付属する「M1231」の番号と合致し、ハタネズミ「M.2188」はハタネズミ仮剥製【49755】に付属する「M2188」の番号と合致する。これらはいずれも国立科学博物館の登録番号であり、太田は本州産のネズミの頭骨を示すにあたって、国立科学博物館の標本を入手して引用したものとみられる。太田が国立科学博物館の標本を意図的に利用していたと考えた場合、スミスネズミ仮剥製・頭骨【49770】もその対象となりうる。ただし、この頭骨には薄い文字ではあるが頭頂部に「1739」という国立科学博物館の標本番号が記載されているのに対し、太田（1968）ではその文字を読み取ることができない。形状としては類似するものの確定させることはできない。

16. その他調査関連標本

<i>Myodes rufocanus</i>		タイリクヤチネズミ：Gray Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49440	1	-	パイロットフォレスト	1959.08.00	太田嘉四夫	-	
→ [1959.08.01-03]							
<i>Myodes andersoni</i>		ヤチネズミ：Anderson's Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49750	1	male	長野県北安曇郡八方山八方池上方 2100m	1951.05.28	今泉吉典	M.1231	
<i>Microtus montebelli</i>		ハタネズミ：Japanese Grass Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49755	1	female	東京都赤羽	1953.01.18	那波	M.2188/1577	
<i>Myodes smithii</i>		スミスネズミ：Smith's Red-backed Vole					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM49770	3	male	神奈川県奥湯河原	1952.02.04	佐々学	M.1739/1273	
<i>Apodemus speciosus</i>		アカネズミ：Large Japanese Field Mouse					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM08326	1	male	小豆畑 → [島牧村宮内温泉付近小豆畑]	1959.08.05	- → [犬飼哲夫・芳賀良一]	-	ラベル混入あり
<i>Rattus norvegicus</i>		ドブネズミ：Brown Rat					
	status	Sex	Locality	Date	Collector	Coll. #	Notes
HUNHM07870	1	-	島牧水田 → [島牧村宮内温泉付近小豆畑]	1959.08.05	- → [犬飼哲夫・芳賀良一]	-	

おわりに

HUNHM に所蔵されているネズミ科標本について、過去の論文等と照合しつつ付属情報の問題について検討を進めてきた。現在標本に付属していないように見える採集情報も、公表された論文やアーカイブを利用することで、復元、修正することが可能で、標本の研究資源としての価値を向上させることができることを示すことができた。その一方で、論文や報告の情報と標本に付属する情報との齟齬も多く確認できた。これが報告者による誤りなのか、標本に付属しているラベルの情報に誤りがあるのか、検討を継続しなければならない課題も多い。その検討にあたっては、本稿で示してきたように採集者の残したフィールドノートなどのアーカイブの価値は極めて高い。また、標本ラベルも一種のアーカイブである。標本だけでなく、標本の周辺にあるこれらの保全についても今後注力する必要があるだろう。

本稿では、1970 年代初頭までの論文を対象に検討を行った。1970 年代以降は、HUNHM 所蔵標本や動物学教室旧蔵標本を利用して行われた研究はほとんど確認できず、阿部の標本を利用して行われたものが大部分である。これらについては、阿部の標本番号や整備された採集情報が引用されているので本稿では取り扱わないこととした。しかし、HUNHM では本稿及び阿部コレクション目録（北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園 2013）によって示した標本のほか、学生の卒業・修了論文調査の採集標本などの未発表の研究の成果や研究林など大学施設における継続調査などで採集された死体など、近年も標本や死体の受入れを継続して行っており、ネズミ科の所蔵標本点数は 8,200 点を超える。このうち、HUNHM で剥皮・標本化したものについては、胴部を液浸にして保管しており、遺伝子サンプルの採取や胃内容物などの調査も容易である。今後も標本情報の精査を継続しつつ目録やデータベースの形で公開してゆく予定である。北海道大学における研究の蓄積が新たな形で有効利用されることを期待している。

本稿執筆にあたり、京都大学総合博物館本川雅治氏、国立科学博物館川田伸一郎氏、山階鳥類研究所平岡孝氏、森林総合研究所小林宏忠氏から標本調査の便宜や各機関所蔵標本についての情報を提供していただいた。記して謝意を表したい。

本稿は、「研究資源価値向上を目的とする標本情報の復元におけるアーカイブの役割に関する研究」（科学研究費補助金 基盤研究 (C) 19K01138）による成果の一部である。

引用文献

- 阿部永．1957. 藻岩山のネズミの変動．野ねずみ, 18: 5-6
- 阿部永．1966. 北海道産野ネズミ類の生息環境．日本応用動物昆虫学会誌, 10 (2) : 78-83
- 阿部永．1968. ヤチネズミ 2 型の成長と发育 1. 外形形質, 体重, 性成熟および行動．北海道林業試験場報告, 6: 69-89
- Abe, H. 1973a. Growth and Development in Two Forms of Clethrionomys : II . Tooth Characters, with special reference to phylogenetic relationships. 北海道大学農学部紀要, 57 (2) : 229-254
- Abe, H. 1973b. Growth and Development in Two Forms of Clethrionomys : III . Cranial characters, with Special reference to phylogenetic relationships. 北海道大学農学部紀要, 57 (2) : 255-274
- 阿部永, 藤倉仁郎．1959. バイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (5) . 樹氷, 9 (4) : 28-34
- 芳賀良一．1955a. 水田地帯におけるドブネズミ個体群の越冬による変動と北海道の農業鼠害の考察．北海道大学農学部邦文紀要, 2 (3) : 97-104
- 芳賀良一．1955b. 降雪期（積雪初期）の鼠害．野ねずみ, 2: 1-2
- 芳賀良一．1958. ナキウサギの実験動物科に関する生態学的研究．実験動物, 7 (3) : 69-80
- 芳賀良一, 高津昭三, 阿部永．1956. 笹枯地における野鼠生息数の変動．野ねずみ, 14: 7-8
- 八田三郎．1911. 熊．89p, 富山房、東京
- 八田三郎．1933. 日本の鹿．植物及動物, 1 (4) : 509-516
- 八田三郎, 村田庄次郎．1905. 北海道産鳥類目録．札幌博物学会会報, 1 (1) : 51-71
- 平岩磐邦, 太田嘉四夫, 宇田川竜男, 佐藤淳夫, 松井孝爾, 内田照章．1958. 奄美群島生物調査報告：特に鼠と蛇との関係を追求して．九州大学農学部学藝雑誌, 16 (4) : 525-546
- 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園（編）．2004. T.W. ブラキストン鳥類目録．北大植物園資料目録 2. 89p, 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園, 札幌
- 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園（編）．2013. 阿部永博士寄贈哺乳類標本目録．北大植物園資料目録 7. 150p, 北海道大学北方生物圏フィールド科学センター植物園, 札幌
- 犬飼哲夫．1939. 樺太に発生したドブ鼠の大群とその被害．植物及動物, 7 (12) : 2039-2051
- 犬飼哲夫．1949a. 野鼠駆除のため北海道近島ヘイタチ放飼とその成績．札幌博物学会会報, 18 (3/4) : 56-59
- 犬飼哲夫．1949b. 野鼠．35p, 林業解説シリーズ 21, 日本林業技術協会, 東京
- 犬飼哲夫, 芳賀良一．1959. 島牧村の野鼠の異常発生について．野ねずみ, 34: 6-7

Inukai, T. and Mukasa, K. 1943. Über Reptilien und Amphibien aus den Südkurilen, besonders über eine seltene fremde Schlange aus der Insel Shikotan..

北海道帝國大學理學部紀要, Ser. VI :9 (1) : 71-75

加藤克. 2002. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(1). 北大植物園研究紀要, 2: 69-84

加藤克. 2003. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(2). 北大植物園研究紀要, 3: 63-80

加藤克. 2004. 札幌農学校所属博物館のアイヌ民族資料. 北大植物園研究紀要, 4: 1-54

加藤克. 2006. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(3). 北大植物園研究紀要, 6: 37-57

加藤克. 2007. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(4). 北大植物園研究紀要, 7: 35-55

加藤克. 2008. 北海道大学植物園所蔵アイヌ民族資料について: 歴史的背景を中心に. 北大植物園研究紀要, 8: 35-91

加藤克. 2011. 史料紹介『札幌農学校所属博物館標本採集日記』(5). 北大植物園研究紀要, 11: 25-47

加藤克. 2012a. プラキストン「標本」史. 348p, 北海道大学出版会, 札幌

加藤克. 2012b. 標本ラベルからみた樺太動物調査鳥類標本について. 北大植物園研究紀要, 12: 91-114

加藤克(編). 2018. プラキストン標本目録 第2版. 80p, Hokkaido University Natural History Museum, 札幌

加藤克. 2019. HUNHM 所蔵アイヌ民族資料収集情報の再検討を可能とする史料について. 札幌博物場研究会誌, 2019: 1-77

加藤克, 市川秀雄. 2004. 北大植物園・博物館所蔵アメリカ自然史博物館鳥類標本について. 北大植物園研究紀要, 4: 65-75

加藤克, 市川秀雄, 高谷文仁. 2009. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (1): 東京仮博物場から札幌農学校所属博物館初期まで. 北大植物園研究紀要, 9: 29-94

加藤克, 市川秀雄, 高谷文仁. 2010. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (2): 明治期の札幌農学校所属博物館. 北大植物園研究紀要, 10: 9-96

加藤克, 市川秀雄, 高谷文仁. 2012. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (3): 大正～昭和期の博物館. 北大植物園研究紀要, 12: 1-84

加藤克, 市川秀雄, 高谷文仁. 2014. 札幌農学校所属博物館における鳥類標本管理史 (4): 標本ラベルの変遷からみた管理史. 北大植物園研究紀要, 14: 1-44

加藤克, 高谷文仁, 市川秀雄. 2011. 研究者の遺した写真を用いた標本情報の収集について: ヒゲマ頭骨標本を一例に. 北大植物園研究紀要, 11: 1-19

黒田長禮. 1933. 千島列島に於ける哺乳類の分布. 日本生物地理學會會報, 3 (3) : 151-167

黒田長禮. 1939. 北海道産ミカドネズミに就て. 植物及動物, 7 (1) : 29-34

武笠耕三, 芳賀良一. 1954. 水稻の鼠害と水田に於けるドブネズミの生態. 北海道農試彙報, 66: 56-69

村田庄次郎. 1900a. 北海道鳥類一斑. 動物学雑誌, 12 (142) : 287-290

村田庄次郎. 1900b. 北海道鳥類一斑 (二). 動物学雑誌, 12 (144) : 365-369

村田庄次郎. 1901a. 北海道鳥類一斑. 動物学雑誌, 13 (147) : 19-23

村田庄次郎. 1901b. 北海道鳥類一斑. 動物学雑誌, 13 (153) : 231-235

村田庄次郎. 1902. 北海道鳥類一斑 (續き). 動物学雑誌, 14 (169) : 403-406

村田庄次郎(編). 1910. 札幌博物館案内. 68p, 維新堂, 札幌

村田庄次郎. 1914. 樺太動物調査報告. 91p, 樺太庁, 樺太

太田嘉四夫. 1951. 住家性ネズミ類のとれ方 II. 性比, 年齢構成, 生殖状態及び家の住み分け. 動物学雑誌, 60 (3) : 70-73

太田嘉四夫. 1952. 札幌市の住家性鼠類の調査 (2). 1947 年及び 1948 年冬季における捕獲鼠の種類とその分布及び季節的消長について. 北海道大学農学部邦文紀要, 1 (2) : 132-139

太田嘉四夫. 1954. 北海道における野ネズミの分布. 北方林業, 6 (11) : 237-239

太田嘉四夫. 1955a. 北海道産野ネズミ類の分布について. 日本生物地理学会報, 16 (19) : 84-87

太田嘉四夫. 1955b. 札幌競馬場の野ネズミの生態. 北方林業, 7 (3) : 47-51

太田嘉四夫. 1956a. 北海道の高山のネズミ類. II 大雪山のネズミ類. 動物学雑誌, 65 (9) : 11-15

太田嘉四夫. 1956b. 北海道の離島の鼠類. 北海道大学農学部邦文紀要, 2 (4) : 123-136

太田嘉四夫. 1956c. 厚岸湾大黒島と奥尻島の鼠禍. 野ねずみ, 11: 5-6

太田嘉四夫. 1956d. 本州のネズミと北海道のネズミ. 野ねずみ, 16: 5-6

太田嘉四夫. 1957a. 奄美大島のネズミとり 1. 野ねずみ, 20: 6-8

太田嘉四夫. 1957b. 奄美大島のネズミとり 2. 野ねずみ, 22: 7-9

太田嘉四夫. 1958a. 奄美大島のネズミとり 3. 野ねずみ, 23: 5-6

太田嘉四夫. 1958b. 奄美大島のネズミとり 4. 野ねずみ, 24: 3-6

太田嘉四夫. 1958c. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (2). 樹氷, 8 (12) : 18-24

太田嘉四夫. 1959. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (4). 樹氷, 9 (3) : 30-37

太田嘉四夫. 1960. 1959-1960 年の札幌市の野鼠の消長. 野ねずみ, 41: 3-5

- 太田嘉四夫. 1968. 北海道産ネズミ類の生態的分布の研究. 北海道大学農学部演習林研究報告, 26 (1) : 223-295
- 太田嘉四夫, 阿部永. 1958. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告. 樹氷, 8 (7) : 14-17
- 太田嘉四夫, 阿部永. 1959. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (3). 樹氷, 9 (2) : 28-34
- 太田嘉四夫, 藤倉仁郎. 1959a. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (6). 樹氷, 9 (7) : 12-25
- 太田嘉四夫, 藤倉仁郎. 1959b. パイロットフォレスト野ネズミ調査報告 (7). 樹氷, 9 (12) : 32-37
- 太田嘉四夫, 芳賀良一, 高津昭三. 1956. 北海道の高山のネズミ類 I 羊蹄山における野鼠の垂直分布. 動物学雑誌, 65 (8) : 32-34
- 太田嘉四夫, 長谷川恩. 1950. 住家性ネズミ類のとれ方. I. ワナの種類, ワナかけ場所によるとれ方のちがい. 動物学雑誌, 59 (12) : 19-23
- 太田嘉四夫, 長谷川恩, 上田明一. 1949. 札幌市の住家性鼠類の調査 (1). 1946-1947 年冬季における捕獲鼠の種類とその分布について. 札幌博物学会報, 18 (3/4) : 60-64
- 太田嘉四夫, 牧野佐二郎. 1950. 野生ドブネズミの採集品に現われた色変り個体の二三. 遺伝学雑誌, 25 (3/4) : 100-103
- 太田嘉四夫, 高津昭三. 1957. 北海道奥尻島の鼠類. 日本応用動物昆虫学会誌, 1 (2) : 95-99
- 太田嘉四夫, 高津昭三, 阿部永. 1959. 札幌藻岩山における小哺乳類の数の変動: I. 個体群の季節的变化. 北海道大学農学部邦文紀要, 3 (2) : 49-69
- 太田嘉四夫, 上田明一. 1949. エゾアカネズミの害について. 札幌農林学会報, 38 (2) : 19-24
- 沖野慎二. 2000. 北海道大学農学部博物館のアイヌ民族資料 (中). 北海道立アイヌ民族文化研究センター研究紀要, 6: 1-18
- 関秀志. 1991. 明治期における北海道の博物館 (2). 北海道開拓記念館調査報告, 30: 91-118
- 関秀志, 中田幹雄, 千代肇. 1990. 明治期における北海道の博物館 (1). 北海道開拓記念館調査報告, 29: 113-139
- 高津昭三, 太田嘉四夫. 1956. 野鼠類の種間関係の研究 II. 北海道大学農学部邦文紀要, 2 (4) : 132-146
- 高谷文仁, 市川秀雄, 加藤克. 2010. クマ頭骨標本の受け入れについて. 北大植物園 技術報告・年次報告, 8: 2-9
- Tokuda, M. 1932. A list of the specimens of Muridae from Northern Japan kept in the University Museum of Natural History in Sapporo with a description of a new subspecies. 札幌博物学会会報, 12 (4) : 206-211
- 上田明一. 1972. エゾヤチネズミの黒変種をめぐる問題点. 森林防疫, 21 (1) : 10-12
- 上田明一, 五十嵐文吉, 前田満, 桑畑勤. 1970a. 洞爺湖にエゾヤチネズミの黒変種生息. 北方林業, 22 (10) : 23-24
- 上田明一, 五十嵐文吉, 前田満, 桑畑勤. 1970b. 洞爺湖・中島にエゾヤチネズミの黒変種が生息している. 野ねずみ, 98: 1-2
- 山階芳麿. 1930. 札幌博物館所蔵北日本産鳥類標本数種に就いて. 鳥, 6 (29) : 219-242
- Yamashina, Y. and Ikeda, S. 1935. A List of Birds' Skin Belonging to Anatidae Kept in the University Museum. 札幌博物学会会報, 14 (1) : 57-67
- Yamashina, Y., Inukai T. and B. Natori. 1932. A list of birds' skins presented by Captain Blakiston in the University Museum of Natural History of Sapporo with a brief account of his life in Hokkaido.. 札幌博物学会会報, 12 (4) : 215-226
- Yamashina, Y. and Mukasa, K. 1934. A List of Birds' Skin Belonging to the Order Accipitres Kept in the University Museum. 札幌博物学会会報, 13 (3) : 287-297